

bizhub 501/421/361

ユーザーズガイド ネットワーク管理者編



はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このユーザーズガイドでは、bizhub 501/421/361 のネットワークを利用した各機能について、おもに PageScope Web Connection を使用した設定方法を記載しています。本機の性能を十分に発揮させて、効果的にご利用いただくために、ご使用の前にこのユーザーズガイドを最後までお読みください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全にお使いいただくために」をお読みください。

商標およびライセンスについては、別冊の「商標／ライセンスについて」をごらんください。

ユーザーズガイド内で使用しているイラストなどは、実際の装置とは異なる場合があります。

目次

はじめに	1
目次	2
本書について	8
本書の構成	8
表記について	8
ページの見かた	9
マニュアル体系について	11
印刷物のユーザーズガイド	11
ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド	11

第1章 目的別の設定項目

1.1 TCP/IP で通信するための基本設定を行う	1-2
1.2 PageScope Web Connection を使用する	1-4
1.2.1 TCP/IP 設定	1-4
1.2.2 PSWC 設定	1-4
1.2.3 TCP Socket 設定	1-5
1.2.4 SSL/TLS 設定	1-5
1.3 PageScope Web Connection の管理者モードにログインする	1-6
1.4 本機の証明書を作成して SSL で通信する	1-7
1.4.1 証明書を自己で作成する	1-7
1.4.2 証明書の発行要求をする	1-8
1.4.3 証明書をインストールする	1-10
1.4.4 暗号強度を設定する	1-11
1.4.5 SSL 使用モードを設定する	1-11
1.4.6 証明書を破棄する	1-12
1.5 本機の証明書を取得する	1-13
1.5.1 証明書を作成する	1-13
1.5.2 証明書をダウンロードする	1-13
1.6 本機にユーザーの証明書を登録する	1-14
1.6.1 E-mail 宛先	1-14
1.6.2 証明書の自動取得	1-15
1.7 本機の日時を設定する	1-16
1.7.1 手動設定	1-16
1.7.2 TCP/IP 設定	1-17
1.7.3 タイムゾーン	1-17
1.7.4 時刻補正設定	1-17
1.8 スキャンしたデータを Windows コンピューターに送信する	1-18
1.8.1 TCP/IP 設定	1-18
1.8.2 クライアント設定	1-19
1.8.3 Direct Hosting 設定	1-20
1.8.4 WINS 設定	1-21
1.9 スキャンしたデータを E-mail で送信する	1-22
1.9.1 TCP/IP 設定	1-22
1.9.2 E-mail 送信 (SMTP)	1-23
1.9.3 SMTP over SSL/Start TLS	1-24
1.9.4 SMTP 認証	1-25
1.9.5 POP before SMTP	1-26
1.9.6 POP over SSL	1-27
1.9.7 APOP 認証	1-28
1.10 スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付）	1-29

1.10.1	TCP/IP 設定	1-29
1.10.2	E-mail 送信 (SMTP)	1-29
1.10.3	証明書を作成する	1-30
1.10.4	S/MIME	1-30
1.10.5	SMTP over SSL/Start TLS	1-30
1.10.6	SMTP 認証	1-30
1.10.7	POP before SMTP	1-30
1.10.8	POP over SSL	1-31
1.10.9	APOP 認証	1-31
1.11	スキャンしたデータを E-mail で送信する（公開鍵による暗号化）	1-32
1.11.1	TCP/IP 設定	1-32
1.11.2	E-mail 送信 (SMTP)	1-32
1.11.3	S/MIME	1-33
1.11.4	SMTP over SSL/Start TLS	1-33
1.11.5	SMTP 認証	1-33
1.11.6	POP before SMTP	1-33
1.11.7	POP over SSL	1-33
1.11.8	APOP 認証	1-34
1.12	E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する	1-35
1.12.1	TCP/IP 設定	1-35
1.12.2	手動宛先入力	1-36
1.12.3	LDAP 設定	1-36
1.12.4	LDAP サーバー登録	1-37
1.12.5	LDAP over SSL	1-38
1.12.6	DNS サーバー設定	1-39
1.12.7	日時設定	1-39
1.13	スキャンしたデータを FTP で送信する	1-40
1.13.1	TCP/IP 設定	1-40
1.13.2	FTP 送信設定	1-41
1.14	スキャンしたデータを WebDAV で送信する	1-42
1.14.1	TCP/IP 設定	1-42
1.14.2	WebDAV 設定	1-43
1.14.3	WebDAV over SSL	1-44
1.15	インターネットファクスを送信する	1-45
1.15.1	TCP/IP 設定	1-46
1.15.2	インターネットファクス機能	1-46
1.15.3	本体情報を登録する	1-47
1.15.4	発信元 / ファクス ID 登録	1-48
1.15.5	E-mail 送信 (SMTP)	1-49
1.15.6	I-Fax 拡張設定	1-49
1.15.7	SMTP over SSL/Start TLS	1-49
1.15.8	SMTP 認証	1-49
1.15.9	POP before SMTP	1-50
1.15.10	POP over SSL	1-50
1.15.11	APOP 認証	1-50
1.16	インターネットファクスを受信する	1-51
1.16.1	TCP/IP 設定	1-51
1.16.2	インターネットファクス機能	1-51
1.16.3	E-mail 受信 (POP)	1-52
1.16.4	I-Fax 拡張設定	1-53
1.16.5	POP over SSL	1-53

1.16.6	APOP 認証	1-53
1.17	IP アドレスファクスを送受信する	1-54
1.17.1	TCP/IP 設定	1-54
1.17.2	IP アドレスファクス機能	1-55
1.17.3	SMTP 送信設定	1-55
1.17.4	SMTP 受信設定	1-56
1.17.5	発信元 / ファクス ID 登録	1-56
1.18	SIP ファクスを送受信する	1-57
1.18.1	TCP/IP 設定	1-57
1.18.2	SIP ファクス機能	1-58
1.18.3	SMTP 送信設定	1-58
1.18.4	SMTP 受信設定	1-58
1.18.5	発信元 / ファクス ID 登録	1-58
1.19	TWAIN スキャンでボックス内の画像を取り込む	1-59
1.19.1	TCP/IP 設定	1-59
1.19.2	SLP 設定	1-59
1.19.3	TCP Socket 設定	1-60
1.20	プリントする (LPR/Port9100)	1-61
1.20.1	TCP/IP 設定	1-61
1.20.2	LPD 設定	1-61
1.20.3	RAW ポート番号	1-61
1.21	プリントする (SMB)	1-62
1.21.1	TCP/IP 設定	1-62
1.21.2	プリント設定	1-63
1.21.3	WINS 設定	1-63
1.21.4	Direct Hosting 設定	1-63
1.22	プリントする (IPP)	1-64
1.22.1	TCP/IP 設定	1-64
1.22.2	IPP 設定	1-65
1.22.3	IPP 認証設定	1-65
1.23	プリントする (IPPS)	1-66
1.23.1	TCP/IP 設定	1-66
1.23.2	IPP 設定	1-66
1.23.3	SSL/TLS 設定	1-66
1.23.4	IPP 認証設定	1-66
1.24	プリントする (Bonjour)	1-67
1.25	プリントする (AppleTalk)	1-68
1.26	プリントする (NetWare)	1-69
1.26.1	NetWare 設定	1-69
1.26.2	NetWare 状態	1-73
1.27	WS プリント機能を使用する	1-74
1.27.1	TCP/IP 設定	1-74
1.27.2	Web サービス共通設定	1-74
1.27.3	プリンター設定	1-75
1.28	WS スキャン機能を使用する	1-76
1.28.1	TCP/IP 設定	1-76
1.28.2	Web サービス共通設定	1-76
1.28.3	スキャナー設定	1-77
1.29	Web サービスで Vista から本機方向の通信を SSL 通信にする	1-78

1.29.1	TCP/IP 設定	1-78
1.29.2	SSL/TLS 設定	1-78
1.29.3	Web サービス共通設定	1-78
1.30	Web サービスで本機から Vista 方向の通信を SSL 通信にする	1-79
1.30.1	TCP/IP 設定	1-79
1.30.2	Web サービス共通設定	1-79
1.30.3	証明書無効時処理	1-80
1.31	SNMP マネージャーで本機を監視する	1-81
1.31.1	TCP/IP 設定	1-81
1.31.2	NetWare 設定	1-81
1.31.3	SNMP 設定	1-82
1.32	本機の状態を通知する (E-mail)	1-84
1.32.1	TCP/IP 設定	1-84
1.32.2	E-mail 送信 (SMTP)	1-84
1.32.3	状態通知設定	1-85
1.32.4	SMTP over SSL/Start TLS	1-86
1.32.5	SMTP 認証	1-86
1.32.6	POP before SMTP	1-86
1.32.7	POP over SSL	1-86
1.32.8	APOP 認証	1-86
1.33	本機の状態を通知する (TRAP)	1-87
1.33.1	TCP/IP 設定	1-87
1.33.2	NetWare 設定	1-88
1.33.3	TRAP 設定	1-88
1.33.4	状態通知設定	1-88
1.34	本機のカウンター情報を E-mail で通知する	1-89
1.34.1	TCP/IP 設定	1-89
1.34.2	E-mail 送信 (SMTP)	1-90
1.34.3	トータルカウンター通知設定	1-91
1.34.4	SMTP over SSL/Start TLS	1-91
1.34.5	SMTP 認証	1-91
1.34.6	POP before SMTP	1-92
1.34.7	POP over SSL	1-92
1.34.8	APOP 認証	1-92
1.34.9	カウンター	1-92
1.35	本機を使用するユーザーを制限する (本体装置認証)	1-93
1.35.1	ユーザー認証 / 部門管理	1-93
1.35.2	ユーザー登録	1-94
1.35.3	部門登録	1-96
1.36	本機を使用するユーザーを制限する (Active Directory)	1-97
1.36.1	TCP/IP 設定	1-97
1.36.2	外部認証サーバー登録	1-97
1.36.3	ユーザー認証 / 部門管理	1-98
1.36.4	初期機能制限設定	1-99
1.36.5	日時設定	1-99
1.37	本機を使用するユーザーを制限する (Windows ドメイン／ワークグループ)	1-100
1.37.1	TCP/IP 設定	1-100
1.37.2	外部認証サーバー登録	1-101
1.37.3	ユーザー認証 / 部門管理	1-102
1.37.4	初期機能制限設定	1-102

1.37.5	クライアント設定	1-103
1.37.6	WINS 設定	1-103
1.37.7	Direct Hosting 設定	1-103
1.38	本機を使用するユーザーを制限する (NDS)	1-104
1.38.1	外部認証サーバー登録	1-104
1.38.2	ユーザー認証 / 部門管理	1-105
1.38.3	初期機能制限設定	1-105
1.38.4	NetWare 設定	1-106
1.39	本機を使用するユーザーを制限する (NDS over TCP/IP)	1-107
1.39.1	TCP/IP 設定	1-107
1.39.2	外部認証サーバー登録	1-107
1.39.3	ユーザー認証 / 部門管理	1-108
1.39.4	初期機能制限設定	1-108
1.40	本機を使用するユーザーを制限する (LDAP)	1-109
1.40.1	TCP/IP 設定	1-109
1.40.2	外部認証サーバー登録	1-110
1.40.3	ユーザー認証 / 部門管理	1-111
1.40.4	初期機能制限設定	1-111
1.40.5	LDAP over SSL	1-111
1.41	IP アドレスフィルタリングを行う	1-113
1.41.1	TCP/IP 設定	1-113
1.41.2	IP フィルタリング	1-113
1.42	IPv6 で通信する	1-114
1.43	IPsec で通信する	1-117
1.43.1	TCP/IP 設定	1-117
1.43.2	IPsec	1-118
1.43.3	IKE 設定	1-119
1.43.4	SA 設定	1-119
1.43.5	通信相手先	1-120
1.44	IEEE802.1X 認証を行う	1-121
1.44.1	TCP/IP 設定	1-121
1.44.2	クライアント証明書のインストール	1-121
1.44.3	CA 証明書のインストール	1-122
1.44.4	IEEE802.1X 認証設定	1-122
1.44.5	IEEE802.1X 認証試行	1-124
1.45	BMLinkS 機能を使用する	1-125
1.45.1	TCP/IP 設定	1-125
1.45.2	BMLinkS 設定	1-125
1.45.3	SSDP 設定	1-127
1.46	TCP Socket/OpenAPI 機能を使用する	1-128
1.46.1	TCP/IP 設定	1-128
1.46.2	SSL/TLS 設定	1-128
1.46.3	TCP Socket 設定	1-129
1.46.4	OpenAPI 設定	1-130
1.46.5	SSDP 設定	1-130
1.47	FTP サーバー /WebDAV サーバー機能を使用する	1-131
1.47.1	TCP/IP 設定	1-131
1.47.2	SSL/TLS 設定	1-131
1.47.3	FTP サーバー設定	1-132
1.47.4	WebDAV サーバー設定	1-133

1.48	メンテナンスタブのその他の設定項目	1-134
1.48.1	外部メモリーを使用する	1-134
1.48.2	タイマー機能を使用する	1-135
1.48.3	設定情報をインポート／エクスポートする	1-136
1.48.4	設定情報を初期化する	1-137
1.48.5	サポート情報を設定する	1-139
1.48.6	ヘッダー／フッターを登録する	1-140
1.48.7	ROM バージョンを確認する	1-141
1.48.8	複合機の機能拡張を行う	1-141
1.49	セキュリティタブのその他の設定項目	1-143
1.49.1	ユーザーごとに参照できる宛先を制限する	1-143
1.49.2	ユーザーによる宛先登録を禁止する	1-144
1.49.3	自動ログアウト時間を設定する	1-145
1.49.4	管理者パスワードを設定する	1-146
1.50	ボックスタブの設定項目	1-147
1.50.1	ボックスを設定変更／削除する	1-147
1.50.2	新しくボックスを作成する	1-148
1.50.3	システムボックスを設定変更／削除する	1-149
1.50.4	新しくシステムボックスを作成する	1-150
1.51	プリンター設定タブの設定項目	1-152
1.51.1	プリント機能の初期設定を行う	1-152
1.51.2	PCL/PS/XPS プリントに関する設定を行う	1-153
1.51.3	インターフェースのタイムアウト時間を設定する	1-155
1.52	宛先登録タブの設定項目	1-156
1.52.1	短縮宛先を登録／編集する	1-156
1.52.2	グループ宛先を登録／編集する	1-160
1.52.3	プログラム宛先を登録／編集する	1-161
1.52.4	一時的に利用する宛先を登録／編集する	1-171
1.52.5	E-mail の件名／本文を登録する	1-172
1.52.6	外部サーバーに登録されたアプリケーションを使用する	1-173
1.52.7	E-mail アドレスの入力を簡易化する	1-176

第2章 ネットワーク設定

2.1	ネットワーク設定画面を表示させる	2-2
2.2	ネットワーク設定メニューリスト	2-4
2.2.1	ネットワーク設定画面（1/2）	2-4
2.2.2	ネットワーク設定画面（2/2）	2-9

第3章 付録

3.1	製品仕様（ネットワーク機能）	3-2
3.2	用語集	3-3

第4章 索引

4.1	使用別索引	4-2
4.2	項目別索引	4-4

本書について

本書は、ネットワーク機能を利用した便利な使い方の設定方法についてまとめたユーザーズガイドです。コピー機能、スキャナー機能、ボックス機能、ファクス機能についてはそれぞれのユーザーズガイドをごらんください。

本書はコンピューターの基本操作、およびコピー機の基本操作を理解しているお客様を対象としています。Windows または Macintosh の各オペレーティングシステムの操作方法や、アプリケーションの操作方法は、それぞれの操作説明書をごらんください。

本書の構成

本書は、以下の章から構成されています。

第1章 目的別の設定項目

第2章 ネットワーク設定

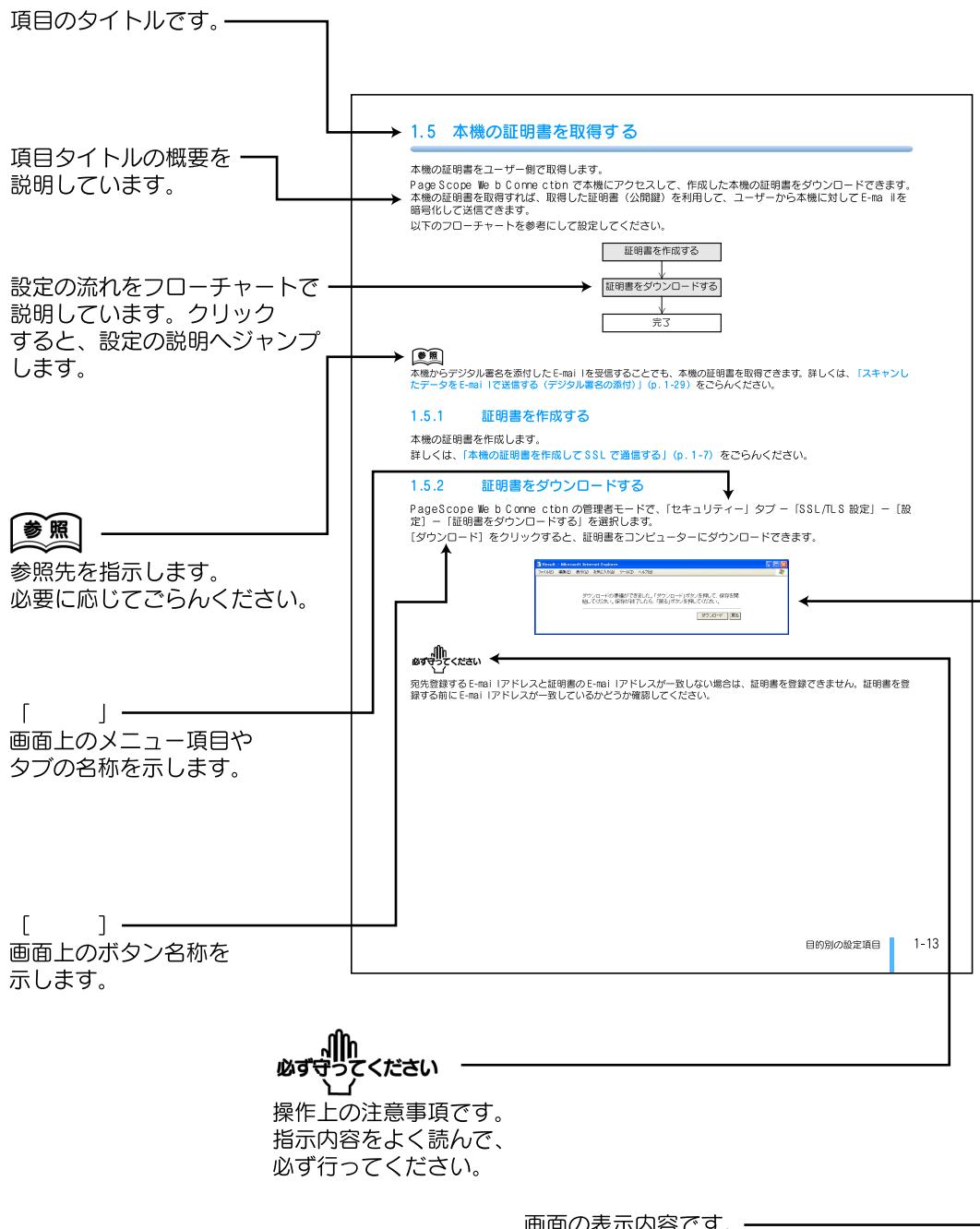
第3章 付録

第4章 索引

表記について

製品名	本書の表記
bizhub 501/421/361	本機、コピー機、プリンター
Microsoft Windows	Windows

ページの見かた



(このページは実際には存在しません。)

ひとこと

作業手順や内容に関して、参考となることや補足事項などが書かれています。お読みになることをおすすめします。

【 】
操作パネル（タッチパネルを除く）のキー名称、電源スイッチなどを示します。

操作の手順の説明をします。

【 】
タッチパネル上のキー名称を示します。

2.1 ネットワーク設定画面を表示させる

目的別の設定を本機の操作パネルのネットワーク設定で行うことができます。ネットワーク設定は管理者設定画面で行います。ネットワーク設定画面の表示のしかたは、以下のとおりです。

ひとこと
管理者モードにログインしているときは、本機の操作パネルがロックされ、操作できなくなります。本機の状態によっては、管理者モードにログインできない場合があります。

① 【設定メニュー / カウンター】を押します。



② [3 管理者設定] を押します。
○ 設定メニューでは、キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。[3 管理者設定] の場合は、テンキーの [3] を入力します。



③ パスワードを入力し、[OK] を押します。



詳しく説明します
管理者設定の「認証操作禁止設定」でモード2が選択されている場合、誤ったパスワードを一定回数入力すると、管理者モードにログインできなくなります。認証操作設定について詳しくは、「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

2-2 ネットワーク設定



操作手順や内容に関して、さらに詳しく説明しています。

タッチパネルの表示内容です。

(このページは実際には存在しません。)

マニュアル体系について

本製品のユーザーズガイドには、印刷物の冊子でご提供するユーザーズガイドと、ユーザーズガイド CD に収められた PDF のユーザーズガイドがあります。

印刷物のユーザーズガイド

●すぐに使える操作ガイド

すぐに本製品をご利用いただけるよう使用頻度の高い機能や操作方法を紹介しています。

本製品をはじめてお使いになる場合や機能の概要を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい注意事項とお願いを記載しています。

本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド

●ユーザーズガイド（コピー機能編）

本製品のコピー機能およびメンテナンス方法について記載しています。

用紙と原稿について、便利な応用コピーのとりかた、消耗品の交換方法、紙づまりなどのトラブル対処方法を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（拡大表示機能編）

拡大表示機能の操作について記載しています。

拡大表示画面でのコピー機能、スキヤナー機能、G3 ファクス機能、ネットワークファクス機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（プリンター機能編（IC-207））

オプションのイメージコントローラーで設定できるプリンター機能について記載しています。

プリンター機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（ボックス機能編）

オプションのハードディスクを利用したボックス機能について記載しています。

ボックスへのデータ保存、ボックスからのデータ取り出し、データ転送方法を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編）

ネットワークスキャン機能、G3 ファクス機能、ネットワークファクス機能について記載しています。

E メールや FTP などによるネットワークスキャン機能や G3 ファクス、インターネットファクス、IP アドレスファクス、SIP ファクスの使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

ファクス機能をご利用になるには、別途オプションの FAX キットを購入していただく必要があります。

●ユーザーズガイド（ファクスドライバー機能編）

コンピューターから直接ファクス送信を行うファクスドライバーの機能について記載しています。

PC-FAX の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

ファクス機能をご利用になるには、別途オプションの FAX キットを購入していただく必要があります。

●ユーザーズガイド（ネットワーク管理者編）<本書>

ネットワークを利用した各機能について、おもに PageScope Web Connection を使用した設定方法を記載しています。

ネットワーク機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（拡張機能編）

オプションのライセンスキットを登録することで有効化して利用できる各機能と、アプリケーションと連携させることで利用できる各機能の概要と使い方について記載しています。

各機能を効果的にご使用いただくために、このユーザーズガイドをごらんください。

●商標／ライセンスについて

商標およびライセンスについて記載しています。

本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

第1章 目的別の設定項目

本機をネットワークに接続して利用できる様々な機能の設定方法を、PageScope Web Connection を使用して説明します。

1.1 TCP/IP で通信するための基本設定を行う

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。本機をネットワークに接続して使用するためには、あらかじめこの設定を行ってください。

■ ネットワーク使用設定

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [1 ネットワーク使用設定] – [使用する] を選択します。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



ネットワーク使用設定の変更を有効にするには、本機の主電源を入れなおしてください。

主電源スイッチをオフ / オンする場合は、主電源をオフにして、10 秒以上経過してからオンにしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

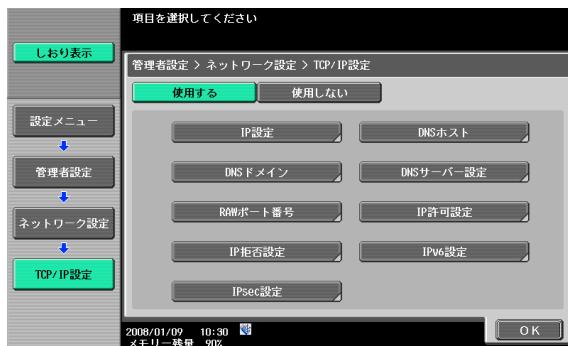
■ TCP/IP 設定

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [2 TCP/IP 設定] を選択します。

以下の設定を行います。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



項目	説明	事前確認
TCP/IP	[使用する] を選択します。	
IP 確定方法	IP アドレスを自動取得するか、直接設定するかを選択します。	IP 確定方法
IP 確定方法自動設定	IP アドレスを自動取得する場合は、自動取得の方法を選択します。	
IP アドレス	IP アドレスを直接設定する場合は、本機の IP アドレスを設定します。	本機の IP アドレス

項目	説明	事前確認
サブネットマスク	IP アドレスを直接設定する場合は、接続するネットワークのサブネットマスクを設定します。	本機のサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	IP アドレスを直接設定する場合は、接続するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。	本機のデフォルトゲートウェイ
Dynamic DNS 設定	Dynamic DNS 機能をサポートしている DNS サーバーに、[DNS ホスト名] で設定したホスト名を自動で登録する場合は、[有効] を選択します。	Dynamic DNS かどうか
DNS ホスト名	本機のホスト名を設定します（半角 63 文字以内）。	
DNS ドメイン名自動取得	DNS ドメイン名の自動取得を行うかどうかを選択します。DHCP が有効の場合に設定できます。	DHCP で自動取得可能かどうか
DNS デフォルトドメイン名	DNS ドメイン名を自動取得しない場合は、本機が所属するドメイン名を設定します（ホスト名と合わせて半角 255 文字以内）。	デフォルトドメイン名
DNS 検索ドメイン名 1 ~ 3	DNS 検索ドメイン名を設定します（ホスト名と合わせて半角 253 文字以内）。	
DNS サーバー自動取得	DNS サーバーアドレスの自動取得を行うかどうかを設定します。DHCP が有効の場合に設定できます。	DHCP で自動取得可能かどうか
優先 DNS サーバー	DNS サーバーアドレスを自動取得しない場合は、優先 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス
代替 DNS サーバー 1 ~ 2	代替 DNS サーバーのアドレスを設定します。	サーバーのアドレス

■ デバイス設定

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [次画面] – [8 詳細設定] – [1 デバイス設定] を選択します。

以下の設定を行います。



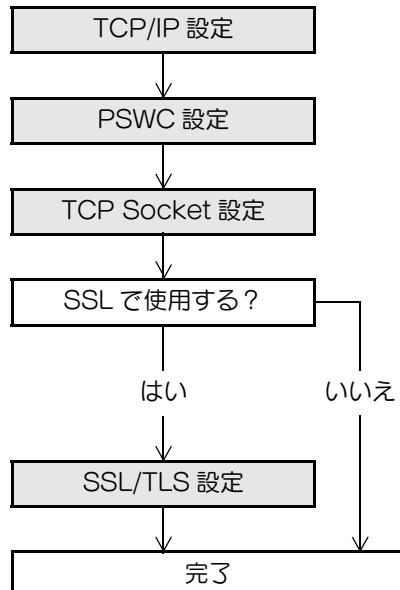
項目	説明	事前確認
MAC アドレス	本機のネットワークインターフェースカードの MAC アドレスが表示されます。	
ネットワーク速度	ネットワーク速度を設定します。	

1.2 PageScope Web Connection を使用する

PageScope Web Connection を使用するための設定を行います。本書では PageScope Web Connection を使用して、各目的に必要な設定を行います。

PageScope Web Connection は、本機に内蔵されている HTTP サーバーが提供する、デバイス管理用ユーティリティです。ネットワーク上のコンピューターで Web ブラウザーを起動し、本機の設定変更や状態確認ができます。本機の操作パネルで行う設定の一部を、手元のコンピューターから操作できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.2.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.2.2 PSWC 設定

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [4 http サーバー設定] を選択します。

以下の設定を行います。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



項目	説明	事前確認
PSWC 設定	[使用する] を選択します。	

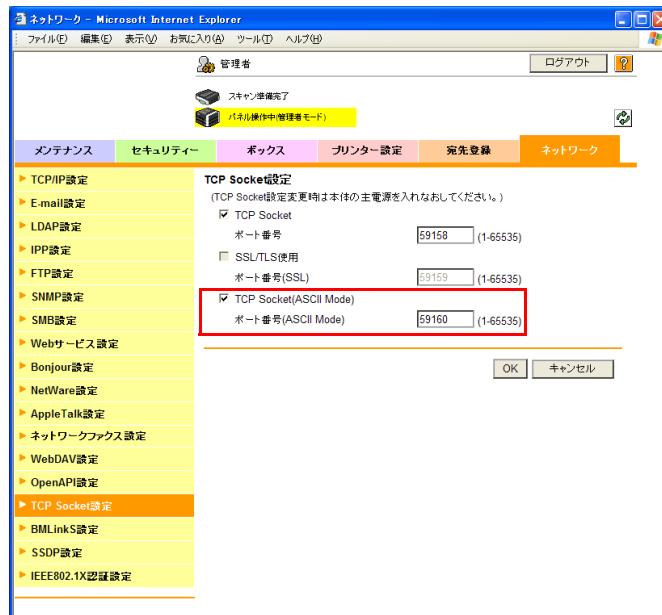
1.2.3 TCP Socket 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP Socket 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



PageScope Web Connection の管理者モードへのログイン方法について詳しくは、「[\[PageScope Web Connection の管理者モードにログインする\] \(p. 1-6\)](#)」をごらんください。



項目	説明	事前確認
TCP Socket (ASCII Mode)	Flash 形式で使用する場合は、「TCP Socket (ASCII Mode)」にチェックを付けます。	
ポート番号 (ASCII Mode)	ポート番号を設定します。	

1.2.4 SSL/TLS 設定

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、「[\[本機の証明書を作成して SSL で通信する\] \(p. 1-7\)](#)」をごらんください。

1.3 PageScope Web Connection の管理者モードにログインする

PageScope Web Connection で本機の設定を行うためには、管理者モードにログインする必要があります。管理者モードへのログイン方法は、以下のとおりです。

ひとこと

管理者モードにログインしているときは、本機の操作パネルがロックされ、操作できなくなります。本機の状態によっては、管理者モードにログインできない場合があります。

1

ログイン画面で「管理者」を選択し、[ログイン] をクリックします。

- 必要に応じて言語や表示形式を選択します。「警告時、ダイアログ表示する」にチェックを付けると、ログイン後の操作中、警告時にダイアログが表示されます。



2

本機の管理者パスワードを入力します。



3

[OK] をクリックします。

管理者モードの画面に切替わります。

 詳しく説明します

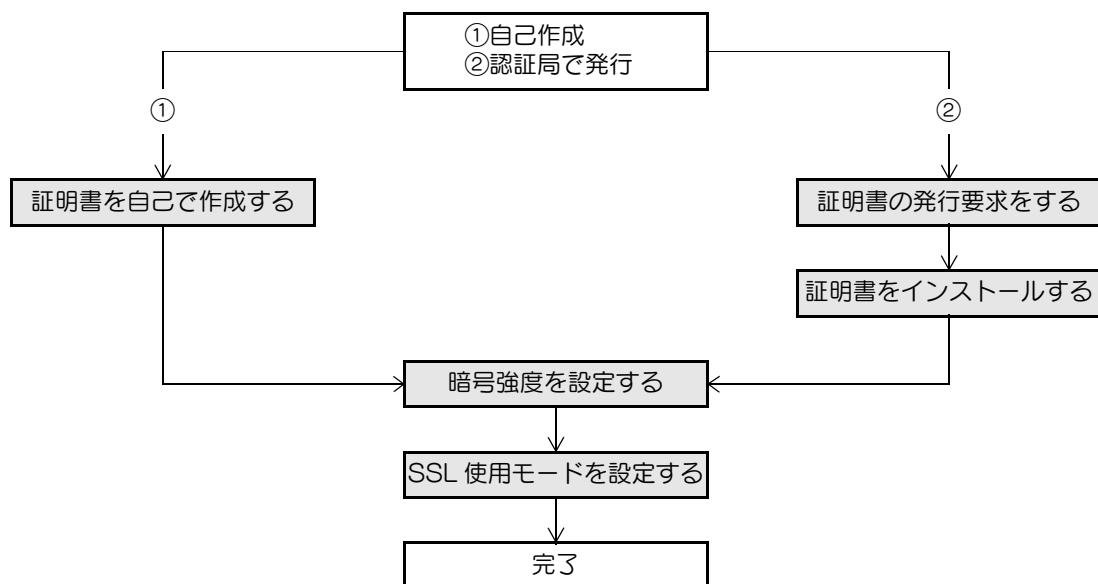
管理者設定の「認証操作禁止設定」でモード 2 が選択されている場合、誤ったパスワードを一定回数入力すると、管理者モードにログインできなくなります。認証操作設定について詳しくは、「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

1.4 本機の証明書を作成して SSL で通信する

本機の電子証明書を作成して、SSL で通信するための設定を行います。

本機の証明書を作成することで、クライアントコンピューターから本機への通信を SSL で暗号化し、通信内容やパスワードの漏洩を防止できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



以下の設定を行うときに、クライアントコンピューターから本機への通信を SSL で暗号化できます。詳しくは、参照先をごらんください。

- ・「PageScope Web Connection を使用する」(p. 1-4)
- ・「プリントする (IPPS)」(p. 1-66)
- ・「Web サービスで Vista から本機方向の通信を SSL 通信にする」(p. 1-78)
- ・「TCP Socket/OpenAPI 機能を使用する」(p. 1-128)

1.4.1 証明書を自分で作成する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「証明書を自分で作成する」を選択します。

以下の設定を行います。

The screenshot shows the 'セキュリティ' (Security) tab in Microsoft Internet Explorer. Under the 'SSL/TLS 設定' (SSL/TLS Settings) section, the '証明書を自分で作成する' (Create certificate yourself) option is selected. The form fields include:

- コモンネーム: 10.11.32.53
- 組織名: (empty)
- 部門名: (empty)
- 市区町村名: (empty)
- 都道府県名: (empty)
- 国別記号: (empty)
- 管理者アドレス: admin@example.com
- 有効開始の日付: 2008/12/03 21:42:42
- 有効期間: (1-3650)
- 暗号強度: DES, RC4-40, RC4-128, 3DES-168, AES-256
- SSL/TLS 使用モード: 管理者モードとユーザー モード

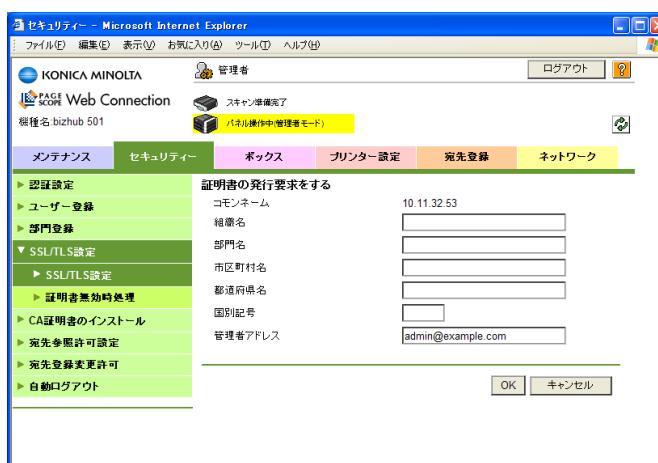
At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

項目	説明	事前確認
コモンネーム	本機の IP アドレスまたはドメイン名が表示されます。	
組織名	組織名証明書を作成するときの組織名、団体名を入力します（半角 63 文字以内）。	
部門名	部門名証明書を作成するときの部門名を入力します（半角 63 文字以内）。	
市区町村名	市区町村名証明書を作成するときの市区町村名を入力します（半角 127 文字以内）。	
都道府県名	都道府県名証明書を作成するときの都道府県名を入力します（半角 127 文字以内）。	
国別記号	国名証明書を作成するときの国名を、ISO3166 で規定されている 2 文字の国コードで入力します。 アメリカ : US、イギリス : GB、イタリア : IT、オーストラリア : AU、オランダ : NL、カナダ : CA、スペイン : ES、チェコ : CZ、中国 : CN、デンマーク : DK、ドイツ : DE、日本 : JP、フランス : FR、ベルギー : BE、ロシア : RU	
管理者アドレス	管理者のアドレスを入力します（半角 128 文字以内）。	管理者のアドレス
有効開始の日付	有効期間の開始日を入力します。本画面を表示したときの日付、時刻が表示されます。	
有効期間	証明書の有効期間を開始日からの経過日数で入力します。	
暗号強度	暗号化方式を設定します。	
SSL/TLS 使用モード	SSL/TLS を適用するモードを設定します。	
[OK]	自己証明書を作成します。証明書を作成するのに数分かかる場合があります。	

1.4.2 証明書の発行要求をする

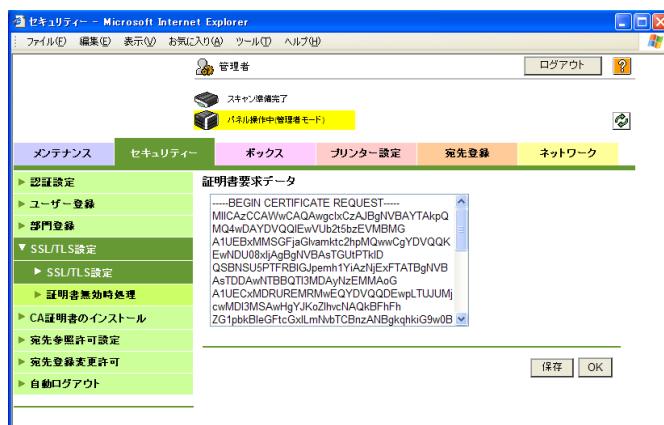
PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「証明書の発行要求をする」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
コモンネーム	本機の IP アドレスまたはドメイン名が表示されます。	
組織名	組織名証明書を作成するときの組織名、団体名を入力します（半角 63 文字以内）。	
部門名	部門名証明書を作成するときの部門名を入力します（半角 63 文字以内）。	
市区町村名	市区町村名証明書を作成するときの市区町村名を入力します（半角 127 文字以内）。	

項目	説明	事前確認
都道府県名	都道府県名証明書を作成するときの都道府県名を入力します（半角 127 文字以内）。	
国別記号	国名証明書を作成するときの国名を、ISO3166 で規定されている 2 文字の国コードで入力します。 アメリカ : US、イギリス : GB、イタリア : IT、オーストラリア : AU、オランダ : NL、カナダ : CA、スペイン : ES、チエコ : CZ、中国 : CN、デンマーク : DK、ドイツ : DE、日本 : JP、フランス : FR、ベルギー : BE、ロシア : RU	
管理者アドレス	管理者のアドレスを設定します（半角 128 文字以内）。	管理者のアドレス
[OK]	証明書発行要求データを作成します。	

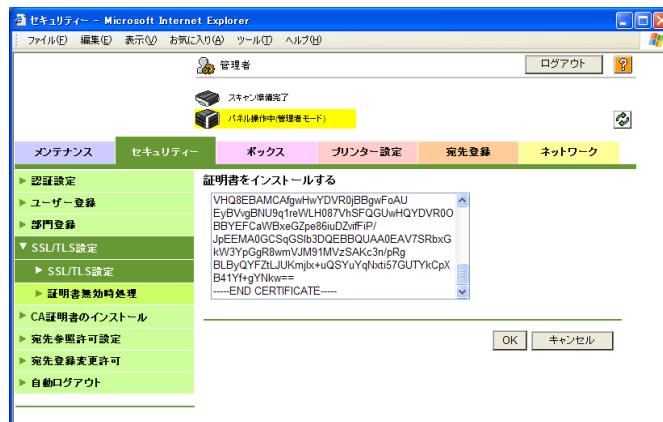


項目	説明	事前確認
証明書要求データ	証明書発行要求データが表示されます。	
[保存]	証明書発行要求データをファイルとしてコンピューターに保存します。	

1.4.3 証明書をインストールする

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「証明書をインストールする」を選択します。

認証局に証明書の発行要求をした後、認証局から送られてきた証明書を本機にインストールします。



項目	説明	事前確認
証明書をインストールする	認証局から送られてきたテキスト形式のデータを貼り付けます。	
[OK]	暗号強度設定、SSL 使用モード設定画面に移動します。	



項目	説明	事前確認
暗号強度	暗号化方式を設定します。	
SSL/TLS 使用モード	SSL/TLS の適用範囲を設定します。	
[インストール]	証明書をインストールします。	

1.4.4 暗号強度を設定する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「暗号強度を設定する」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
暗号強度	必要に応じて、設定した暗号強度を変更できます。暗号強度を設定します。	

1.4.5 SSL 使用モードを設定する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「SSL 使用モードを設定する」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
SSL/TLS 使用モード	必要に応じて、設定した SSL/TLS の適用範囲を変更できます。SSL/TLS の適用範囲を設定します。	

1.4.6 証明書を破棄する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「設定」 – 「証明書を破棄する」を選択します。

必要に応じて、本機にインストールされている証明書を破棄できます。[OK] をクリックすると、インストールされている証明書を破棄します。



ひとこと

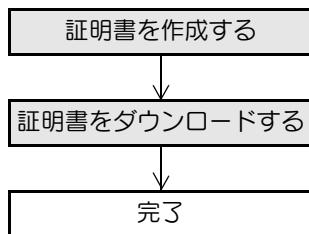
セキュリティー強化設定が ON の場合、証明書の破棄はできません。

1.5 本機の証明書を取得する

本機の証明書をユーザー側で取得します。

PageScope Web Connection で本機にアクセスして、作成した本機の証明書をダウンロードできます。本機の証明書を取得すれば、取得した証明書（公開鍵）を利用して、ユーザーから本機に対して E-mail を暗号化して送信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



ユーザーは、本機からデジタル署名が添付された E-mail を受信することでも、本機の証明書を取得できます。本機でデジタル署名を添付して E-mail を送信する方法について詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付）](#)」(p. 1-29) をごらんください。

1.5.1 証明書を作成する

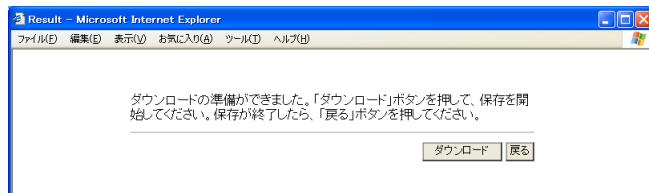
本機の証明書を作成します。

詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。

1.5.2 証明書をダウンロードする

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – [設定] – 「証明書をダウンロードする」を選択します。

[ダウンロード] をクリックすると、証明書をコンピューターにダウンロードできます。

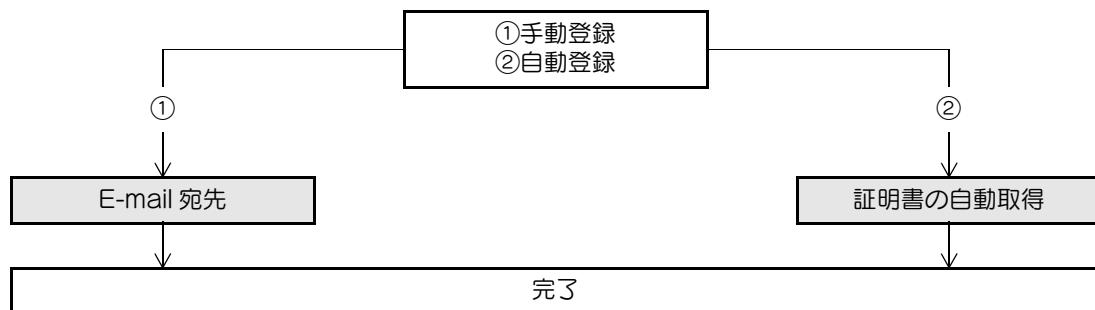


1.6 本機にユーザーの証明書を登録する

本機にユーザーの証明書を登録します。

本機に証明書を登録する方法として、E-mail 宛先登録時に手動で登録する方法と本機宛にデジタル署名を添付した E-mail を送信して自動登録する方法があります。本機にユーザーの証明書を登録すれば、登録した証明書（公開鍵）を利用して、本機からユーザーに対して暗号化した E-mail を送信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.6.1 E-mail 宛先

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「短縮宛先」 – 「新規登録」 – 「E-mail 宛先」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書情報の登録	「証明書情報の登録」にチェックを付けます。[参照] をクリックし、登録する証明書情報の保存場所を指定します。 証明書情報では、DER (Distinguished Encoding Rules) 形式のファイルのみサポートされています。 証明書情報を削除する場合は、「証明書情報の削除」を選択します。	証明書の保存場所



宛先登録する E-mail アドレスと証明書の E-mail アドレスが一致しない場合は、証明書を登録できません。証明書を登録する前に E-mail アドレスが一致しているかどうか確認してください。

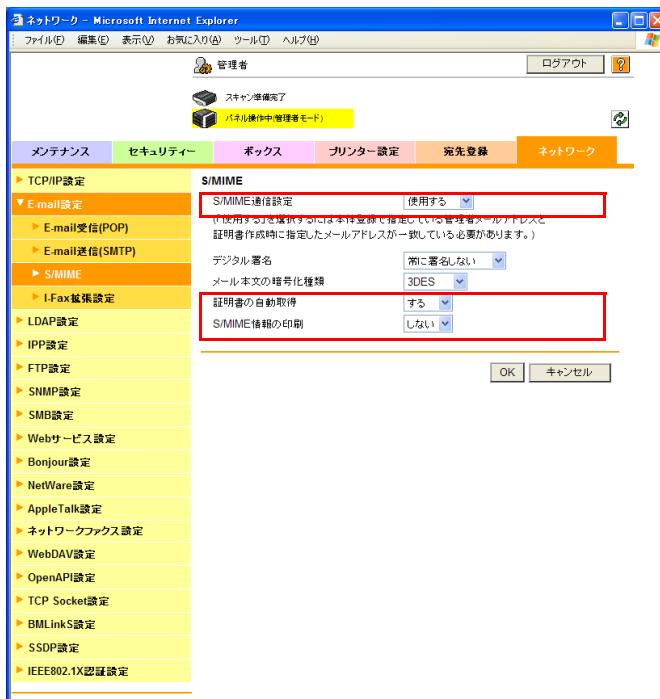
1.6.2 証明書の自動取得

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「E-mail 設定」 - 「S/MIME」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

オプションのハードディスクが装着されていない場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
S/MIME 通信設定	「使用する」を選択します。	
証明書の自動取得	「する」を選択します。	
S/MIME 情報の印刷	S/MIME 情報を印刷したい場合は、「する」を選択します。	

詳しく説明します

- あらかじめ証明書を登録したいユーザーの E-mail 宛先が本機に登録されている必要があります。
- 「証明書の自動取得」を行うには、本機で E-mail を受信できる必要があります。E-mail を受信するための設定について詳しくは、[p. 1-51](#)をごらんください。
- 上記の条件を満たす場合に、ネットワーク上のコンピューターから本機宛にデジタル署名を添付した E-mail を送信してください。本機に登録されているユーザーの E-mail アドレスと、受信した証明書に登録されている E-mail アドレスが一致した場合に、証明書を自動的に登録します。

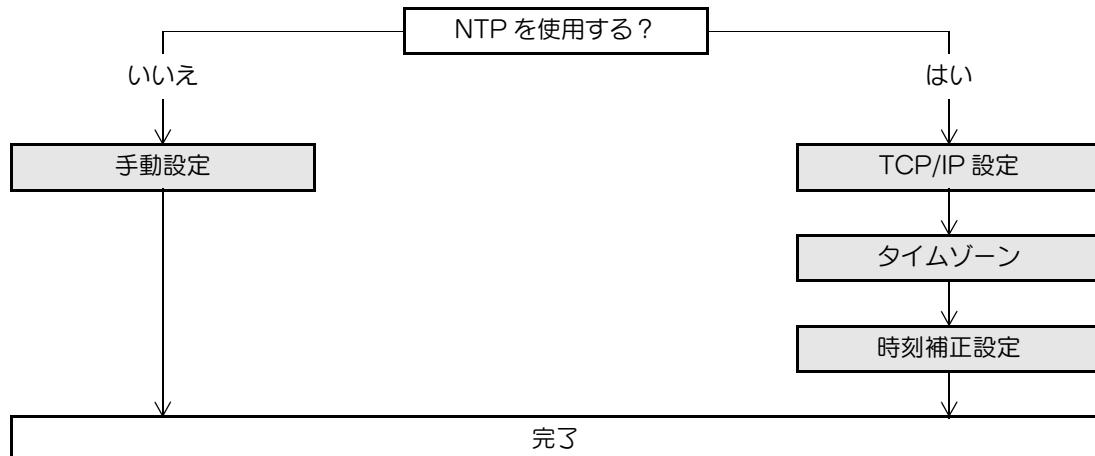
1.7 本機の日時を設定する

本機に内蔵されている時計の日時を設定します。

設定方法には、手動で設定する方法とネットワークを介して NTP サーバーから取得する方法があります。

本機でファクス機能を使用する場合は、あらかじめ本機の日時設定を行ってください。また、本機を Active Directory にログインさせたい場合には、本機の日時設定が必要となる場合があります。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



以下の項目で、本機を Active Directory にログインさせるための設定を行います。詳しくは、参照先をごらんください。

- ・「E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する」(p. 1-35)
- ・「本機を使用するユーザーを制限する (Active Directory)」(p. 1-97)

1.7.1 手動設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ - 「日時設定」 - 「手動設定」を選択します。

以下の設定を行います。

The screenshot shows the 'Maintenance' tab selected in the navigation bar. Under the 'Date and Time' section, the 'Manual Setting' tab is active. The form fields include: Year (2008), Month (12), Day (3), Hour (21), Minute (53), Time Zone (GMT +0:00), and a checkbox for 'Summer Time'. There are 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom.

項目	説明	事前確認
年	年を入力します。	
月	月を入力します。	
日	日を入力します。	
時	時を入力します。	
分	分を入力します。	

項目	説明	事前確認
タイムゾーン	世界標準時からの時差を設定します。	タイムゾーン
サマータイム設定	必要に応じて、夏時間を設定します。	

1.7.2 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.7.3 タイムゾーン

手動設定画面で、タイムゾーンの設定を行います。

詳しくは、「[手動設定](#)」(p. 1-16) をごらんください。

1.7.4 時刻補正設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「日時設定」 – 「時刻補正設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
時刻補正設定	「使用する」を選択します。	
NTP サーバーアドレス	NTP サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	初期値：123 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
自動時刻補正	自動時刻補正を行う場合は、「使用する」を選択します。	
ポーリング間隔	自動時刻補正で「使用する」を選択した場合は、ポーリング間隔を設定します。	
[調整]	設定した条件で NTP サーバーに接続し、時刻を調整します。	

1.8 スキャンしたデータを Windows コンピューターに送信する

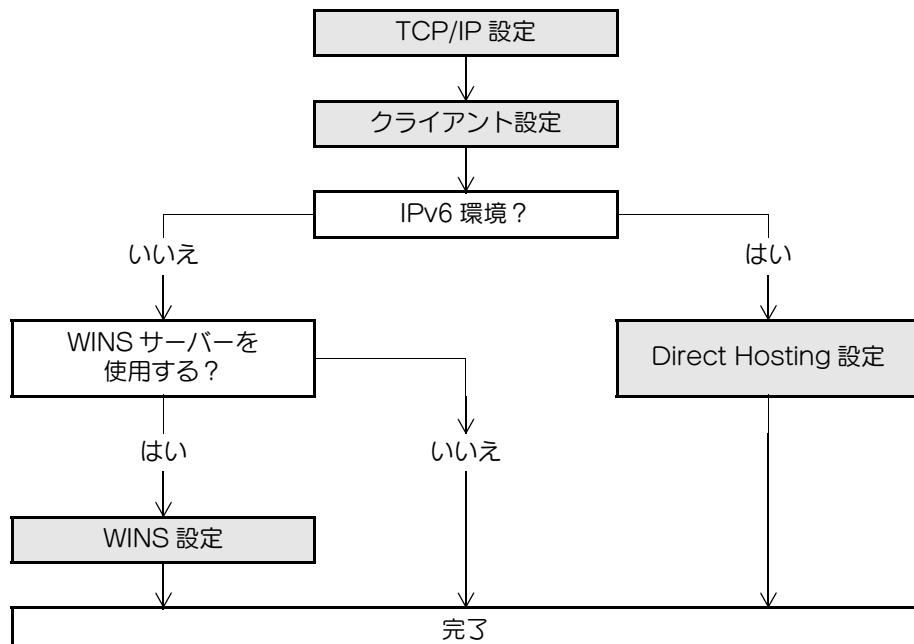
スキャンしたデータを Windows コンピューターに送信するための設定を行います。

スキャンしたデータを、ネットワーク上の指定したコンピューターに直接送信できます。ファイル送信(SMB)を行うには、データを受信するコンピューターに Windows の共有ファイル設定をあらかじめ行ってください。

異なるネットワークにあるコンピューターを Windows 名(NetBIOS 名)で指定する場合は、WINS サーバーを使用する必要があります。

本機はダイレクトホスティングサービスに対応しています。IPv6 環境で送信する場合には、Direct Hosting 設定を有効にする必要があります。Direct Hosting 設定を有効にすると、送信先のコンピューターを IPv6 アドレスもしくはコンピューター(ホスト名)で指定することができます。送信先をコンピューター(ホスト名)で指定する場合、本機は DNS サーバーを利用し、IPv6 アドレスを取得します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



SMB宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156)をごらんください。



SMBによるファイルの送信方法について詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファックス／ネットワークファックス機能編](#)」をごらんください。

1.8.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

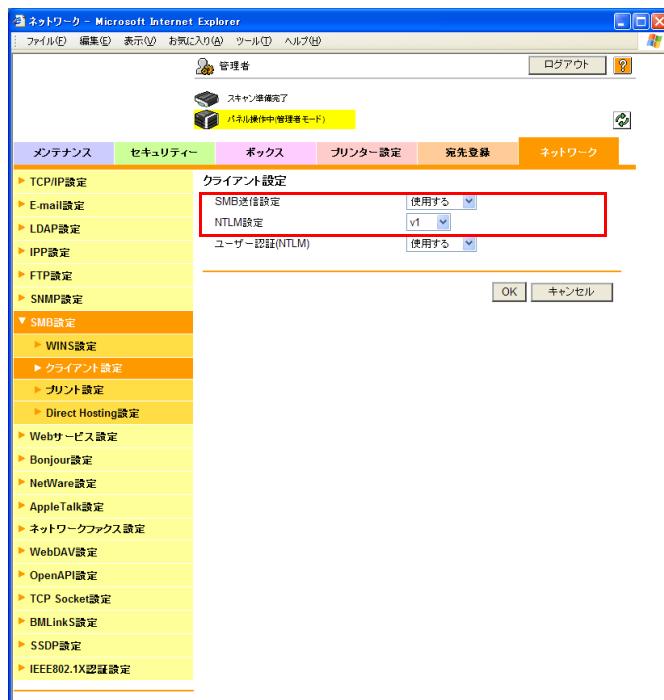
IPv6 環境で送信先のコンピューターをコンピューターナーで指定するには、Direct Hosting 設定を有効にする必要があります。Direct Hosting 設定を有効にする場合は DNS サーバーを用意し、必ず本機の DNS 設定を正しく行ってください。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2)をごらんください。

1.8.2 クライアント設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SMB 設定」 – 「クライアント設定」を選択します。

以下の設定を行います。

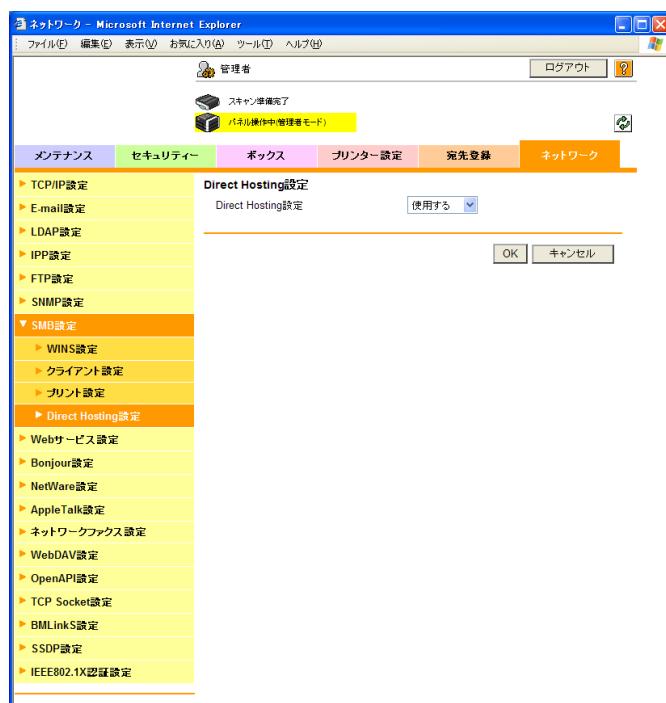


項目	説明	事前確認
SMB 送信設定	「使用する」を選択します。	
NTLM 設定	NTLM のバージョンを設定します。 Mac OSX、Samba (Linux/Unix) へ SMB 送信する場合は、「v1」に設定してください。 Windows 98SE/Windows Me へ SMB 送信する場合は、「v1/v2」または「v1」に設定してください。	宛先の OS

1.8.3 Direct Hosting 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SMB 設定」 – 「Direct Hosting 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
Direct Hosting 設定	ダイレクトホスティングサービスを使用する場合は、「使用する」を選択します。 送信先と IPv6 アドレスで通信する場合は、「使用する」に設定してください。	IPv6 環境かどうか

1.8.4 WINS 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SMB 設定」 – 「WINS 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
WINS	WINS サーバーを使用する場合は、「使用する」を選択します。	
WINS 自動取得設定	WINS サーバーアドレスを自動取得する場合は、「有効」を選択します。 DHCP が有効の場合に設定できます。	DHCP で自動取得可能か
WINS サーバーアドレス 1 ~ 2	WINS サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。	サーバーのアドレス
ノードタイプ設定	名前解決の方法を設定します。 ・B ノード：ブロードキャストで問い合わせ ・P ノード：WINS サーバーに問い合わせ ・M ノード：ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ ・H ノード：WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ	

1.9 スキャンしたデータを E-mail で送信する

スキャンしたデータを E-mail で送信するための設定を行います。

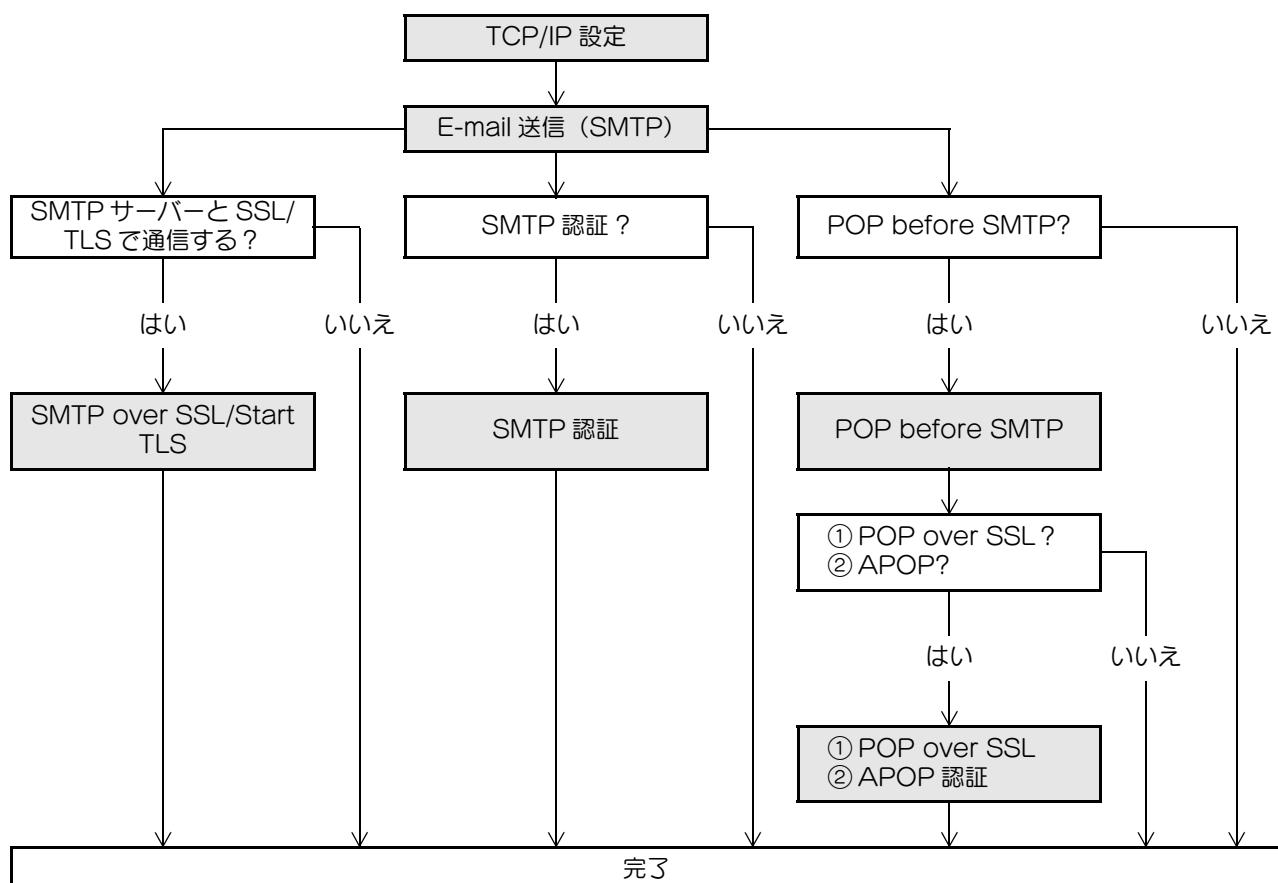
スキャンしたデータを E-mail の添付ファイルとして、指定した E-mail アドレスに送信できます。

SMTP サーバーが SMTP over SSL または Start TLS に対応している場合は、設定を行うことをおすすめします。SSL/TLS により通信を暗号化できるため、本機と SMTP サーバー間で安全に通信できます。

SMTP サーバーが SMTP 認証を要求している場合は、SMTP 認証の設定を行う必要があります。

SMTP サーバーが POP before SMTP を要求している場合は、POP before SMTP の設定を行う必要があります。また、POP サーバーが POP over SSL や APOP 認証に対応している場合は、設定することができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



E-mail宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156)をごらんください。



E-mailでのファイルの送信方法について詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファックス／ネットワークファックス機能編](#)」をごらんください。

1.9.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

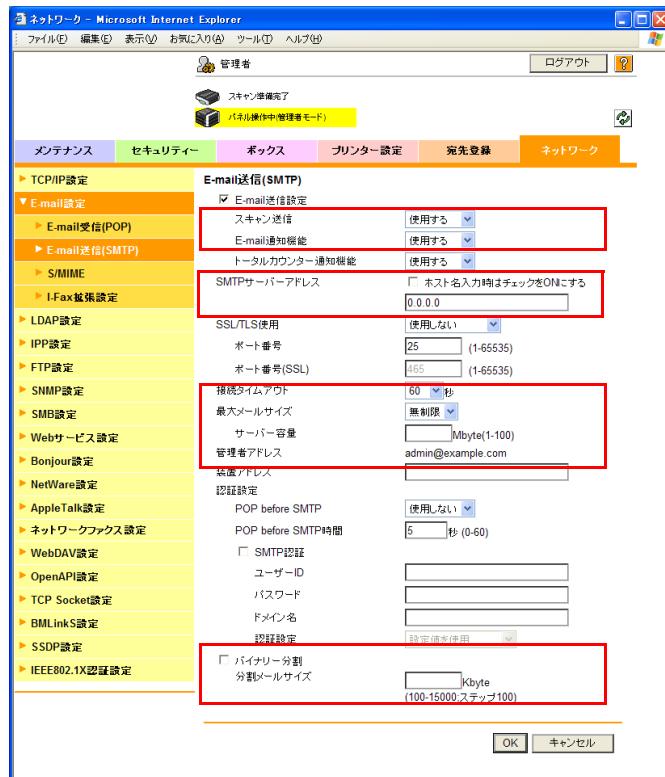
詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2)をごらんください。

1.9.2 E-mail 送信 (SMTP)

■ E-mail 送信 (SMTP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

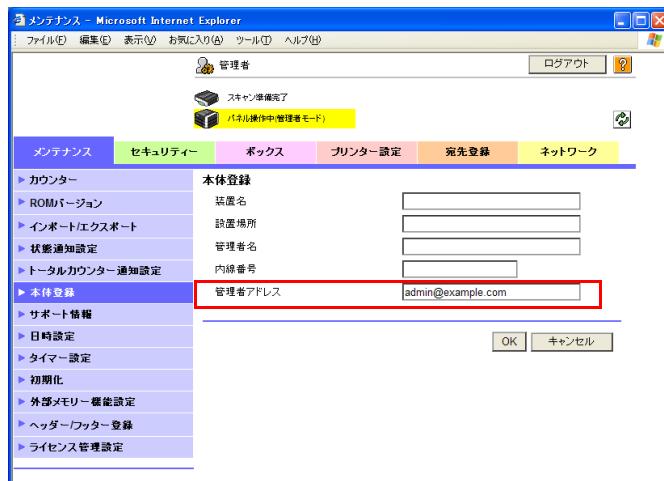
以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
E-mail 送信設定	「E-mail 送信設定」にチェックを付けます。	
スキャン送信	「使用する」を選択します。	
SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、***：0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	初期値：25 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
最大メールサイズ	送信メールのサイズを制限するかどうか設定します。	
サーバー容量	最大メールサイズを制限する場合は、添付ファイルを含むメールサイズの上限値を設定します。 上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
管理者アドレス	PageScope Web Connection の管理者モードの「メンテナанс」タブ – 「本体登録」で設定した管理者のアドレスが表示されます。	
バイナリー分割	メールを分割する場合は、「バイナリー分割」にチェックを付けます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
分割メールサイズ	メールを分割する場合は、分割サイズを設定します。	サーバーの受信制限値

■ 管理者アドレス

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「本体登録」を選択します。管理者アドレスを設定します。



項目	説明	事前確認
管理者アドレス	管理者のアドレスを設定します（半角 128 文字以内）。管理者アドレスを設定しなければ、E-mail を送信することができません。 設定したアドレスは、E-mail の送信者欄に表示されます。E-mail の送信前に操作パネルから管理者アドレス以外のアドレスに変更できます。	管理者のアドレス



From アドレス設定が禁止に設定されている場合は、E-mail 送信時に From アドレスを変更することができません。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファックス／ネットワークファックス機能編」をごらんください。

1.9.3 SMTP over SSL/Start TLS

■ E-mail 送信 (SMTP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SSL/TLS 使用	本機と SMTP サーバー間の通信を SSL/TLS で暗号化する場合は、「SMTP over SSL」または「Start TLS」を選択します。	サーバーは SSL、Start TLS に対応するか
ポート番号	初期値：25 「Start TLS」を選択した場合は、ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
ポート番号 (SSL)	初期値：465 「SMTP over SSL」を選択した場合は、SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

■ 証明書無効時処理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。 「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。 「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。	

1.9.4 SMTP 認証

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SMTP 認証	SMTP 認証を行う場合は、「SMTP 認証」にチェックを付けます。	サーバーは SMTP 認証を要求するか
ユーザー ID	SMTP 認証のユーザー ID を設定します（半角 255 文字以内）。	
パスワード	SMTP 認証のパスワードを設定します（半角 128 文字以内）。	
ドメイン名	SMTP 認証のドメイン名を設定します（半角 255 文字以内）。 認証方式が Digest-MD5 の場合に設定が必要になります。	認証方式
認証設定	ユーザー認証と連動させるかどうかを設定します。 ユーザー認証を行う場合に表示されます。	ユーザー認証と連動させるか



- SMTP 認証の認証方式は、Digest-MD5, CRAM-MD5, PLAIN、LOGIN の中から、SMTP サーバーが対応している認証方式の中で最も強度が強いものが自動で選択されます。
- ドメイン名は、ユーザーが所属するドメイン（realm）が 1 つの場合は、初期通信時に SMTP サーバーからドメイン名が通知され、そのドメイン名を使って自動的に通信するため、本機での設定は不要です。ただし、ユーザーが所属するドメイン（realm）が 2 つ以上存在する場合は、ユーザーが所属するドメイン名を指定する必要があります。

1.9.5 POP before SMTP

■ POP before SMTP

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
POP before SMTP	POP before SMTP を行う場合は、「使用する」を選択します。	サーバーは POP before SMTP 認証を要求するか
POP before SMTP 時間	POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーにアクセスするまでの時間を設定します。	POP サーバーと SMTP サーバーは異なるサーバーか



POP サーバーと SMTP サーバーが異なるサーバーの場合は、POP サーバーにログインしたことを POP サーバーが SMTP サーバーへ通知します。そのため、POP before SMTP 時間の設定時間が短すぎると、E-mail の送信ができないことがあります。

■ E-mail 受信 (POP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 受信 (POP)」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
E-mail 受信設定	POP before SMTP を行う場合は、「使用する」を選択します。	
POP サーバーアドレス	POP サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ログイン名	POP サーバーのログイン名を設定します（半角 63 文字以内）。	
パスワード	POP サーバーのログイン時のパスワードを設定します（半角 15 文字以内）。	
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
ポート番号	初期値：110 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

1.9.6 POP over SSL

■ E-mail 受信 (POP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 受信 (POP)」を選択します。

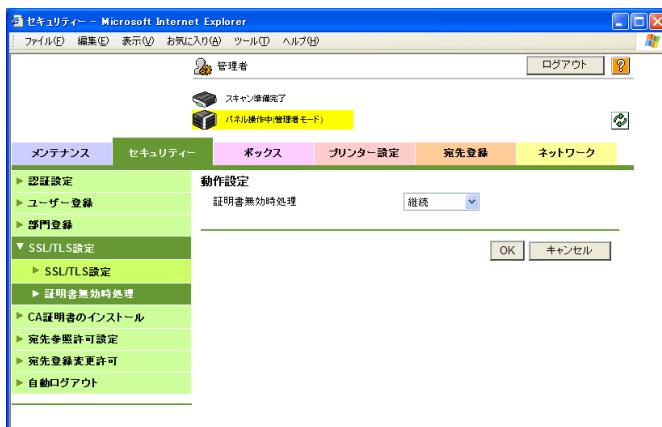
以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SSL/TLS 使用	本機と POP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、「SSL/TLS 使用」にチェックを付けます。	サーバーは SSL に対応するか
ポート番号 (SSL)	初期値：995 SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

■ 証明書無効時処理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。 「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。 「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。	

1.9.7 APOP 認証

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 受信 (POP)」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
APOP 認証	POP サーバーへログインするときに、ログイン名とパスワードを暗号化する場合は、「使用する」を選択します。	サーバーは APOP を要求するか

詳しく説明します

APOP を使用して POP サーバーにログインする場合は、パスワードが Digest-MD5 で暗号化されます。APOP 認証を「使用する」に設定した場合は、POP サーバーが APOP に対応していないとサーバーにログインできません。

1.10 スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付）

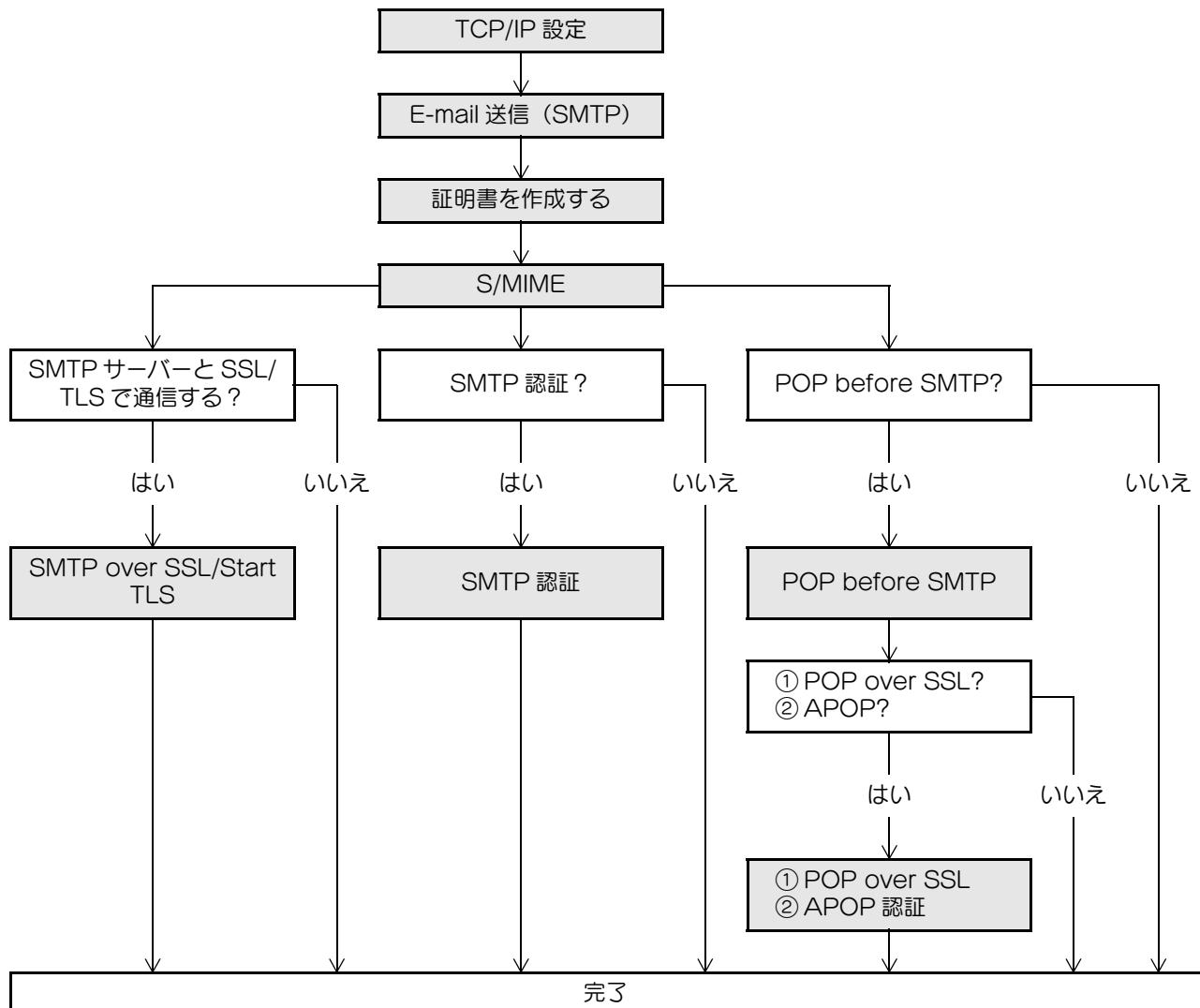
スキャンしたデータを、デジタル署名を添付した E-mail で送信するための設定を行います。

スキャンしたデータを E-mail で送信するときに、デジタル署名を添付して送信できます。

デジタル署名を添付して E-mail を送信することで、本機の証明書をユーザーに送付することができます。ユーザーは、受け取った証明書を利用して E-mail を暗号化して本機に送信できます。

POP before SMTP、APOP、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する](#)」(p. 1-22) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.10.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.10.2 E-mail 送信 (SMTP)

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、「[E-mail 送信 \(SMTP\)](#)」(p. 1-23) をごらんください。

1.10.3 証明書を作成する

本機の証明書を作成します。

詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。

1.10.4 S/MIME

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「S/MIME」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

オプションのハードディスクが装着されていない場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
S/MIME 通信設定	「使用する」を選択します。	
デジタル署名	「常に署名する」または「送信時に選択する」を選択します。	

1.10.5 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP over SSL/Start TLS](#)」(p. 1-24) をごらんください。

1.10.6 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP 認証](#)」(p. 1-25) をごらんください。

1.10.7 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、「[POP before SMTP](#)」(p. 1-26) をごらんください。

1.10.8 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.10.9 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

1.11 スキャンしたデータを E-mail で送信する（公開鍵による暗号化）

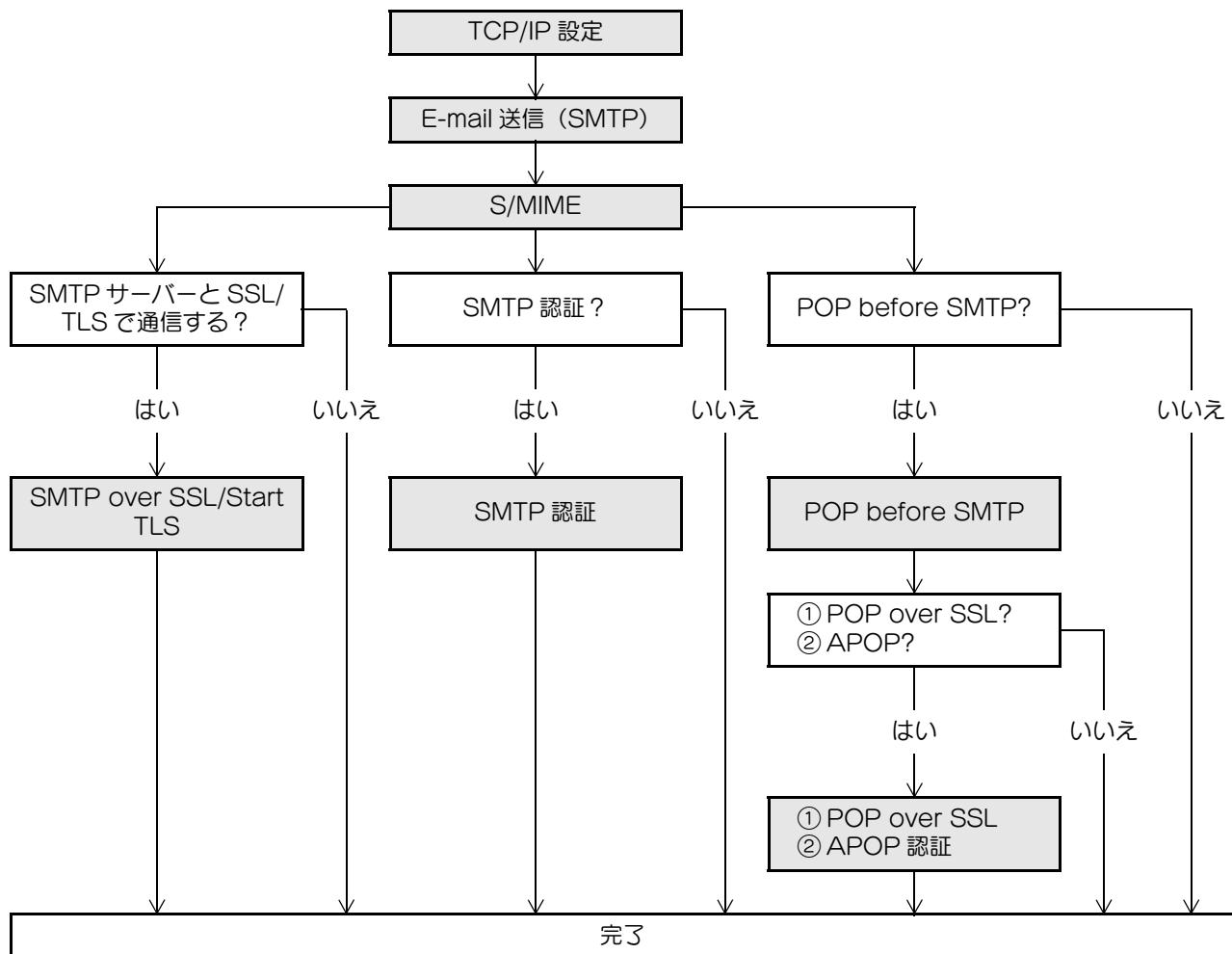
スキャンしたデータを、公開鍵で暗号化した E-mail で送信するための設定を行います。

スキャンしたデータを E-mail で送信するときに、あらかじめ本機に登録したユーザーの証明書を利用して E-mail を暗号化して送信できます。

E-mail を暗号化して送信することで、伝送系路上での第三者への情報の漏洩を防止できます。さらにデジタル署名を添付して E-mail を暗号化すれば、本機とメッセージの認証も行えます。E-mail にデジタル署名を添付するための設定について詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する（デジタル署名の添付）](#)」(p. 1-29) をごらんください。

POP before SMTP、APOP、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する](#)」(p. 1-22) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



証明書が登録されていない宛先は選択できません。E-mail を暗号化して送信するには、あらかじめ本機にユーザーの証明書を登録してください。詳しくは、「[本機にユーザーの証明書を登録する](#)」(p. 1-14) をごらんください。

1.11.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.11.2 E-mail 送信 (SMTP)

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、「[E-mail 送信 \(SMTP\)](#)」(p. 1-23) をごらんください。

1.11.3 S/MIME

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「S/MIME」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

オプションのハードディスクが装着されていない場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
S/MIME 通信設定	「使用する」を選択します。	
メール本文の暗号化種類	メール本文の暗号化形式を選択します。	

1.11.4 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP over SSL/Start TLS](#)」(p. 1-24) をごらんください。

1.11.5 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP 認証](#)」(p. 1-25) をごらんください。

1.11.6 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、「[POP before SMTP](#)」(p. 1-26) をごらんください。

1.11.7 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.11.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

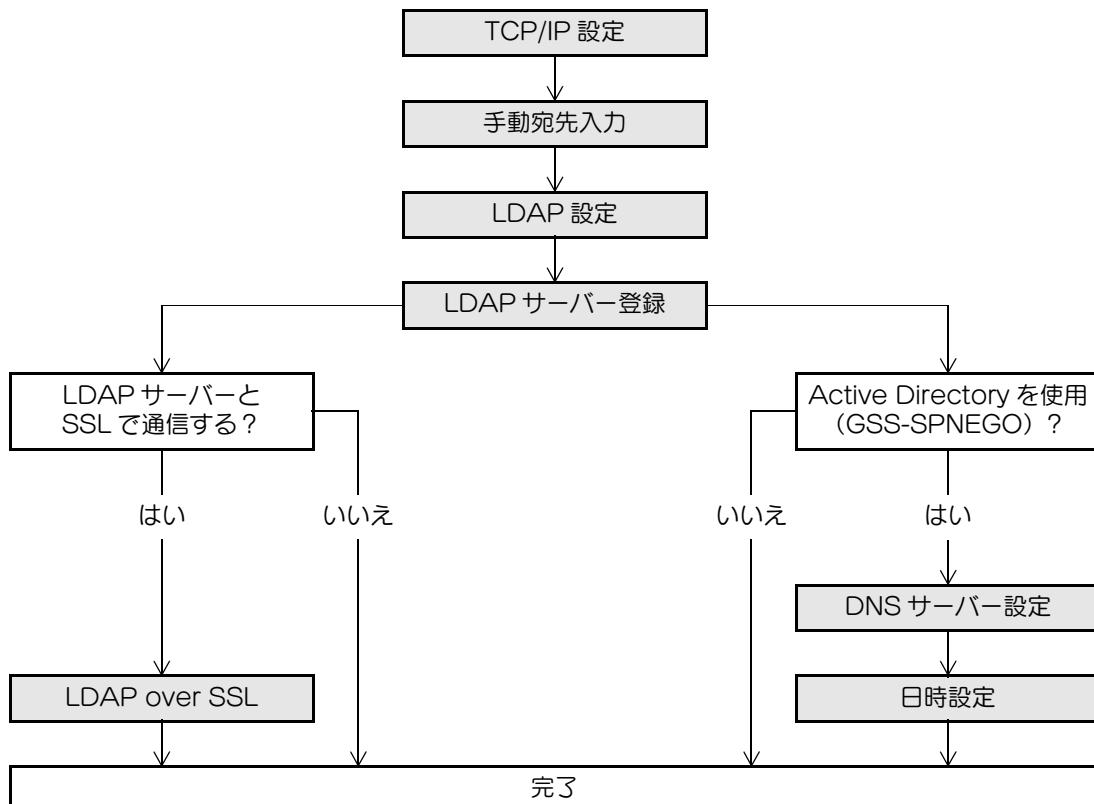
1.12 E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する

E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索するための設定を行います。

ユーザー管理などで LDAP サーバーを使用している場合は、E-mail 送信の宛先検索時に、LDAP サーバーを参照させることができます。この設定を行うことで、操作パネルに [LDAP 検索] が表示されます。相手先アドレスを指定するときに LDAP サーバーを利用することで、本機への宛先登録の手間を省けます。

また、Active Directory を LDAP サーバーとして指定し、認証方式で「GSS-SPNEGO」を選択する場合は、必ず本機の DNS サーバー設定で Active Directory と連携している DNS サーバーを指定し、本機の日時設定も行ってください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



LDAP 検索を使用した送信方法について詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

1.12.1 TCP/IP 設定

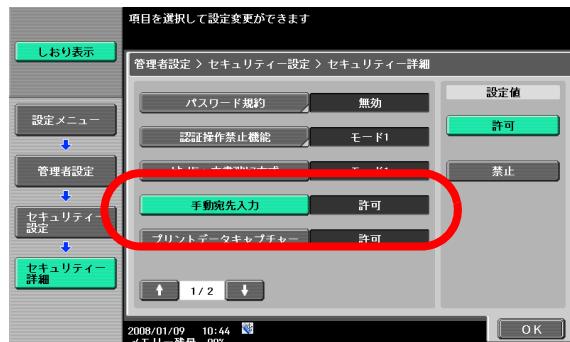
TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.12.2 手動宛先入力

操作パネルの管理者設定画面で、[セキュリティ設定] – [4 セキュリティ詳細] – [手動宛先入力] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
手動宛先入力	[許可] を選択します。	

1.12.3 LDAP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「LDAP 設定」 – 「LDAP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
LDAP 使用設定	「使用する」を選択します。	

1.12.4 LDAP サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「LDAP 設定」 - 「LDAP サーバー登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
LDAP サーバー名	LDAP サーバーの名称を設定します。	
サーバーアドレス	LDAP サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	初期値：389 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
検索ベース	LDAP サーバーに配置されている階層構造の中の検索起点を設定します。検索は、設定した起点から下のサブディレクトリも含めて行われます（半角 255 文字以内）。	検索ベース
タイムアウト時間	検索処理中の最大待ち時間を設定します。	
検索最大表示件数	検索後表示する宛先の最大表示件数を設定します。	
認証方式	LDAP サーバーへログインするときの認証方式を選択します。 「anonymous」を選択した場合は、ログイン名、パスワード、ドメイン名の設定は不要です。 「GSS-SPNEGO」を選択した場合は、Kerberos 認証方式でサーバーにログインします。Kerberos 認証方式は、Active Directory によりサポートされています。	サーバーの認証方式
ログイン名	LDAP サーバーへログインするためのログイン名を設定します（半角 255 文字以内）。	
パスワード	LDAP サーバーへログインするためのパスワードを設定します（半角 128 文字以内）。	

項目	説明	事前確認
ドメイン名	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を設定します（半角 64 文字以内）。 「GSS-SPNEGO」を選択した場合は、Active Directory のドメイン名を設定します。	認証方式 ドメイン名
サーバー認証方式選択	サーバー認証方式を設定します。 「設定値を使用」を選択すると、設定したログイン名、パスワード、ドメイン名を使用します。 「ユーザー認証を使用」を選択すると、外部サーバー認証時に使用したユーザー名とパスワードを使用します。 「Dynamic 認証を使用」を選択すると、LDAP 検索時にユーザー名とパスワードが要求されます。	
referral 設定	referral 機能を使用する場合は、「使用する」を選択します。	
詳細検索初期設定	LDAP 詳細検索を行う条件を設定します。	

ひとこと

認証方式は使用する LDAP サーバーで採用している方に合わせてください。詳しくは、使用する LDAP サーバーのマニュアルをごらんください。

1.12.5 LDAP over SSL

■ LDAP サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「LDAP 設定」 – 「LDAP サーバー登録」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SSL 使用設定	本機と LDAP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、「SSL 使用設定」にチェックを付けます。	サーバーは SSL に対応するか
ポート番号 (SSL)	初期値：636 SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

■ 証明書無効時処理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。 「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。 「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。	

1.12.6 DNS サーバー設定

Active Directory を LDAP サーバーとして指定し、認証方式で「GSS-SPNEGO」を選択する場合は、本機の DNS サーバー設定で Active Directory と連携している DNS サーバーを指定します。

DNS サーバー設定について詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.12.7 日時設定

Active Directory を使用する場合は、本機の日時を設定します。

詳しくは、「本機の日時を設定する」(p. 1-16) をごらんください。

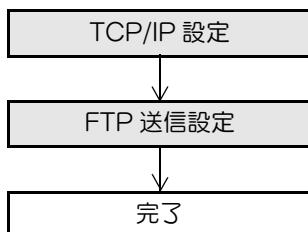
1.13 スキャンしたデータを FTP で送信する

スキャンしたデータを FTP サーバーへ送信するための設定を行います。

FTP サーバーのあるネットワーク環境で、スキャンしたデータをネットワーク上の FTP サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。FTP サーバーに送信したデータは、ネットワーク上のコンピューターからダウンロードできます。高解像度のデータなど、容量の大きなデータの送信に適しています。

ネットワーク環境にプロキシサーバーがあれば、プロキシサーバー経由でインターネット上の FTP サーバーにアクセスすることもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



FTP宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156) をごらんください。



FTPによるファイルの送信方法について詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。

1.13.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.13.2 FTP 送信設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「FTP 設定」 – 「FTP 送信設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
FTP 送信	「使用する」を選択します。	
プロキシサーバーアドレス	プロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
プロキシサーバーポート番号	初期値：21 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
ポート番号	初期値：21 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

1.14 スキャンしたデータを WebDAV で送信する

スキャンしたデータを WebDAV サーバーへ送信するための設定を行います。

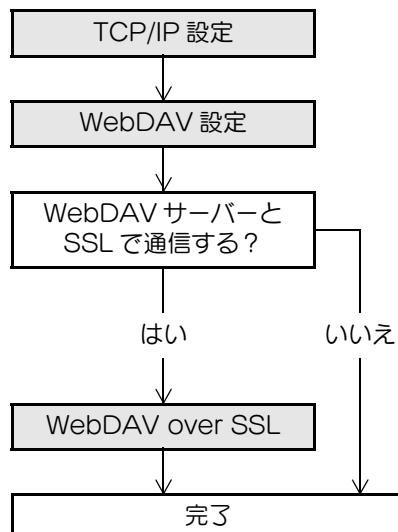
WebDAV サーバーのあるネットワーク環境で、スキャンしたデータをネットワーク上の WebDAV サーバー内の指定したフォルダーへ送信できます。WebDAV サーバーに送信したデータは、ネットワーク上のコンピューターからダウンロードできます。

WebDAV は HTTP の拡張仕様であるため、HTTP のセキュリティー技術をそのまま流用できます。

WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化して、より安全にファイルを送信できます。

ネットワーク環境にプロキシサーバーがあれば、プロキシサーバー経由でインターネット上の WebDAV サーバーにアクセスすることもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



WebDAV宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156)をごらんください。



WebDAVによるファイルの送信方法について詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。



SSLで暗号化して送信するかどうかについては、宛先登録時に設定します。詳しくは、「[新規登録で「WebDAV 宛先」を選択した場合](#)」(p. 1-157)をごらんください。

1.14.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2)をごらんください。

1.14.2 WebDAV 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「WebDAV 設定」 – 「WebDAV クライアント設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
WebDAV 送信設定	「使用する」を選択します。	
プロキシサーバーアドレス	プロキシサーバーを経由させる場合は、プロキシサーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、***：0～255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
プロキシサーバーポート番号	初期値：8080 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
ユーザー名	プロキシサーバーのユーザー名を設定します（半角 63 文字以内）。	
パスワード	プロキシサーバーのパスワードを設定します（半角 63 文字以内）。	
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
サーバー認証文字コード	文字列で送信されるユーザー名とパスワードの文字コードを設定します。	

1.14.3 WebDAV over SSL

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	<p>受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。</p> <p>「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。</p> <p>「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。</p>	

1.15 インターネットファクスを送信する

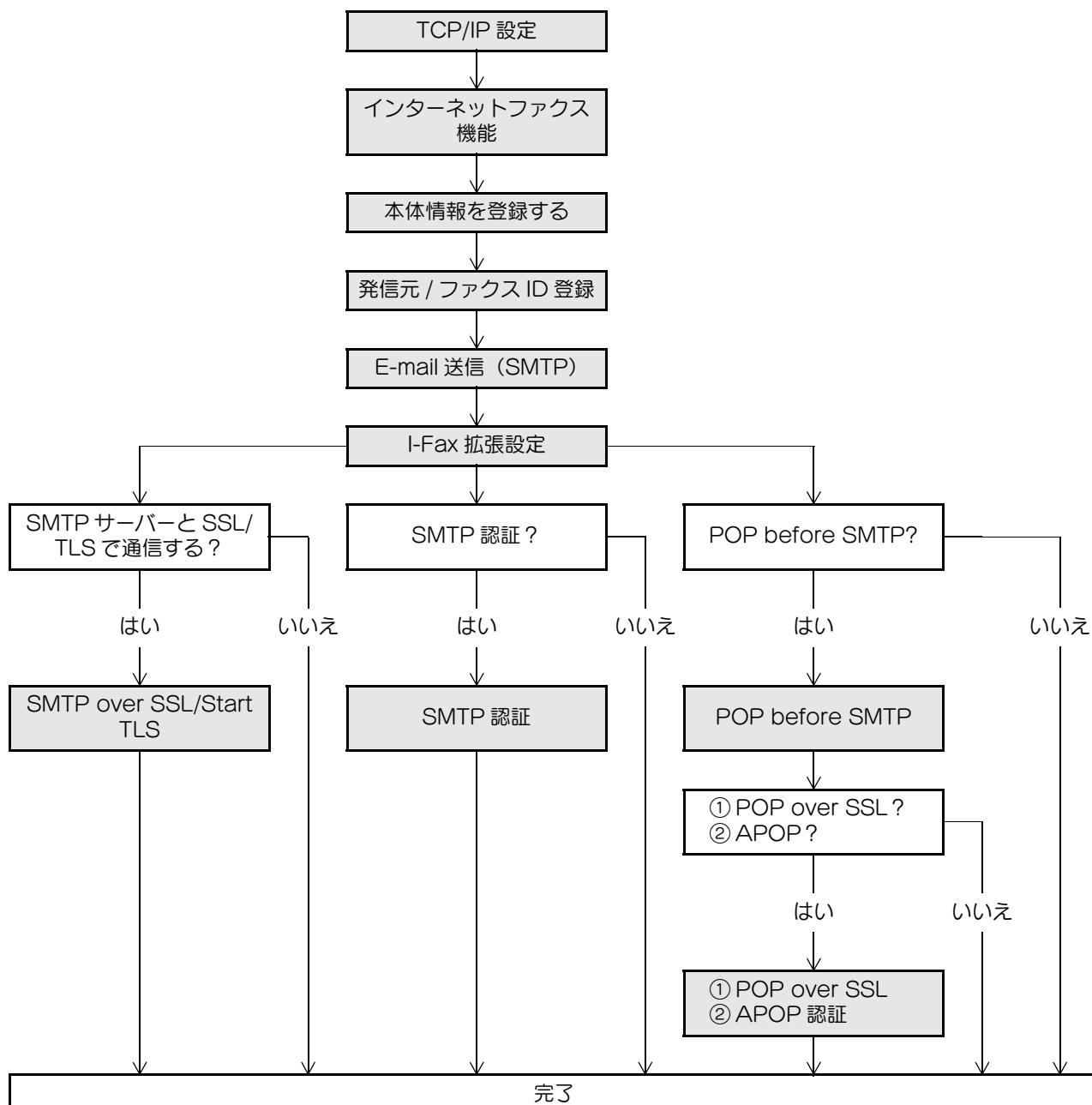
インターネットファクスを送信するための設定を行います。

インターネットファクス機能を使用するためには、本機にオプションのハードディスク、イメージコントローラを装着する必要があります。また、インターネットファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

インターネットファクスは、イントラネットやインターネットを経由して、読み取った原稿を E-mail の添付ファイル (TIFF 形式) として送受信できます。イントラネットやインターネット経由で通信するため、一般的のファクス通信に比べて通信コストを大幅に削減できます。

POP before SMTP、APOP、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する](#)」(p. 1-22) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



インターネットファクス宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156) をごらんください。



インターネットファクスについて詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。

1.15.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

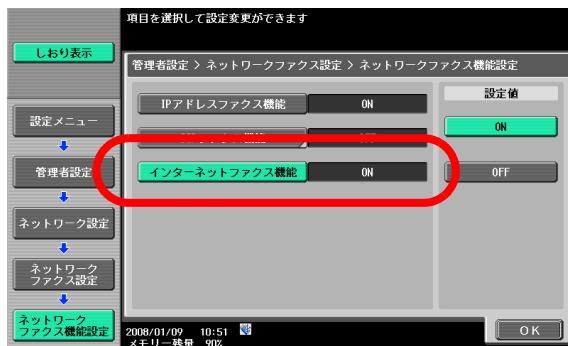
1.15.2 インターネットファクス機能

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [次画面] – [3 ネットワークファクス設定] – [1 ネットワークファクス機能設定] を選択します。

以下の設定を行います。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



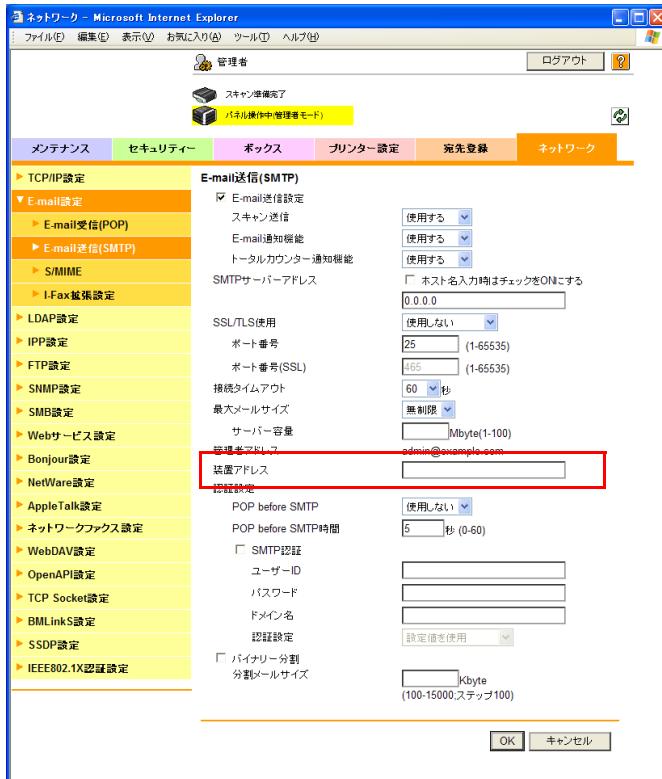
項目	説明	事前確認
インターネットファクス機能	[ON] を選択します。	

1.15.3 本体情報を登録する

■ 装置アドレス

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

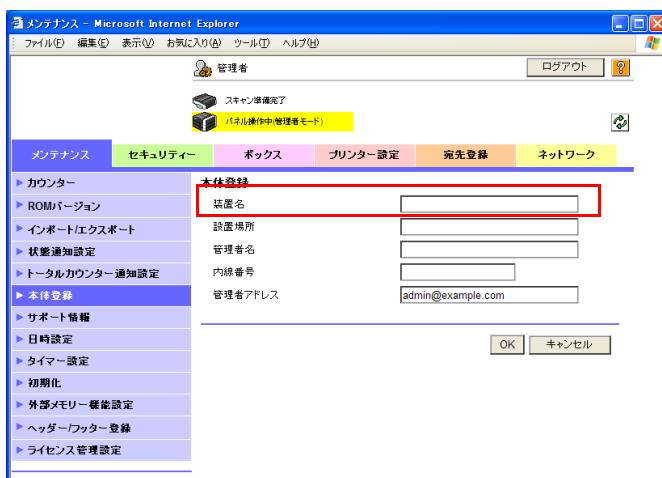
以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
装置アドレス	装置アドレスを設定します（半角 320 文字以内）。 設定しなければ、インターネットファクスを送信することができません。	装置アドレス

■ 本体登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「本体登録」を選択します。以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
装置名	装置名を設定します（半角 255 文字以内）インターネットファクスの件名の一部になります。	

1.15.4 発信元 / ファクス ID 登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ - 「発信元 / ファクス ID 登録」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
ファクス ID	ファクス ID を登録します。通常は本機のファクス番号を入力します。	
デフォルト	ファクス送信時に発信元名を設定しない場合は、チェックを付けた発信元名が使用されます。	
発信元名	登録されている発信元名が表示されます。	
[編集]	発信元名の登録や編集ができます。	
[削除]	登録されている発信元名を削除できます。	

登録

項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	
発信元名	発信元名を入力します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。	

1.15.5 E-mail 送信 (SMTP)

E-mail を送信するための設定を行います。

詳しくは、「E-mail 送信 (SMTP)」(p. 1-23) をごらんください。

1.15.6 I-Fax 拡張設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「I-Fax 拡張設定」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

インターネットファクス機能が無効の場合は、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
MDN 要求	「ON」を選択します。 ファクスが受信側でプリントされると、MDN 応答を受信できます。	
DSN 要求	「ON」を選択します。 ファクスが受信側のメールサーバーに到着すると、DSN 応答を受信できます。 MDN が「ON」に設定されている場合は、DSN を要求しません。	
MDN/DSN 応答監視時間	MDN/DSN 応答の受信待ち時間を設定します。 設定した時間を過ぎた MDN/DSN 応答は無視されます。	
最高解像度	最高解像度を設定します。	

1.15.7 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、「SMTP over SSL/Start TLS」(p. 1-24) をごらんください。

1.15.8 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP 認証](#)」(p. 1-25) をごらんください。

1.15.9 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、「[POP before SMTP](#)」(p. 1-26) をごらんください。

1.15.10 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.15.11 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

1.16 インターネットファクスを受信する

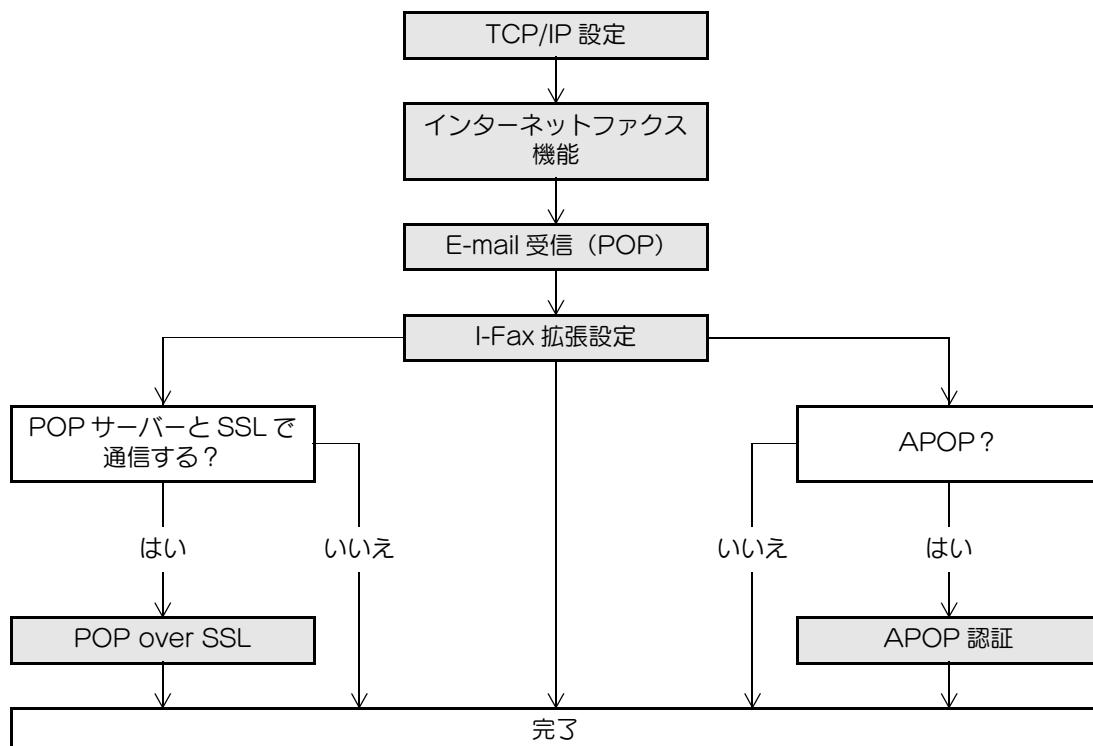
インターネットファクスを受信するための設定を行います。

インターネットファクス機能を使用するためには、本機にオプションのハードディスク、イメージコントローラを装着する必要があります。また、インターネットファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

インターネットファクスは、イントラネット（企業内ネットワーク）やインターネットを経由して、読み取った原稿を E-mail の添付ファイル（TIFF 形式）として送受信できます。イントラネットやインターネット経由で通信するため、一般的のファクス通信に比べて通信コストを大幅に削減できます。

インターネットファクス受信時に APOP 認証を行うことで、より安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



インターネットファクス宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156) をごらんください。



インターネットファクスについて詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。

1.16.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.16.2 インターネットファクス機能

本機のインターネットファクス機能を有効にします。

詳しくは、「[インターネットファクス機能](#)」(p. 1-46) をごらんください。

1.16.3 E-mail 受信 (POP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 受信 (POP)」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
E-mail 受信設定	「使用する」を選択します。	
POP サーバーアドレス	POP サーバーアドレスを設定します。(書式： 「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255) DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ログイン名	POP サーバーのログイン名を設定します(半角 63 文字以内)。	
パスワード	POP サーバーのログインパスワードを設定します(半角 15 文字以内)。	
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
ポート番号	初期値：110 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
自動到着チェック	E-mail を自動で受信する場合は、「自動到着チェック」にチェックを付けます。	
ポーリング間隔	E-mail を自動で受信する場合は、自動受信する間隔を設定します。	

ひとこと

操作パネルのファクス / スキャン画面で [E-mail 受信] を押すことで、手動でも受信できます。

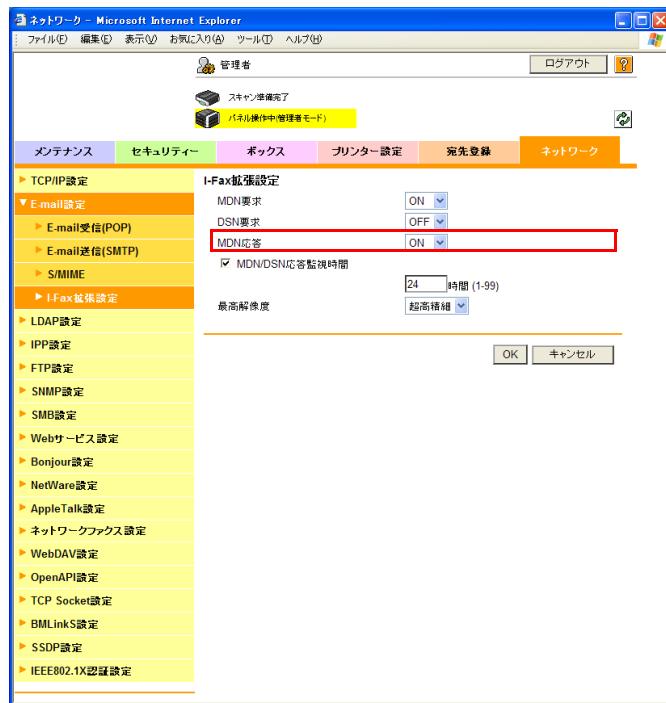
1.16.4 I-Fax 拡張設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「I-Fax 拡張設定」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

インターネットファクス機能が無効の場合は、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
MDN 応答	相手の受信確認要求に対して応答する場合は、「ON」を選択します。	

1.16.5 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.16.6 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

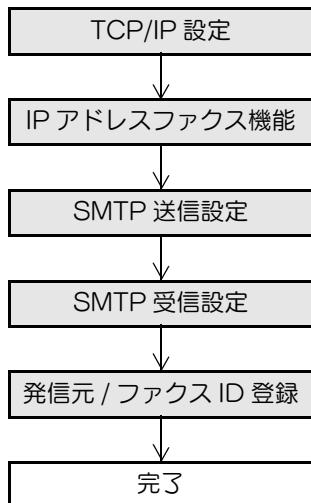
1.17 IP アドレスファクスを送受信する

IP アドレスファクスを送受信するための設定を行います。

IP アドレスファクス機能を使用するためには、本機にオプションの FAX キット、ハードディスク、イメージコントローラーを装着する必要があります。また、IP アドレスファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

IP アドレスファクスとは、IP ネットワーク上で通信可能なファクスです。相手先の IP アドレスまたはホスト名を指定して送信します。送受信には、SMTP プロトコルを使用します。本機の SMTP サーバー機能で送受信するため、SMTP サーバーが不要です。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



IP アドレスファクス宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156) をごらんください。



IP アドレスファクスについて詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。

1.17.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.17.2 IP アドレスファクス機能

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [次画面] – [3 ネットワークファクス設定] – [1 ネットワークファクス機能設定] を選択します。

以下の設定を行います。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



項目	説明	事前確認
IP アドレスファクス機能	[ON] を選択します。	

ひとこと

IP アドレスファクス機能は、SIP ファクス機能を ON にすると、自動的に OFF に設定されます。

1.17.3 SMTP 送信設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「ネットワークファクス設定」 – 「SMTP 送信」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
ポート番号	初期値：25 ポート番号を設定します。	使用するポート番号
接続タイムアウト	接続タイムアウトを設定します。	

1.17.4 SMTP 受信設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「ネットワークファクス設定」 – 「SMTP 受信」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
SMTP 受信機能	「使用する」を選択します。	
ポート番号	初期値：25 ポート番号を設定します。	使用するポート番号
接続タイムアウト	接続タイムアウトを設定します。	

1.17.5 発信元 / ファクス ID 登録

ファクス送信時の発信元情報を登録します。

詳しくは、「[発信元 / ファクス ID 登録](#)」(p. 1-48) をごらんください。

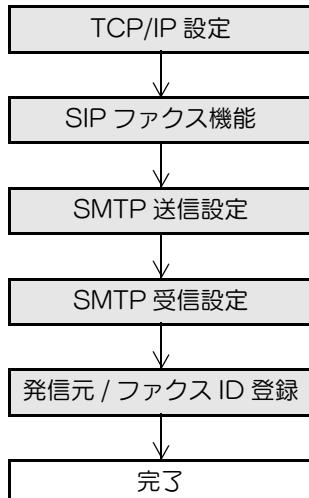
1.18 SIP ファクスを送受信する

SIP ファクスを送受信するための設定を行います。

SIP ファクス機能を使用するためには、オプションの FAX キット、ハードディスク、イメージコントローラー、SIP サーバー、SIP-FAX アダプタが必要です。また、SIP ファクス機能を使用する場合は、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

SIP ファクスとは、IP ネットワーク上で通信可能なファクスです。相手先の SIP ファクス番号を指定して送信します。SIP ファクスでは、SIP (Session Initiation Protocol) を用いて相手先とセッションを確立し、ピアツーピア通信を行います。画像データの送受信には、SMTP プロトコルを使用します。本機の SMTP サーバー機能で送受信するため、SMTP サーバーが不要です。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



SIP ファクスを行うためには、SIP-FAX アダプタの設定を行う必要があります。本機の IP アドレス、本機との通信用ポート番号を、SIP-FAX アダプタに設定してください。SIP-FAX アダプタの設定について詳しくは、SIP-FAX アダプタの取扱説明書をごらんください。



ファクス宛先の登録について詳しくは、「[短縮宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-156) をごらんください。



SIP ファクスについて詳しくは、「[ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編](#)」をごらんください。

1.18.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。



TCP/IP 設定、SIP-FAX アダプタの IP アドレスとポート番号については、SIP-FAX アダプタの設定と合わせる必要があります。設定を変更する場合は、本機と SIP-FAX アダプタ両方で変更する必要がありますのでご注意ください。

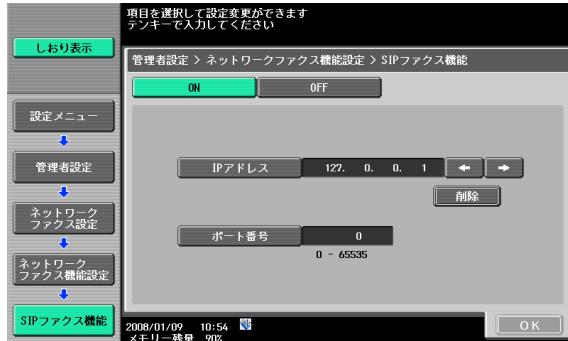
1.18.2 SIP ファクス機能

操作パネルの管理者設定画面で、[ネットワーク設定] – [次画面] – [3 ネットワークファクス設定] – [1 ネットワークファクス機能設定] – [SIP ファクス機能] を選択します。

以下の設定を行います。



ネットワーク設定画面への入り方について詳しくは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をごらんください。



項目	説明	事前確認
SIP ファクス機能	[ON] を選択します。	
IP アドレス	SIP-FAX アダプタの IP アドレスを設定します。	IP アドレス
ポート番号	SIP-FAX アダプタと本機の通信用ポート番号を設定します。	使用するポート番号

ひとこと

SIP ファクス機能は、IP アドレスファクス機能を ON にすると、自動的に OFF に設定されます。

1.18.3 SMTP 送信設定

本機の SMTP 送信機能を設定します。

SIP ファクスを使用する場合、SMTP 送信で使用するポート番号は 25 固定です。

本機の SMTP 送信機能の設定について詳しくは、「[SMTP 送信設定](#)」(p. 1-55) をごらんください。

1.18.4 SMTP 受信設定

本機の SMTP 受信機能を設定します。

SIP ファクスを使用する場合、SMTP 受信で使用するポート番号は 25 固定です。

本機の SMTP 受信機能について詳しくは、「[SMTP 受信設定](#)」(p. 1-56) をごらんください。

1.18.5 発信元 / ファクス ID 登録

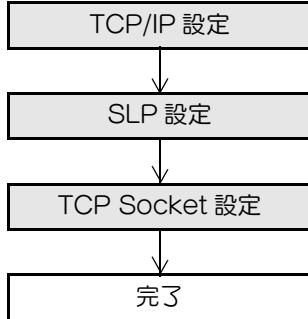
ファクス送信時の発信元情報を登録します。

詳しくは、「[発信元 / ファクス ID 登録](#)」(p. 1-48) をごらんください。

1.19 TWAIN スキャンでボックス内の画像を取り込む

本機のボックスに保存した画像を、HDD TWAIN ドライバを使用して取り込むための設定を行います。HDD TWAIN ドライバを使うと、ボックスに保存した画像データをコンピューター上のアプリケーションへ取り込んで加工などができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



HDD TWAIN ドライバーのインストールについて詳しくは、Driver CD-ROM 内の HDD TWAIN ドライバーのマニュアルをごらんください。

1.19.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.19.2 SLP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「TCP/IP 設定」を選択します。

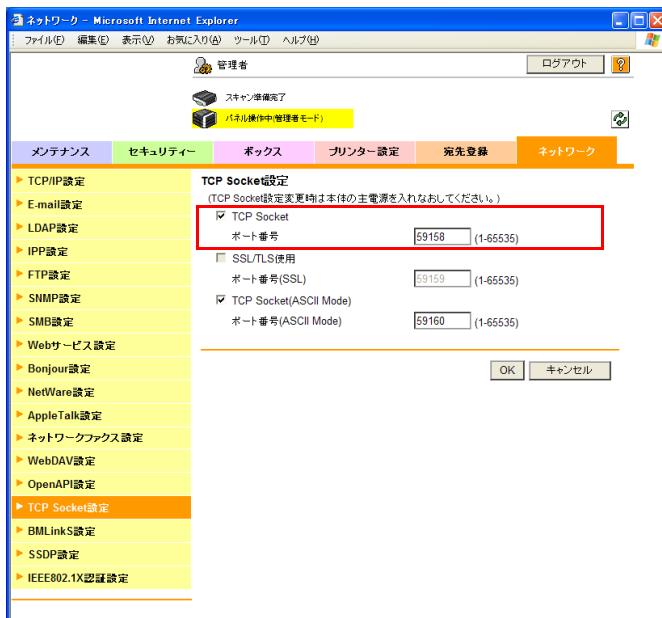
以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SLP	TWAIN で本機を検索したい場合は、「有効」を選択します。	

1.19.3 TCP Socket 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP Socket 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
TCP Socket	「TCP Socket」にチェックを付けます。	
ポート番号	初期値：59158 ポート番号を設定します。	

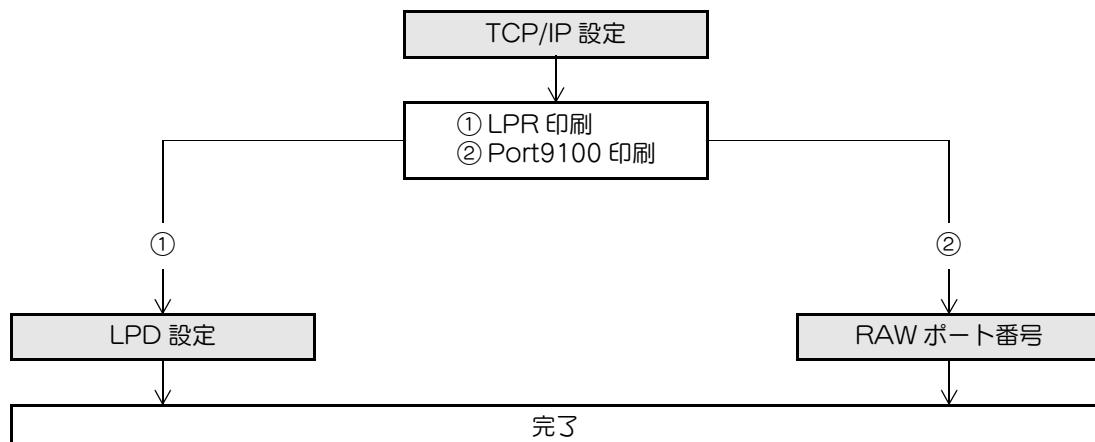
1.20 プリントする (LPR/Port9100)

LPR、Port9100 で印刷するための設定を行います。

LPR 印刷は、LPR プロトコルを使用してネットワーク経由で印刷します。主に UNIX 系の OS で利用されています。

Port9100 印刷は、印刷先のプリンターとして TCP/IP ネットワークに接続された本機の RAW ポート (Port9100) を直接指定することで、ネットワーク経由で印刷します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



LPR、Port9100 で印刷するには、この設定を行った後にプリンタードライバーの設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

1.20.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#) (p. 1-2)」をごらんください。

1.20.2 LPD 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「TCP/IP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
LPD	「有効」を選択します。	

1.20.3 RAW ポート番号

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「TCP/IP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
RAW ポート番号	使用するポートにチェックを付け、RAW ポート番号を設定します。(初期値 : 9100/9112/9113/9114/9115/9116)	

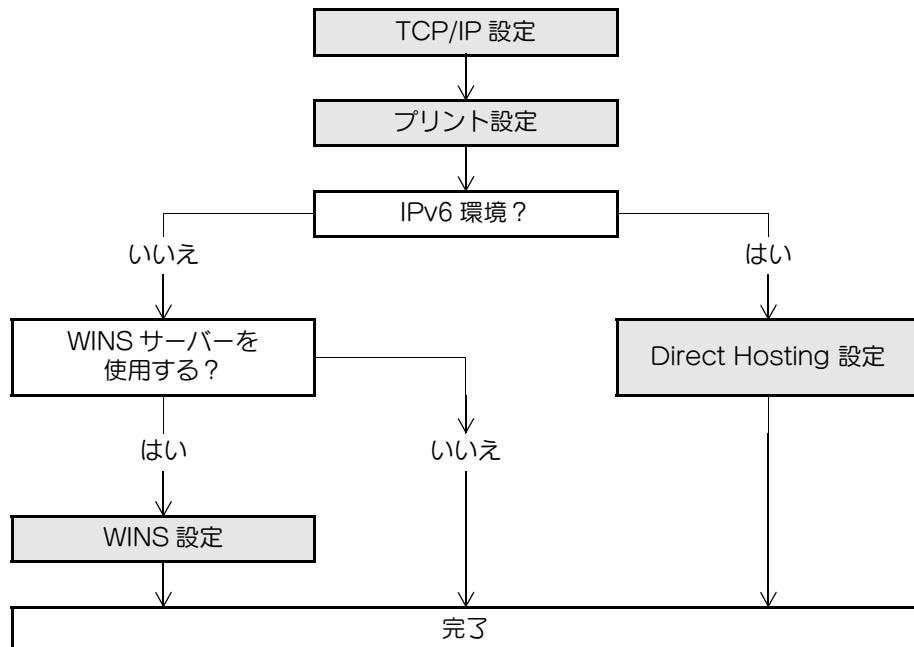
1.21 プリントする (SMB)

SMB で印刷するための設定を行います。

SMB プロトコルを使用して、Windows ネットワーク上でプリンターを共有できます。SMB 印刷は、コンピューターから Windows ネットワーク上の本機を直接指定することで印刷します。

本機はダイレクトホスティングサービスに対応しています。IPv6 環境で SMB 印刷をするには、Direct Hosting 設定を有効にする必要があります。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

1.21.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.21.2 プリント設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SMB 設定」 – 「プリント設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
プリント設定	「使用する」を選択します。	
NetBIOS 名	NetBIOS 名を大文字で設定します（半角 15 文字以内）。	
プリントサービス名	プリントサービス名を大文字で設定します（半角 12 文字以内）。	
ワークグループ	ワークグループ名を大文字で設定します（半角 15 文字以内）。	所属するワークグループ

1.21.3 WINS 設定

ルーター経由で SMB 印刷を行う場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、「[WINS 設定](#) (p. 1-21) をごらんください。

1.21.4 Direct Hosting 設定

IPv6 環境で SMB 印刷をする場合は、Direct Hosting 設定を有効にします。

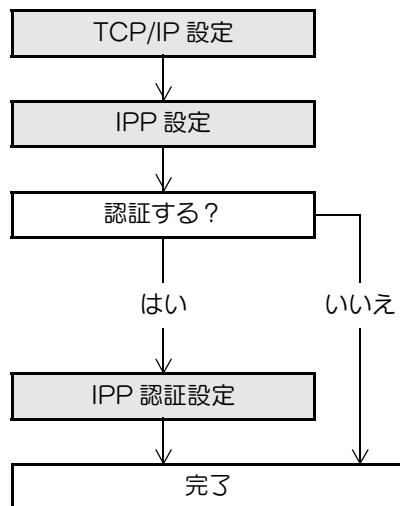
詳しくは、「[Direct Hosting 設定](#) (p. 1-20) をごらんください。

1.22 プリントする (IPP)

IPP で印刷するための設定を行います。

IPP 印刷は、IPP プロトコルを使用してネットワーク経由で印刷します。HTTP プロトコルを用いてネットワーク上のプリンターに印刷データを転送できるため、インターネットを経由して遠隔地のプリンターに出力することもできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

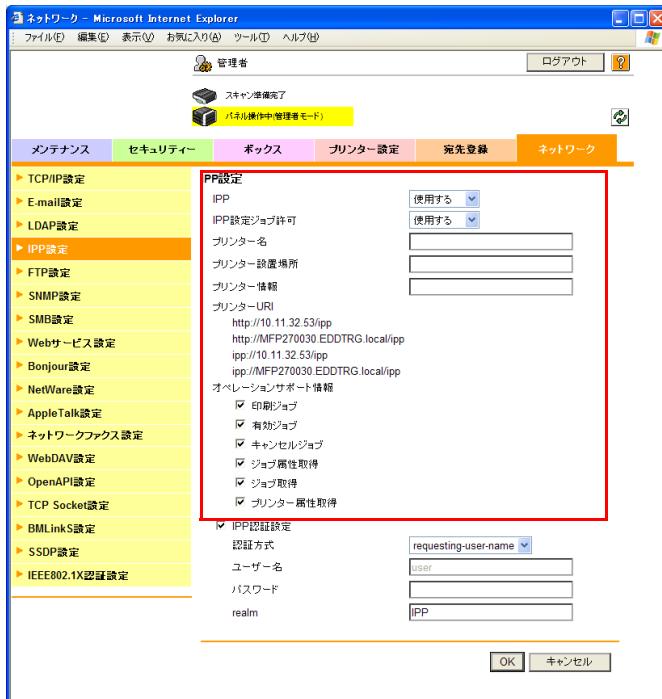
1.22.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#) (p. 1-2)」をごらんください。

1.22.2 IPP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「IPP 設定」を選択します。以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
IPP	「使用する」を選択します。	
IPP 設定ジョブ許可	「使用する」を選択します。	
プリンター名	プリンター名を設定します（半角 127 文字以内）。	
プリンター設置場所	プリンター設置場所を設定します（半角 127 文字以内）。	
プリンター情報	プリンター情報を設定します（半角 127 文字以内）。	
プリンター URI	IPP でプリントできるプリンターの URI が表示されます。	
オペレーションサポート情報	IPP でサポートするプリント操作を項目から設定します。	

1.22.3 IPP 認証設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「IPP 設定」を選択します。以下の設定を行います。

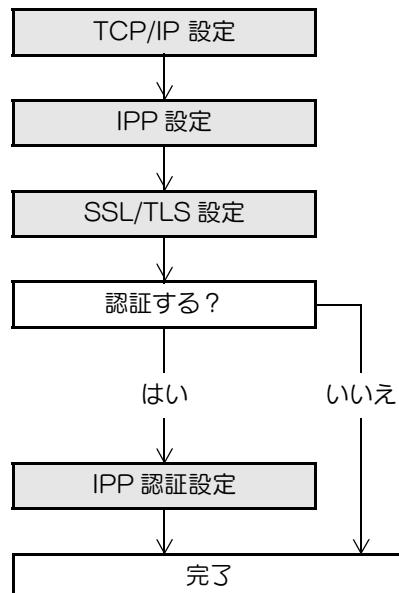
項目	説明	事前確認
IPP 認証設定	IPP 印刷時に認証を行う場合は、「IPP 認証設定」にチェックを付けます。	
認証方式	認証方式を設定します。	
ユーザー名	ユーザー名を設定します（半角 20 文字以内）。	
パスワード	パスワードを設定します（半角 20 文字以内）。	
realm	realm を設定します（半角 127 文字以内）。 認証方式が digest の場合に設定が必要になります。	認証方式

1.23 プリントする (IPPS)

IPPS で印刷するための設定を行います。

本機で IPP 印刷を行うときに、コンピューターと本機の通信を SSL で暗号化します。SSL で暗号化することで、IPP 印刷時のセキュリティーを向上させることができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。



Windows Vista で IPPS 印刷に設定するときは、「[https://\[ホスト名\].\[ドメイン名\]/ipp](https://[ホスト名].[ドメイン名]/ipp)」を入力します。[ホスト名] と [ドメイン名] は、TCP/IP 設定の DNS ホスト名と DNS デフォルトドメイン名で設定した名称を指定してください。詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う \(p. 1-2\)](#)」をごらんください。また、コンピューター側から本機を DNS により名前解決できる必要があります。あらかじめ DNS サーバーに本機を登録して、コンピューター側で DNS の設定を行ってください。本機の証明書が証明機関により発行されたものでない場合は、Windows Vista でローカルコンピューター用の信頼されたルート証明機関の証明書として本機の証明書を登録してください。

1.23.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

Windows Vista で IPPS 印刷に設定するときは、証明書を作成する前に、TCP/IP 設定で DNS サーバーに登録されている DNS ホスト名、DNS デフォルトドメイン名を正しく設定してください。この設定が正しく行われていないと、IPPS 接続をすることができません。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う \(p. 1-2\)](#)」をごらんください。

1.23.2 IPP 設定

IPP 印刷の設定を行います。

詳しくは、「[IPP 設定 \(p. 1-65\)](#)」をごらんください。

1.23.3 SSL/TLS 設定

本機との通信を SSL で暗号化します。

詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する \(p. 1-7\)](#)」をごらんください。

1.23.4 IPP 認証設定

IPP 印刷時に認証を行う場合に設定します。

詳しくは、「[IPP 認証設定 \(p. 1-65\)](#)」をごらんください。

1.24 プリントする (Bonjour)

本機を Macintosh と Bonjour 接続して印刷するための設定を行います。本機を Macintosh と Bonjour 接続するときは、Bonjour の設定が必要です。

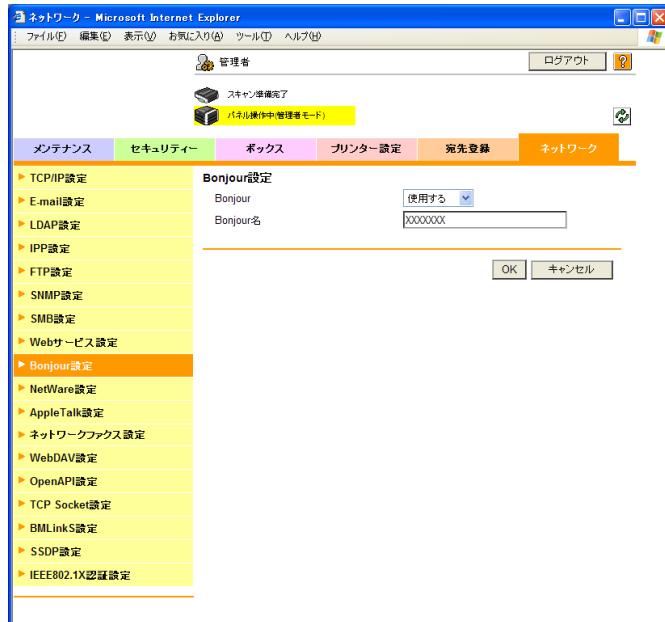


プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

■ Bonjour 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「Bonjour 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
Bonjour	「使用する」を選択します。	
Bonjour 名	接続機器名として表示させる Bonjour 名を設定します（半角 63 文字以内）。	

1.25 プリントする (AppleTalk)

本機を Macintosh と AppleTalk 接続して印刷するための設定を行います。本機を Macintosh と AppleTalk 接続するときは、AppleTalk の設定が必要です。



プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

■ AppleTalk 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「AppleTalk 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
AppleTalk 設定	「使用する」を選択します。	
プリンター名	セレクタに表示されるプリンター名を設定します（半角 31 文字以内）。	
ゾーン名	本機が属するゾーン名を設定します（半角 31 文字以内）。	
現在のゾーン	現在のゾーン名が表示されます。	

1.26 プリントする (NetWare)

NetWare 環境で印刷するための設定を行います。NetWare 環境で印刷するためには、NetWare 環境で本機を使用するための設定が必要です。



プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をご覧ください。

1.26.1 NetWare 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「NetWare 設定」 – 「NetWare 設定」を選択します。



使用環境によって、設定項目が異なります。以下を参考にして設定してください。

■ NetWare 4.x バインダリエミュレーション動作モードでのリモートプリンターモードの場合

ひとこと

バインダリエミュレーションを使用する場合は、NetWare Server でバインダリエミュレーションが有効になっていることを確認してください。

1

クライアントより NetWare に Admin 権限で Bindery としてログインします。

2

Pconsole を起動します。

3

「利用可能な項目」から「クイックセットアップ」を選択し、[Enter] キーを押します。

4

「プリントサーバー名」、「プリント名」、「プリントキュー名」を入力し、プリンターの「タイプ」を「その他／不明」に設定して、保存します。

5

[Esc] キーを押し、Pconsole を終了します。

6

NetWare Server のコンソールで、PSERVER.NLM をロードしてください。

続いて、「NetWare 設定」で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ
NetWare プリントモード	「Nprinter/Rprinter」を選択します。	
プリントサーバー名	Nprinter/Rprinter として動作させる場合のプリントサーバー名を設定します（半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
プリンター番号	Nprinter/Rprinter のプリンター番号を入力します。	

■ NetWare 4.x バインダリエミュレーション動作モードでのプリントサーバーモードの場合

ひとこと

- ・バインダリエミュレーションを使用する場合は、NetWare Server でバインダリエミュレーションが有効になっていることを確認してください。
- ・プリントサーバーモードを使用する場合は、NetWare サーバーに IPX プロトコルがロードされている必要があります。

- 1 クライアントより NetWare に Admin 権限で Bindery としてログインします。
- 2 Pconsole を起動します。
- 3 「利用可能な項目」から「クイックセットアップ」を選択し、[Enter] キーを押します。
- 4 「プリントサーバー名」、「プリント名」、「プリントキューネーム」を入力し、プリンターの「タイプ」を「その他／不明」に設定して、保存します。
- 5 [Esc] キーを押し、Pconsole を終了します。

続いて、「NetWare 設定」で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ
NetWare プリントモード	「PServer」を選択します。	
プリントサーバー名	Pserver として動作させる場合のプリントサーバー名を設定します（半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
プリントサーバーパスワード	必要に応じて、プリントサーバーのパスワードを設定します（半角 63 文字以内）。	
ポーリング間隔	ジョブの問い合わせを行う間隔を設定します。	
Bindery/NDS 設定	「NDS/Bindery 設定」を選択します。	
ファイルサーバー名	Bindery モードの優先ファイルサーバー名を設定します（半角 47 文字以内）。	

■ NetWare 4.x リモートプリンターモード (NDS) の場合

- 1** クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。
- 2** NWadmin を起動します。
- 3** プリントサービスを行う組織、または、部門コンテナを選択し、ツールメニューから「プリントサービスクイックセットアップ」を選択します。
- 4** 「プリントサーバー名」、「プリンタ名」、「プリントキュー名」、「ボリューム名」を入力し、プリンターの「タイプ」を「その他／不明」に設定して、保存します。
- 5** NetWare Server のコンソールで、PSERVER.NLM をロードしてください。

続いて、「NetWare 設定」で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ
NetWare プリントモード	「Nprinter/Rprinter」を選択します。	
プリントサーバー名	Nprinter/Rprinter として動作させる場合のプリントサーバー名を設定します（半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
プリンター番号	Nprinter/Rprinter のプリンター番号を入力します。	

■ NetWare 4.x/5.x/6 プリントサーバーモード (NDS) の場合

ひとこと

プリントサーバーモードを使用する場合は、NetWare サーバーに IPX プロトコルがロードされている必要があります。

- 1** クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。
- 2** NWadmin を起動します。
- 3** プリントサービスを行う組織、または、部門コンテナを選択し、ツールメニューから「プリントサービスクイックセットアップ (非 NDPS)」を選択します。
- 4** 「プリントサーバー名」、「プリンタ名」、「プリントキュー名」、「ボリューム名」を入力し、プリンターの「タイプ」を「その他／不明」に設定して、[作成] をクリックします。

続いて、「NetWare 設定」で以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ

項目	説明	事前確認
NetWare プリントモード	「PServer」を選択します。	
プリントサーバー名	PServer として動作させる場合のプリントサーバー名を設定します（半角 63 文字以内）。	手順 4 で登録したプリントサーバー名
プリントサーバーパスワード	必要に応じて、プリントサーバーのパスワードを設定します（半角 63 文字以内）。	
ポーリング間隔	ジョブの問い合わせを行う間隔を設定します。	
Bindery/NDS 設定	「NDS」を選択します。	
NDS コンテキスト名	プリントサーバーで接続する NDS コンテキスト名を設定します（半角 191 文字以内）。	
NDS ツリー名	プリントサーバで接続する NDS ツリー名を設定します（半角 63 文字以内）。	

■ NetWare 5.x/6 Novell Distributed Print Service (NDPS) の場合

ひとこと

- ・ NDPS に関する設定を行う前に、NDPS プローカと NDPS マネージャが作成、ロードされていることを確認してください。
- ・ NetWare サーバーで TCP/IP プロトコルが設定されていることを確認し、本機に IP アドレスが設定され、本機が起動していることを確認してください。

- 1 クライアントより NetWare に Admin 権限でログインします。
- 2 NWAdmin を起動します。
- 3 プリンターエージェントを作成する「組織」、「部門」コンテナを右クリックし、作成より、「NDPS プリンタ」を選択します。
- 4 「NDPS プリンタ名」欄に、「プリンタ名」を入力します。
- 5 「プリンタエージェントのソース」欄で「新規プリンタエージェントを作成する」を選択し、「作成」をクリックします。
- 6 プリンタエージェント名を確認し、「NDPS マネージャ名」欄で、NDPS マネージャをブラウズし、登録します。
- 7 「ゲートウェイタイプ」で、「Novell プリンタゲートウェイ」を選択し、登録します。
- 8 「Novell NDPS の設定」ウインドウで、プリンタ「(なし)」、ポートハンドラ「Novell ポートハンドラ」を選択し、登録します。
- 9 「接続タイプ」で、「リモート (IP 上で LPR)」を選択し、登録します。
- 10 本機に設定した IP アドレスをホストアドレスに、プリンタ名に「Print」と入力して「完了」を押して登録します。

11

プリンタードライバーの登録画面が現れますか、各 OS とも「なし」を選択して登録を終了してください。

1.26.2 NetWare 状態

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「NetWare 設定」 – 「NetWare 状態」を選択します。

必要に応じて、NetWare 接続の状態を確認できます。

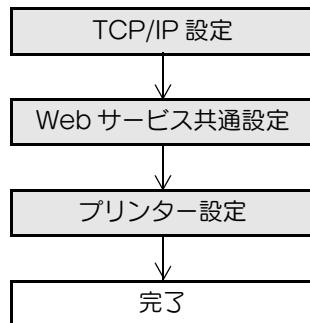
NetWare状態	
サーバー名	キュー名
ServerName1	QueueNameName1
ServerName2	QueueNameName2
ServerName3	QueueNameName3
ServerName4	QueueNameName4
ServerName5	QueueNameName5
ServerName6	QueueNameName6
ServerName7	QueueNameName7
ServerName8	QueueNameName8
ServerName9	QueueNameName9
ServerName10	QueueNameName10

1.27 WS プリント機能を使用する

Web サービス機能で印刷するための設定を行います。

Windows Vista で新しく搭載された Web サービス機能を使用して印刷できます。Web サービス機能により、ネットワーク接続された本機を検出して WS プリンターとしてインストールします。Windows Vista からの印刷時に WS プリンターとしてインストールされた本機を指定することで、通信に HTTP を使用して印刷できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



ひとこと

プリンタードライバーのインストールについて詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

1.27.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.27.2 Web サービス共通設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「Web サービス設定」 – 「Web サービス共通設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
Friendly Name	Friendly Name を設定します（半角 62 文字以内）。	

1.27.3 プリンター設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「Web サービス設定」 – 「プリンター設定」を選択します。

以下の設定を行います。



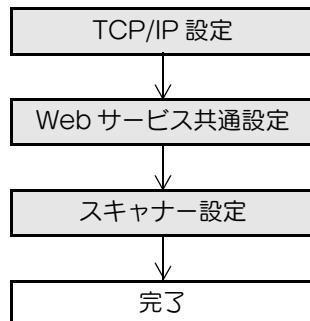
項目	説明	事前確認
プリント機能	「使用する」を選択します。	
プリンター名	プリンター名を設定します（半角 63 文字以内）。	
プリンター設置場所	プリンター設置場所を設定します（半角 63 文字以内）。	
プリンター情報	プリンター情報を設定します（半角 63 文字以内）。	

1.28 WSスキャン機能を使用する

Webサービス機能でスキャンするための設定を行います。

Windows Vistaで新しく搭載されたWebサービス機能を使用してスキャンし、スキャンしたデータをコンピューターへ転送できます。Webサービス機能により、ネットワーク接続された本機を検出してWSスキャナーとしてインストールします。Windows Vistaからのスキャン時にWSスキャナーとしてインストールされた本機を指定することで、通信にHTTPを使用してスキャンできます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



WSスキャンについて詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

1.28.1 TCP/IP 設定

TCP/IPのネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IPで通信するための基本設定を行う」(p. 1-2)をごらんください。

1.28.2 Web サービス共通設定

PageScope Web Connectionの管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「Webサービス設定」 - 「Webサービス共通設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
Friendly Name	Friendly Name を設定します（半角 62 文字以内）。	

1.28.3 スキャナー設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「Web サービス設定」 – 「スキャナー設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
スキャン機能	「使用する」を選択します。	
スキャナー名	スキャナー名を設定します（半角 63 文字以内）。	
スキャナー設置場所	スキャナー設置場所を設定します（半角 63 文字以内）。	
スキャナー情報	スキャナー情報を設定します（半角 63 文字以内）。	
接続タイムアウト	接続タイムアウトを設定します。	

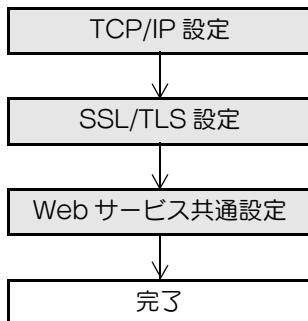
1.29 Web サービスで Vista から本機方向の通信を SSL 通信にする



本機とコンピューター間の通信を SSL 通信にするには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。本設定と「Web サービスで本機から Vista 方向の通信を SSL 通信にする」(p. 1-79) の両方の設定を実施してください。

Web サービス機能を使用するときに、Windows Vista 搭載のコンピューターから本機方向の通信を SSL で暗号化するための設定を行います。Web サービスによる通信を SSL で暗号化して、より安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



Windows Vista 搭載のコンピューターから本機方向の通信を SSL で暗号化するためには、コンピューター側から本機を DNS により名前解決できる必要があります。あらかじめ DNS サーバーに本機を登録して、コンピューター側で DNS の設定を行ってください。本機の証明書が証明機関により発行されたものでない場合は、Windows Vista でローカルコンピューター用の信頼された発行元の証明書として本機の証明書を登録しておく必要があります。

1.29.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.29.2 SSL/TLS 設定

本機との通信を SSL で暗号化します。

詳しくは、「本機の証明書を作成して SSL で通信する」(p. 1-7) をごらんください。

1.29.3 Web サービス共通設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「Web サービス設定」 – 「Web サービス共通設定」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
Friendly Name	Friendly Name を設定します（半角 62 文字以内）。	
SSL 設定	「有効」を選択します。	

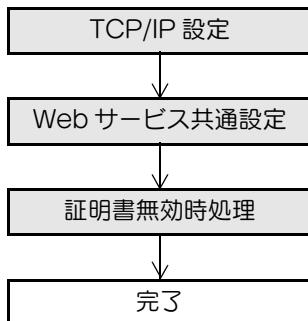
1.30 Web サービスで本機から Vista 方向の通信を SSL 通信にする



本機とコンピューター間の通信を SSL 通信にするには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。本設定と「Web サービスで Vista から本機方向の通信を SSL 通信にする」(p. 1-78) の両方の設定を実施してください。

Web サービス機能を使用するときに、本機から Windows Vista 搭載のコンピューター方向の通信を SSL で暗号化するための設定を行います。Web サービスによる通信を SSL で暗号化して、より安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



本機から Windows Vista 搭載のコンピューター方向の通信を SSL で暗号化するためには、あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートとの関連付けを行ってください（初期値：ポート番号 5385）。

1.30.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.30.2 Web サービス共通設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「Web サービス設定」 - 「Web サービス共通設定」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
Friendly Name	Friendly Name を設定します（半角 62 文字以内）。	
SSL 設定	「有効」を選択します。	

1.30.3 証明書無効時処理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	<p>受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。</p> <p>「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。</p> <p>「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。</p>	

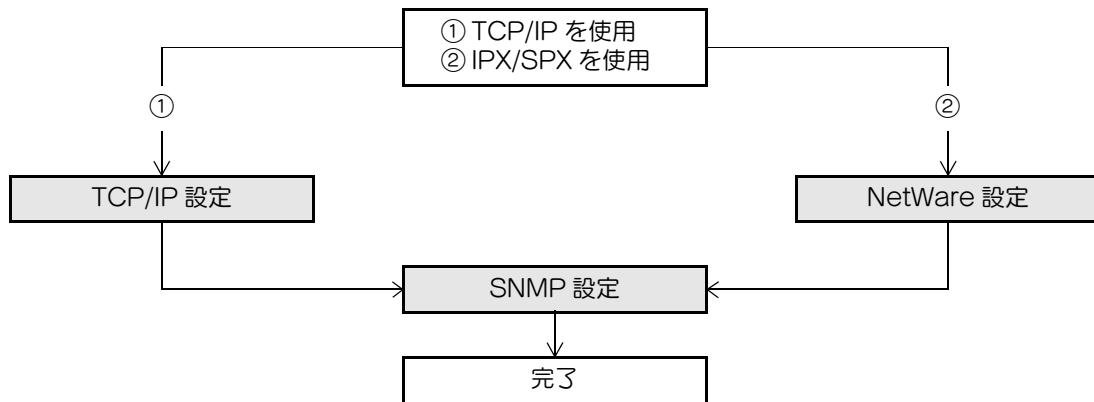
1.31 SNMP マネージャーで本機を監視する

SNMP マネージャーで本機を監視するための設定を行います。

SNMP マネージャーで本機の SNMP エージェントと通信して、ネットワーク経由で本機の情報の取得、管理および監視ができます。SNMP は TCP/IP 環境または IPX/SPX 環境で使用できます。

また、SNMP の TRAP 機能を利用して本機の状態を通知できるように設定できます。詳しくは、「[本機の状態を通知する \(TRAP\)](#)」(p. 1-87) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.31.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.31.2 NetWare 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「NetWare 設定」 – 「NetWare 設定」を選択します。

以下の設定を行います。

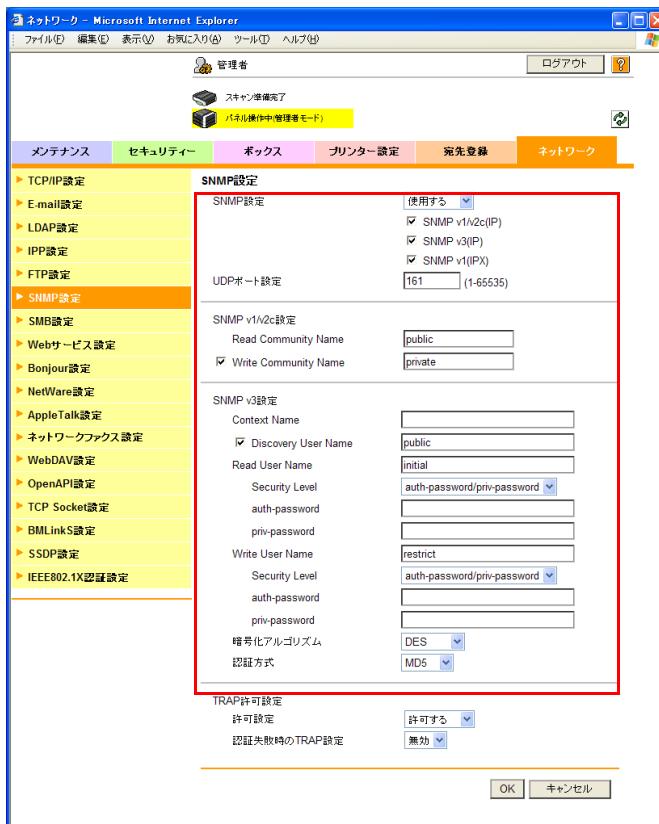


項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ

1.31.3 SNMP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SNMP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
SNMP 設定	SNMP を使用するかどうかを設定します。使用する場合、SNMP v1/v2c (IP)、SNMP v3、SNMP v1 (IPX) を使用するかどうか設定できます。 SNMP v1 (IPX) は IPX が有効時のみ設定できます。	使用するプロトコル (TCP/IP または IPX/SPX)
UDP ポート設定	初期値 : 161 UDP ポート番号を設定します。	
SNMP v1/v2c 設定	SNMP v1/v2c に関する設定を行います。	
Read Community Name	読み取り時に使用されるコミュニティ名を設定します (半角 15 文字以下)。	
Write Community Name	読み書き用のコミュニティ名を設定します (半角 15 文字以下)。	
SNMP v3 設定	SNMP v3 に関する設定を行います。	
Context Name	コンテキスト名を設定します (半角 63 文字以下)。	
Discovery User Name	検出用ユーザー名を設定します (半角 32 文字以下)。	
Read User Name	読み取り専用ユーザーのユーザー名を設定します (半角 32 文字以下)。	
Security Level	読み取り専用ユーザーのセキュリティレベルを設定します。	
auth-password	認証に使用する読み取り専用ユーザーの認証パスワードを設定します (半角 32 文字以下)。	
priv-password	プライバシ (暗号) に使用する読み取り専用ユーザーのプライバシパスワードを設定します (半角 32 文字以下)。	

項目	説明	事前確認
Write User Name	読み書き専用ユーザーのユーザー名を設定します（半角 32 文字以下）。	
Security Level	読み書き専用ユーザーのセキュリティーレベルを設定します。	
auth-password	認証に使用する読み書き専用ユーザーの認証パスワードを設定します（半角 32 文字以下）。	
priv-password	プライバシ（暗号）に使用する読み書き専用ユーザーのプライバシパスワードを設定します（半角 32 文字以下）。	
暗号化アルゴリズム	暗号化アルゴリズムを設定します。	
認証方式	認証方式を設定します。	

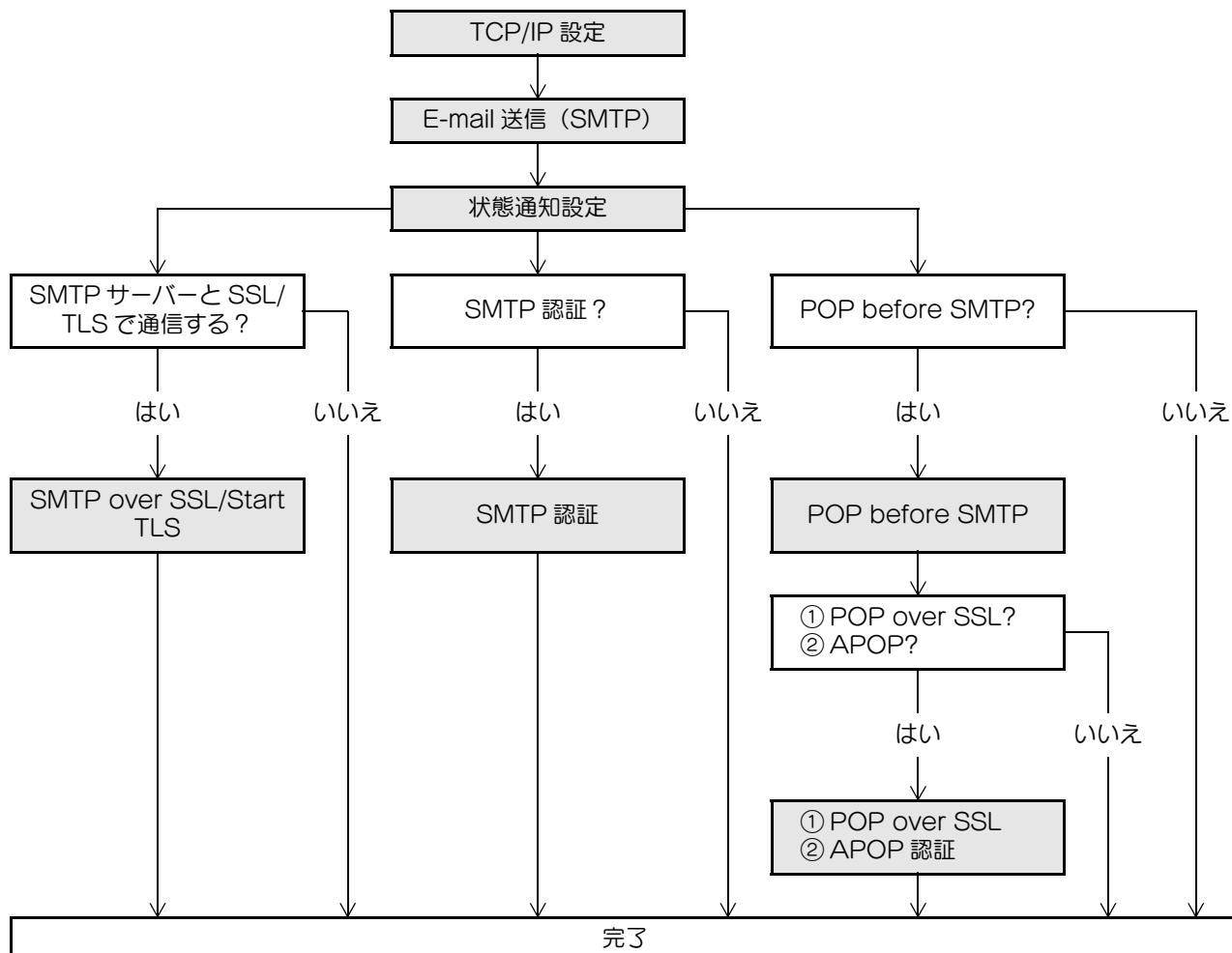
1.32 本機の状態を通知する (E-mail)

本機の状態を管理者に E-mail で通知するための設定を行います。

本機に警告が発生したときに、指定した宛先に E-mail で通知できます。

POP before SMTP、APOP、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する](#)」(p. 1-22) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.32.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.32.2 E-mail 送信 (SMTP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「E-mail 設定」 - 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
E-mail 送信設定	「E-mail 送信設定」にチェックを付けます。	
E-mail 通知機能	「使用する」を選択します。	
SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーアドレスを設定します。(書式: 「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255) DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	初期値 : 25 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

項目	説明	事前確認
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
最大メールサイズ	送信メールのサイズを制限するかどうか設定します。	
サーバー容量	最大メールサイズを制限する場合は、添付ファイルを含むメールサイズの上限値を設定します。 上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
管理者アドレス	管理者のアドレスが表示されます。 管理者アドレスが設定されていない場合は、「本体登録」で管理者アドレスを設定してください。	管理者のアドレス
バイナリー分割	メールを分割する場合は、「バイナリー分割」にチェックを付けます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
分割メールサイズ	メールを分割する場合は、分割サイズを設定します。	サーバーの受信制限値

1.32.3 状態通知設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「状態通知設定」 – 「E-mail宛先」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
通知先アドレス	通知先アドレスを設定します。	通知先のアドレス
トレイ紙補給	トレイの用紙がなくなったときに通知します。	
ジャム発生	紙づまりが発生したときに通知します。	
PM コール	定期点検が必要になったときに通知します。	
ステープル針交換	ステープルの針がなくなったときに通知します。	
トナー補給	トナーがなくなったときに通知します。	
フィニッシャー積載オーバー	フィニッシャー積載オーバーを通知します。	
サービスコール	サービスコールが発生したときに通知します。	
ジョブ終了	ジョブが終了したことを通知します。	
パンチくず除去	パンチくずの除去が必要なときに通知します。	
定着ユニットライフ	定着ユニットの交換が必要なときに通知します。	

1.32.4 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP over SSL/Start TLS](#)」(p. 1-24) をごらんください。

1.32.5 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP 認証](#)」(p. 1-25) をごらんください。

1.32.6 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、「[POP before SMTP](#)」(p. 1-26) をごらんください。

1.32.7 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.32.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

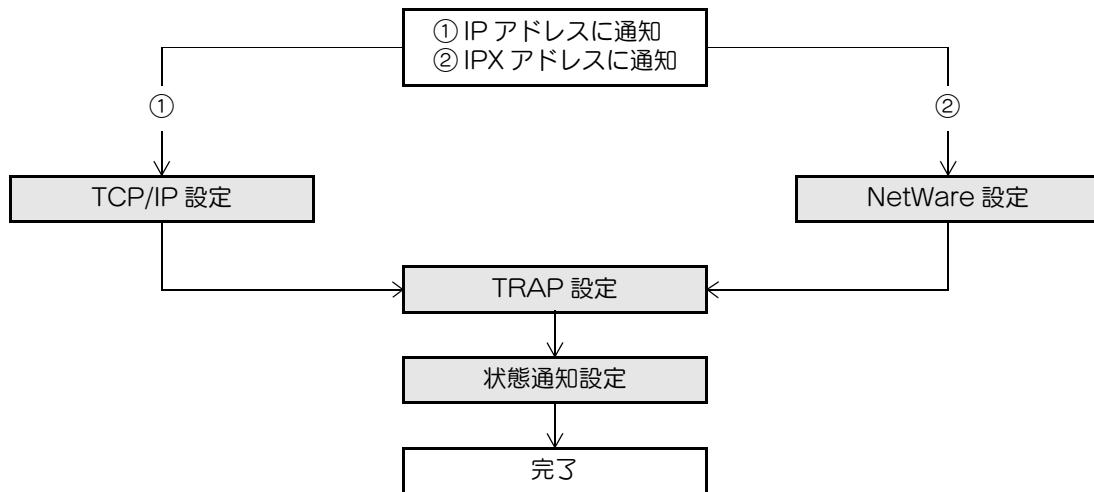
詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

1.33 本機の状態を通知する (TRAP)

本機の状態を管理者に SNMP の TRAP 機能で通知するための設定を行います。

本機に警告が発生したときに、指定した IP アドレスまたは IPX アドレスに TRAP で通知できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



SNMP の TRAP 機能を使用するためには、あらかじめ SNMP の設定を行ってください。詳しくは、「[SNMP マネージャーで本機を監視する](#)」(p. 1-81) をごらんください。

1.33.1 TCP/IP 設定

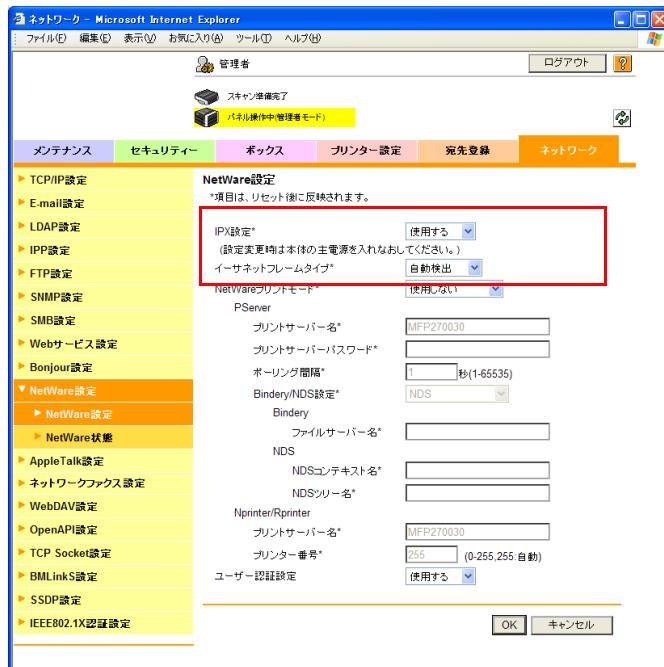
TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.33.2 NetWare 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「NetWare 設定」 – 「NetWare 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ

1.33.3 TRAP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SNMP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
TRAP 許可設定	「許可する」を選択します。	
認証失敗時の TRAP 設定	認証失敗時に TRAP 機能を使用するかどうかを設定します。	

1.33.4 状態通知設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「状態通知設定」 – 「IP (IPX) アドレス」 – [編集] を選択します。

設定内容について詳しくは、「[状態通知設定](#)」(p. 1-85) をご覧ください。

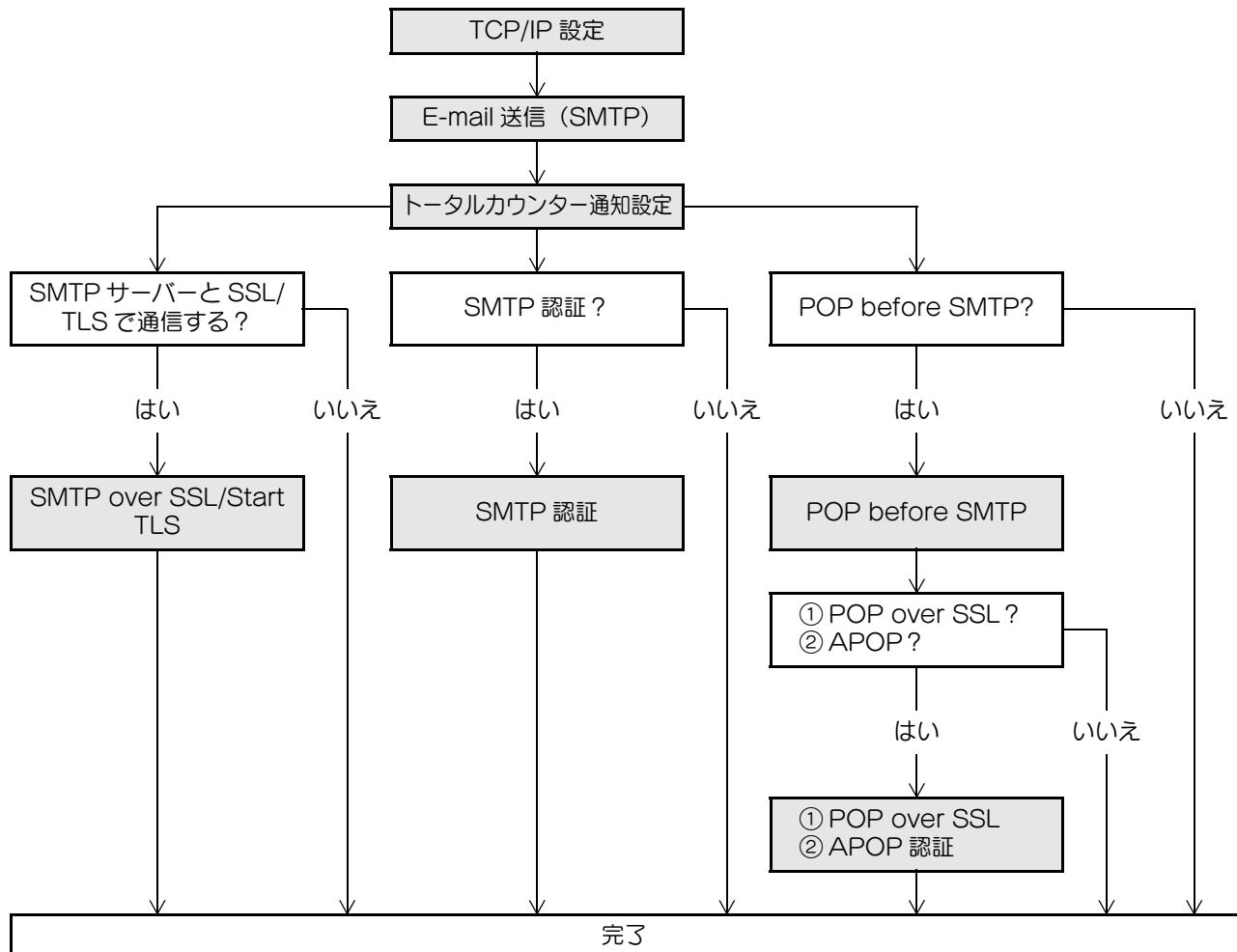
1.34 本機のカウンター情報を E-mail で通知する

本機のカウンター情報を E-mail で通知するための設定を行います。

本機で管理されているカウンター情報を、指定した宛先に E-mail で通知できます。本機のカウンターは、PageScope Web Connection の「メンテナンス」タブの「カウンター」からでも確認できます。

POP before SMTP、APOP、SMTP 認証や SSL/TLS による暗号化を組み合わせて通信できます。詳しくは、「[スキャンしたデータを E-mail で送信する](#)」(p. 1-22) をごらんください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.34.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.34.2 E-mail 送信 (SMTP)

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「E-mail 設定」 – 「E-mail 送信 (SMTP)」を選択します。

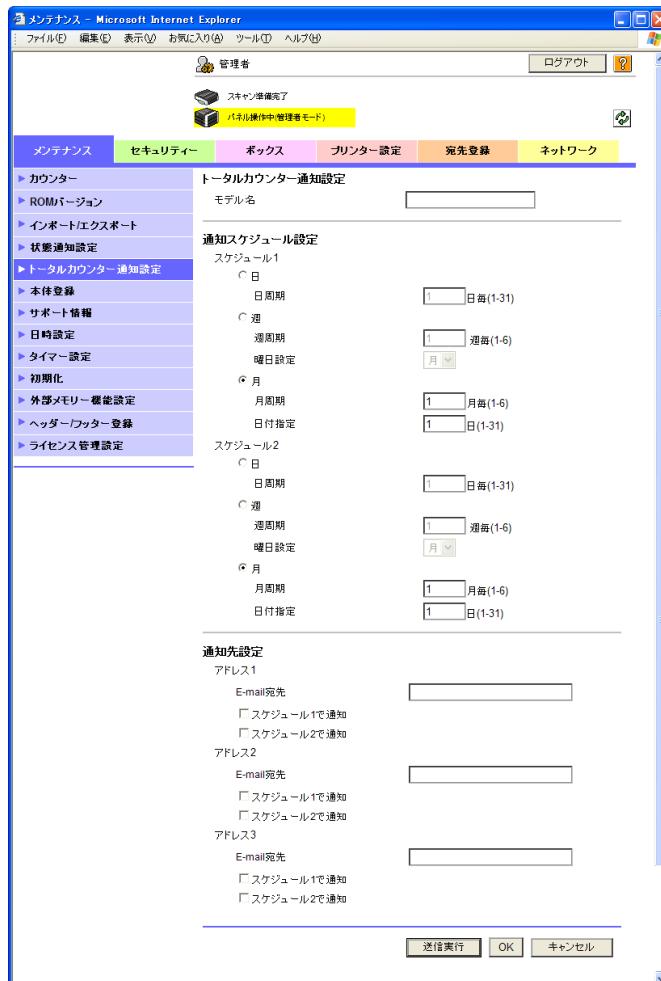
以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
E-mail 送信設定	「E-mail 送信設定」にチェックを付けます。	
トータルカウンター通知機能	「使用する」を選択します。	
SMTP サーバーアドレス	SMTP サーバーアドレスを設定します。(書式 : 「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255) DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	初期値 : 25 ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
接続タイムアウト	サーバーとの接続タイムアウトを設定します。	
最大メールサイズ	送信メールのサイズを制限するかどうか設定します。	
サーバー容量	最大メールサイズを制限する場合は、添付ファイルを含むメールサイズの上限値を設定します。 上限値を超えるメールは破棄されます。 メールを分割する場合は、この設定は無効となります。	サーバーの受信制限値
管理者アドレス	管理者のアドレスが表示されます。 管理者アドレスが設定されていない場合は、「本体登録」で管理者アドレスを設定してください。	管理者のアドレス
バイナリー分割	メールを分割する場合は、「バイナリー分割」にチェックを付けます。 メールを受信したメールソフトに復元機能がない場合は、メールを読むことができない可能性があります。	メールソフトの復元機能
分割メールサイズ	メールを分割する場合は、分割サイズを設定します。	サーバーの受信制限値

1.34.3 トータルカウンター通知設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「トータルカウンター通知設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
モデル名	通知メールに記載されるモデル名を設定します（半角 20 文字以内）。	
通知スケジュール設定	通知するスケジュールの条件を設定します。スケジュール 1 と 2 で異なる設定を登録できます。	通知スケジュール
通知先設定	通知先アドレスを設定します（半角 320 文字以内）。通知スケジュールを選択します。	通知先アドレス

1.34.4 SMTP over SSL/Start TLS

SMTP over SSL/Start TLS の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP over SSL/Start TLS](#)」(p. 1-24) をごらんください。

1.34.5 SMTP 認証

SMTP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[SMTP 認証](#)」(p. 1-25) をごらんください。

1.34.6 POP before SMTP

POP before SMTP の設定を行います。

詳しくは、「[POP before SMTP](#)」(p. 1-26) をごらんください。

1.34.7 POP over SSL

POP over SSL の設定を行います。

詳しくは、「[POP over SSL](#)」(p. 1-27) をごらんください。

1.34.8 APOP 認証

APOP 認証の設定を行います。

詳しくは、「[APOP 認証](#)」(p. 1-28) をごらんください。

1.34.9 カウンター

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「カウンター」を選択します。

本機で管理されているカウンター情報を確認できます。

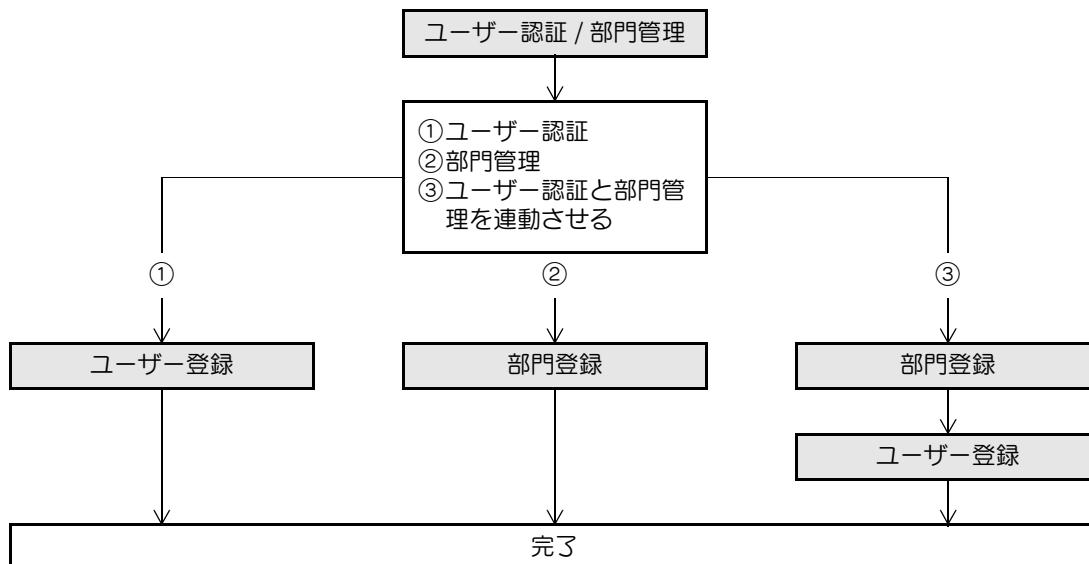
用紙サイズ	用紙種類	カウント値
A3	指定なし	0
B4	指定なし	0
A4	指定なし	13
B5	指定なし	0
A5	指定なし	0
B6	指定なし	0
8 1/2" x 14"	指定なし	0
8 1/2" x 11"	指定なし	0
はがき	指定なし	0
不明	指定なし	0

1.35 本機を使用するユーザーを制限する（本体装置認証）

本体装置認証で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

本機の使用を制限するユーザー認証や部門管理の設定ができます。ユーザー認証は個人を管理するとき、部門管理はグループや複数のユーザーを管理するときに設定するのが適しています。ユーザー認証と部門管理を組み合わせて使用すると、ユーザー別に各部門のカウント管理ができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



本体装置認証について詳しくは、「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

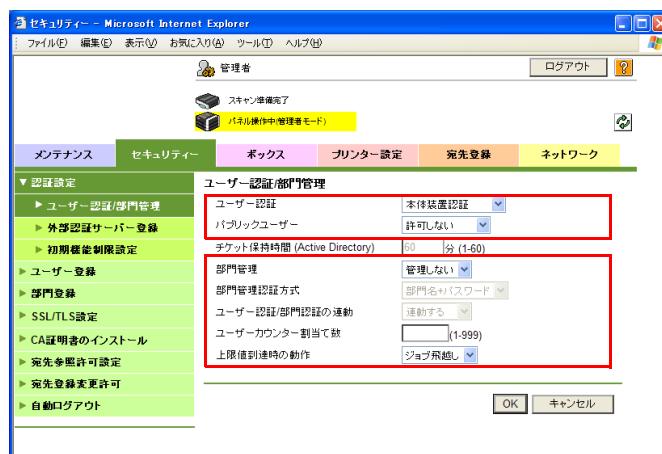
1.35.1 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「本体装置認証」を選択します。	
パブリックユーザー	パブリックユーザーを許可するかどうか設定します。	パブリックユーザーを許可するか
部門管理	部門管理を行う場合は、「管理する」を選択します。	部門管理するか
部門管理認証方式	部門管理を行う場合は、認証方式を選択します。	

項目	説明	事前確認
ユーザー認証 / 部門認証の連動	ユーザー認証と部門管理を連動させる場合は、「連動する」を選択します。	ユーザー認証と部門管理を連動させるか
ユーザー カウンター割当て数	ユーザー認証と部門管理を行う場合、ユーザー カウンターの割当て数を設定します。	
上限値到達時の動作	コピーや印刷枚数が上限値に到達した場合の動作を設定します。	



セキュリティ強化設定が ON の場合、認証方式で「認証しない」は選択できません。また、パブリックユーザーは「許可しない」が設定されます。

1.35.2 ユーザー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティ」タブ - 「ユーザー登録」 - [新規登録] を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。

項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号を入力します。	
ユーザー名	ユーザー名を入力します。	
E-mail宛先	E-mail アドレスを入力します。	
ユーザーパスワード	パスワードを入力します。	
ユーザーパスワードの再入力	パスワードを再入力します。	
所属部門	所属する部門を登録します。所属部門を選択する前に部門登録が必要です。ユーザー認証と部門管理が連動する設定となっている場合に表示されます。	
アイコンを指定する	[一覧より選択] から、登録するユーザーのアイコンを指定します。	
機能制限	コピー操作、スキャン操作、外部メモリー保存、ファックス操作、プリンター印字、蓄積文書操作、送信機能印字を許可するかどうかをそれぞれ設定します。	
上限設定	出力の上限を設けるかどうかを設定します。	
参照許可設定	登録するユーザーの宛先参照権限を設定します。 「参照許可グループ」を選択した場合は、「参照許可グループ一覧より選択」をクリックして、一覧から参照許可グループを選択します。「参照可能レベル」を選択した場合は、レベル値を設定します。	

 詳しく説明します

- ・「パスワード規約」を ON に設定している場合、8 文字未満のパスワードを登録することはできません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は「パスワード規約」を ON にする前に 8 文字に変更してください。パスワード規約について詳しくは「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。
- ・参照許可設定について詳しくは、「[ユーザーごとに参照できる宛先を制限する](#)」(p. 1-143) をごらんください。

1.35.3 部門登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「部門登録」 – [新規登録] を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号を入力します。	
部門名	部門名を入力します。	
パスワード	パスワードを入力します。	
パスワードの再入力	パスワードを再入力します。	
上限設定	出力の上限を設けるかどうかを設定します。	

詳しく説明します

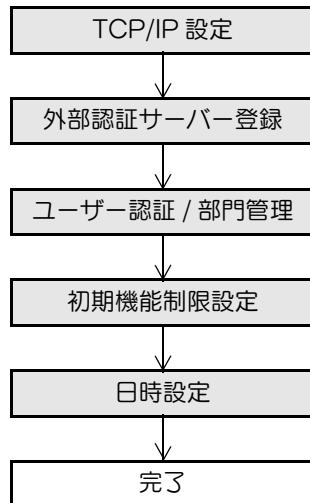
「パスワード規約」を ON に設定している場合、8 文字未満のパスワードを登録することはできません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は「パスワード規約」を ON にする前に 8 文字に変更してください。パスワード規約について詳しくは「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

1.36 本機を使用するユーザーを制限する (Active Directory)

Active Directory で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

Windows 2000 Server、Windows 2003 Server の Active Directory で認証させたい場合にこの設定を行います。ユーザー別に使用できる機能を制限することができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.36.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

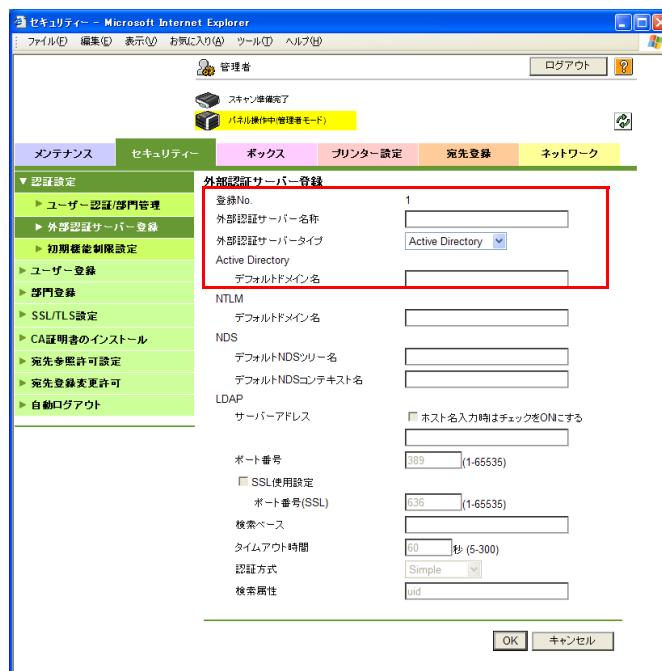
Active Directory を使用する場合は、本機の DNS サーバー設定で Active Directory と連携している DNS サーバーを指定します。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をご覧ください。

1.36.2 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「外部認証サーバー登録」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	

項目	説明	事前確認
外部認証サーバー名称	外部認証サーバー名称を入力します(半角32文字以内)。	
外部認証サーバータイプ	「Active Directory」を選択します。	
デフォルトドメイン名	デフォルトドメイン名を入力します。	デフォルトドメイン名

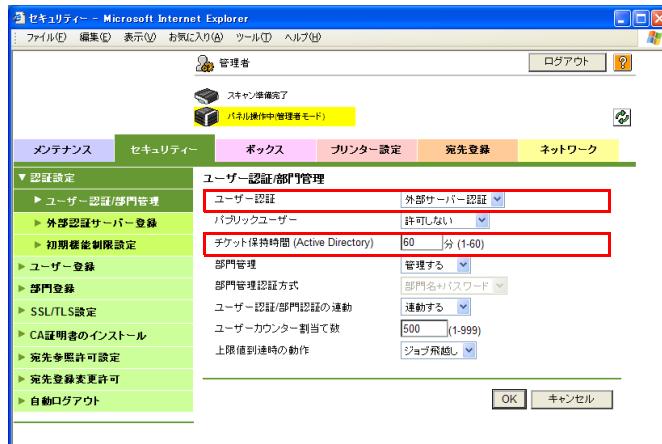
1.36.3 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「外部サーバー認証」を選択します。	
チケット保持時間 (Active Directory)	チケット保持時間を設定します。	

1.36.4 初期機能制限設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「初期機能制限設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
コピー操作	認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限します。各操作について、許可するかどうかを設定します。	
スキャン操作		
外部メモリー保存		
ファクス操作		
プリンター印字		
蓄積文書操作		
送信機能印字		
手動宛先入力		

1.36.5 日時設定

Active Directory を使用する場合は、本機の日時を設定します。

詳しくは、「[本機の日時を設定する](#)」(p. 1-16) をごらんください。

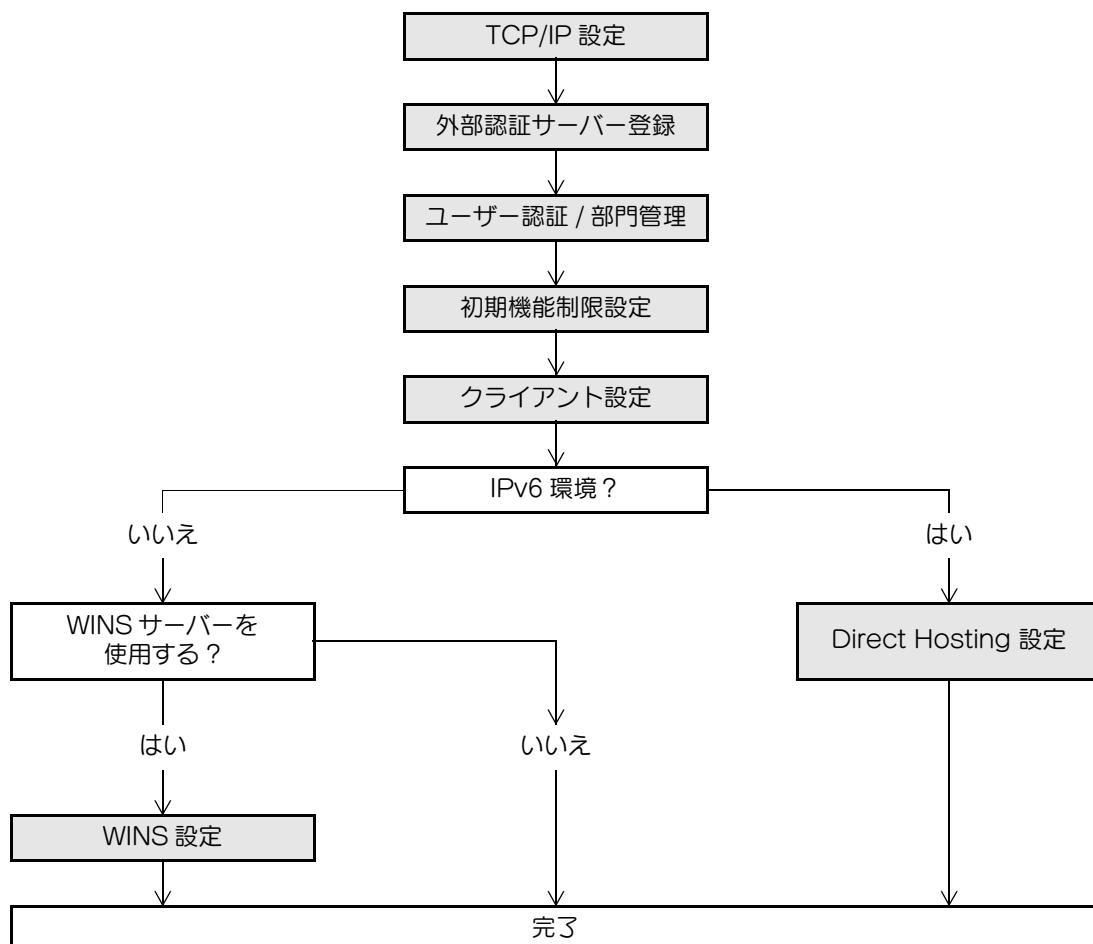
1.37 本機を使用するユーザーを制限する (Windows ドメイン / ワークグループ)

NTLM 認証で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

Windows NT 4.0 を使用している場合や Windows 2000 Server、Windows Server 2003 で Active Directory を利用しない場合など、NTLM で認証させたい場合にこの設定を行います。ユーザー別に使用できる機能を制限することができます。

本機はダイレクトホスティングサービスに対応しています。IPv6 環境で NTLM 認証をするには、Direct Hosting 設定を有効にする必要があります。Direct Hosting 設定を有効にすると、本機は DNS サーバーを利用し、Windows サーバーの IPv6 アドレスを取得します。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.37.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

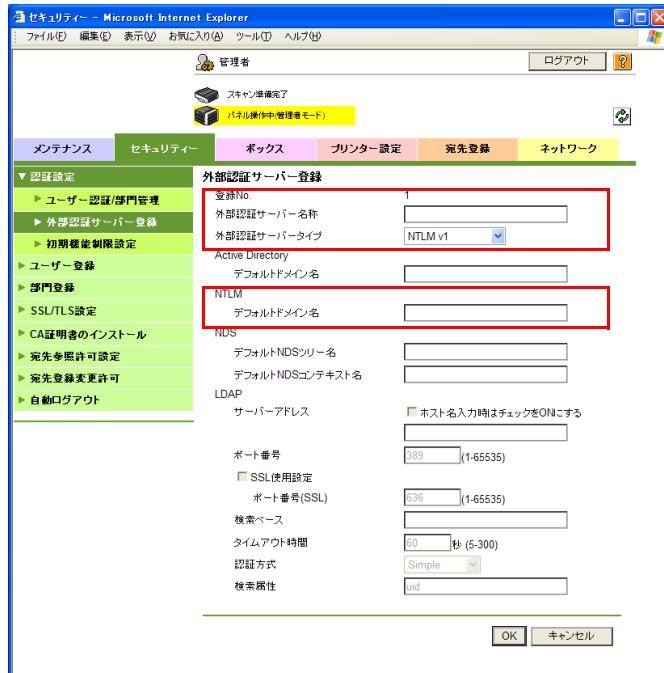
IPv6 環境で NTLM 認証をする場合には、Direct Hosting 設定を有効にする必要があります。DNS サーバーを用意し、必ず本機の DNS 設定を正しく行ってください。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う \(p. 1-2\)](#)」をごらんください。

1.37.2 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「外部認証サーバー登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	
外部認証サーバー名称	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
外部認証サーバータイプ	「NTLM v1」または「NTLM v2」を選択します。 NTLMv2 は Windows NT4.0 (SP4) から適用されています。	
デフォルトドメイン名	デフォルトドメイン名を入力します。 デフォルトドメイン名は大文字で入力してください。	デフォルトドメイン名

1.37.3 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「外部サーバー認証」を選択します。	

1.37.4 初期機能制限設定

認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限します。

詳しくは、「[初期機能制限設定](#)」(p. 1-99) をごらんください。

1.37.5 クライアント設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SMB 設定」 – 「クライアント設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証 (NTLM)	「使用する」を選択します。	

ひとこと

ユーザー認証 (NTLM) を「使用しない」に設定すると、連動してユーザー認証が本体装置認証に切替わります。

1.37.6 WINS 設定

WINS サーバーを使用する場合は、WINS サーバーの設定を行います。

詳しくは、「[WINS 設定](#)」(p. 1-21) をごらんください。

1.37.7 Direct Hosting 設定

IPv6 環境で NTLM 認証をする場合は、Direct Hosting 設定を有効にします。

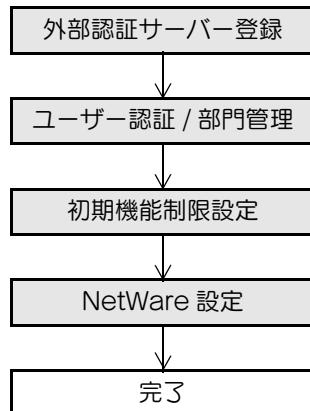
詳しくは、「[Direct Hosting 設定](#)」(p. 1-20) をごらんください。

1.38 本機を使用するユーザーを制限する (NDS)

NDS で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

NetWare 5.1、NetWare 6.0 を使用して、NDS で認証させたい場合にこの設定を行います。ユーザー別に使用できる機能を制限することができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



NDS が使用できるのは、プロトコルとして IPX を使用しているときだけです。IP のときは使用できません。

1.38.1 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「外部認証サーバー登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	
外部認証サーバー名称	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
外部認証サーバータイプ	「NDS」を選択します。	
デフォルト NDS ツリー名	デフォルト NDS ツリー名を入力します。	
デフォルト NDS コンテキスト名	デフォルト NDS コンテキスト名を入力します。	

1.38.2 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「外部サーバー認証」を選択します。	

1.38.3 初期機能制限設定

認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限します。

詳しくは、「[初期機能制限設定](#)」(p. 1-99) をごらんください。

1.38.4 NetWare 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「NetWare 設定」 – 「NetWare 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



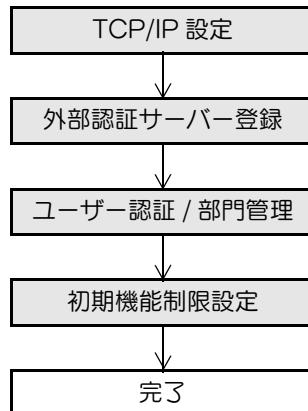
項目	説明	事前確認
IPX 設定	「使用する」を選択します。	
イーサネットフレームタイプ	使用するフレームタイプを設定します。	フレームタイプ
ユーザー認証設定	「使用する」を選択します。	

1.39 本機を使用するユーザーを制限する (NDS over TCP/IP)

NDS で本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

NetWare 5.1、NetWare 6.0、NetWare 6.5 を使用して、NDS over TCP/IP で認証させたい場合にこの設定を行います。ユーザー別に使用できる機能を制限することができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



NetWare の各バージョンには、最新のサービスパックを適用してください。

1.39.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

NDS over TCP/IP を使用する場合は、本機の DNS サーバー設定で、DNS サーバーを指定する必要があります。認証時には、ツリー名およびコンテキスト名を、指定した DNS サーバーに問い合わせることにより NDS 認証サーバーの IP アドレスを取得します。

詳しくは「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をご覧ください。

1.39.2 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「外部認証サーバー登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。

The screenshot shows the 'External Authentication Server Registration' dialog box. The 'NDS' section is highlighted with a red box. It contains the following fields:

- Default NDS Context Name: []
- Default NDS Container Name: []

Other sections include:

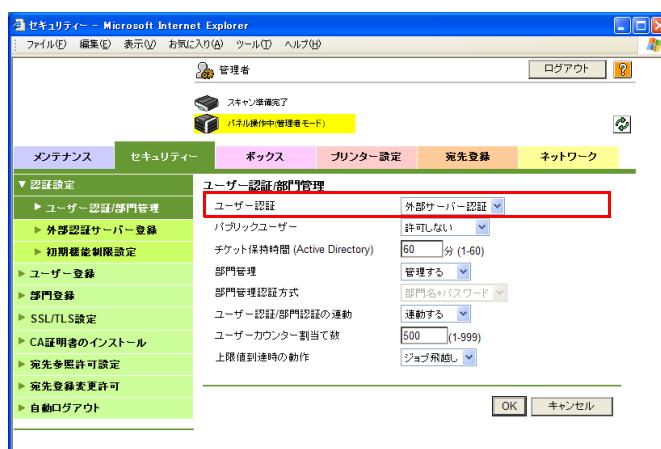
- Active Directory: Default Domain Name: []
- SSL/TLS: Port Number: 389 (1-65535), SSL Usage Setting: []
- LDAP: Server Address: [], Host Name Input Check: []
- Common: Port Number: 389 (1-65535), Search Base: [], Time Out: 60 sec (5-300), Authentication Method: Simple, Search Attribute: uid

項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	
外部認証サーバー名称	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
外部認証サーバータイプ	「NDS over TCP/IP」を選択します。	
デフォルト NDS ツリー名	デフォルト NDS ツリー名を入力します（半角 63 文字以内）。	
デフォルト NDS コンテキスト名	デフォルト NDS コンテキスト名を入力します（半角 191 文字以内）。	

1.39.3 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「外部サーバー認証」を選択します。	

1.39.4 初期機能制限設定

認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限します。

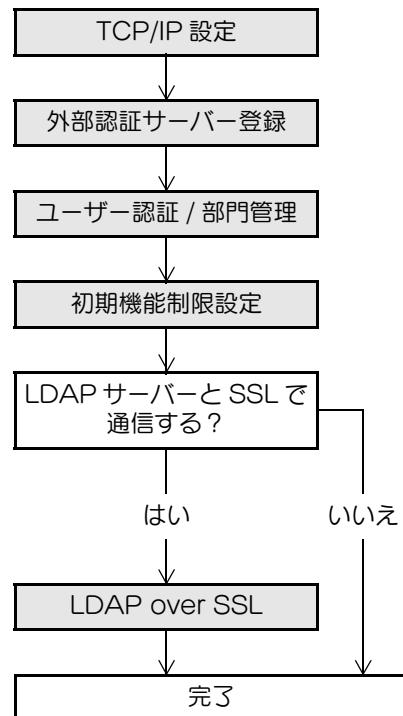
詳しくは、「初期機能制限設定」(p. 1-99) をごらんください。

1.40 本機を使用するユーザーを制限する (LDAP)

LDAP サーバーで本機を使用するユーザーを制限するための設定を行います。

LDAP サーバーで認証させたい場合にこの設定を行います。ユーザー別に使用できる機能を制限することができます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.40.1 TCP/IP 設定

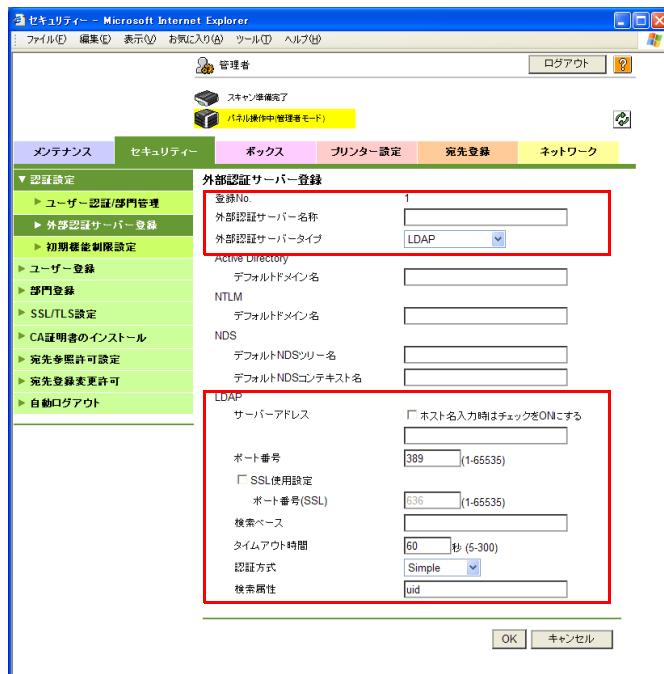
TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をご覧ください。

1.40.2 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「認証設定」 - 「外部認証サーバー登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
登録 No.	登録番号が表示されます。	
外部認証サーバー名称	外部認証サーバー名称を入力します（半角 32 文字以内）。	
外部認証サーバータイプ	「LDAP」を選択します。	
サーバーアドレス	LDAP サーバーアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。 IPv6 でも設定できます。	サーバーのアドレス
ポート番号	ポート番号を設定します。	サーバーのポート番号
検索ベース	LDAP サーバーに配置されている階層構造の中の検索起点を設定します。検索は、設定した起点から下のサブディレクトリも含めて行われます。	
タイムアウト時間	検索処理中の最大待ち時間を設定します。	
認証方式	LDAP サーバーへログインするときの認証方式を選択します。	サーバーの認証方式
検索属性	認証方式で「Digest-MD5」を選択した場合は、検索属性を設定します。	

1.40.3 ユーザー認証 / 部門管理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「ユーザー認証 / 部門管理」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、このメニューは表示されません。



項目	説明	事前確認
ユーザー認証	「外部サーバー認証」を選択します。	

1.40.4 初期機能制限設定

認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限します。

詳しくは、「初期機能制限設定」(p. 1-99) をごらんください。

1.40.5 LDAP over SSL

■ 外部認証サーバー登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「認証設定」 – 「外部認証サーバー登録」 – 「編集」を選択します。

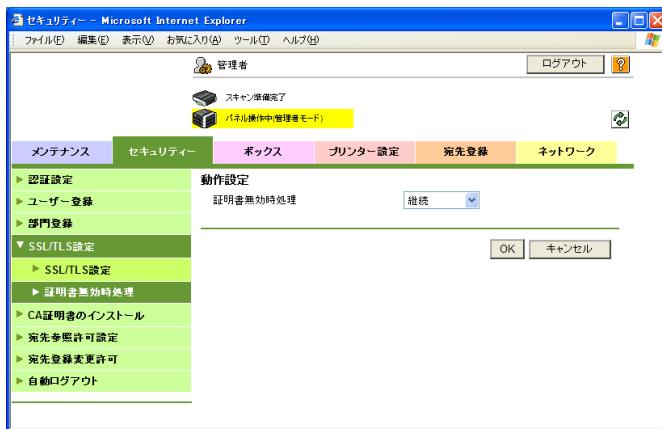
以下の設定を行います。

項目	説明	事前確認
SSL 使用設定	本機と LDAP サーバー間の通信を SSL で暗号化する場合は、「SSL 使用設定」にチェックを付けます。	サーバーは SSL に対応するか
ポート番号 (SSL)	SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	サーバーのポート番号

■ 証明書無効時処理

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「SSL/TLS 設定」 – 「証明書無効時処理」を選択します。

以下の設定を行います。



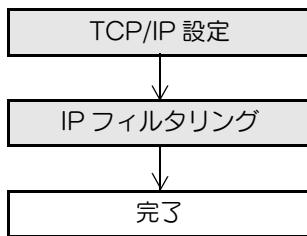
項目	説明	事前確認
証明書無効時処理	受け取った証明書の有効期間が失効していた場合の動作を設定します。 「継続」を選択した場合は、証明書の日付が無効でも処理を継続します。 「ジョブを削除」を選択した場合は、証明書の日付が無効のときジョブを削除します。	

1.41 IP アドレスフィルタリングを行う

IP アドレスフィルタリングを行うための設定を行います。

IP アドレスフィルタリングを行うことで、指定した IP アドレスからのアクセスを制限できます。本機へのアクセスを許可するアドレスと拒否するアドレスを指定できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.41.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をごらんください。

1.41.2 IP フィルタリング

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「TCP/IP 設定」 - 「IP フィルタリング」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
許可設定	許可アドレスを指定する場合は、「有効」を選択します。	
範囲 1 ~ 5	許可するアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。	許可するアドレス
拒否設定	拒否アドレスを指定する場合は、「有効」を選択します。	
範囲 1 ~ 5	拒否するアドレスを設定します（書式：「***.***.***.***」、*** : 0 ~ 255）。	拒否するアドレス

1.42 IPv6 で通信する

IPv6 で通信するための設定を行います。

IPv6 アドレスを本機に割り当てて使用したい場合に設定します。IPv6 を使用する場合、IPv4 と同時に動作させることができますが、IPv6 のみで使用することはできません。

本機を IPv6 環境で使用する場合、以下の制限があります。

- SMB で印刷できません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- SMB でスキャンデータを送信できません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- SMB ブラウジングができません。
- NTLM 認証ができません（ダイレクトホスティングサービスの場合は可能）。
- DHCPv6 を使用できません。
- IP フィルタリングができません。
- プリンタードライバーのインストーラーを使用できません。
- PageScope Web Connection を Flash で表示できません。



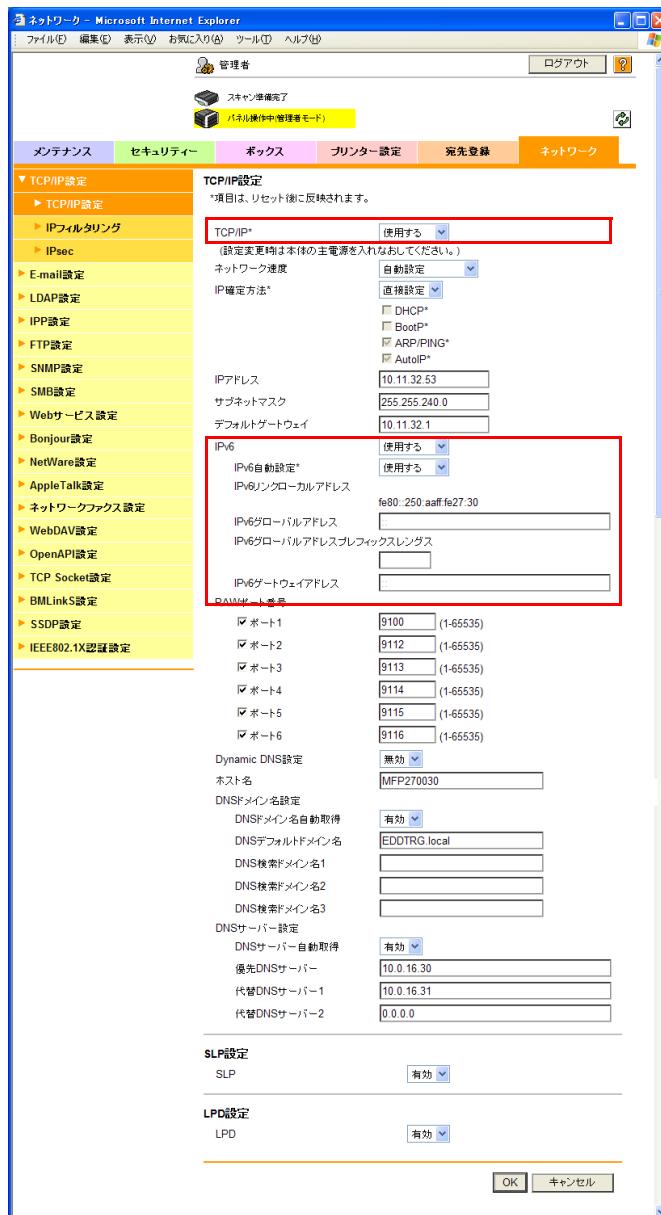
ダイレクトホスティングサービスについて詳しくは、以下の参照先をごらんください。

- ・「スキャンしたデータを Windows コンピューターに送信する」(p. 1-18)
- ・「プリントする (SMB)」(p. 1-62)
- ・「本機を使用するユーザーを制限する (Windows ドメイン／ワークグループ)」(p. 1-100)

■ TCP/IP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「TCP/IP 設定」 - 「TCP/IP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
TCP/IP 設定	「使用する」を選択します。	
IPv6	「使用する」を選択します。	
IPv6 自動設定	IPv6 アドレスを自動取得する場合は、「使用する」を選択します。	IPv6 アドレスを自動取得するか
IPv6 リンクローカルアドレス	MAC アドレスから生成されたリンクローカルアドレスが表示されます。	
IPv6 グローバルアドレス	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 グローバルアドレスを設定します。	IPv6 アドレス
IPv6 グローバルアドレス プレフィックスレンジス	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 グローバルアドレスプレフィックスレンジスを設定します。	プレフィックスレンジス
IPv6 ゲートウェイアドレス	IPv6 アドレスを自動取得しない場合は、IPv6 ゲートウェイアドレスを設定します。	ゲートウェイアドレス



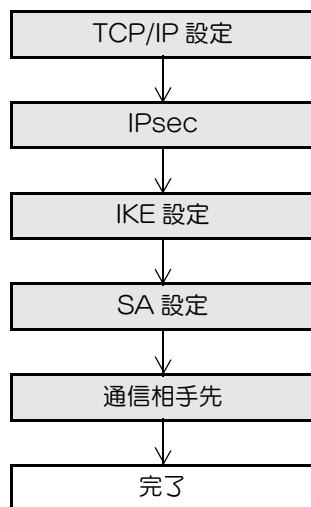
必要に応じて DNS の設定を行ってください。詳しくは、「TCP/IP で通信するための基本設定を行う」(p. 1-2) をご覧ください。

1.43 IPsec で通信する

IPsec で通信するための設定を行います。

IPsec で通信することで、IP パケット単位でデータの改ざんや漏洩を防止できます。これによって、暗号化をサポートしていないトランスポートやアプリケーションを用いても、安全に通信できます。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.43.1 TCP/IP 設定

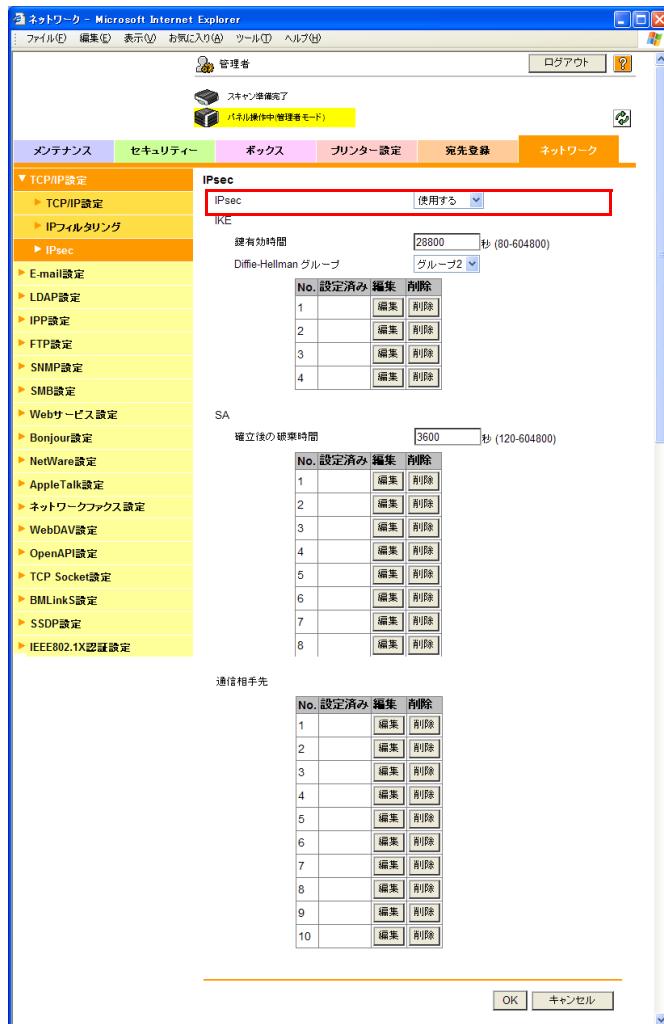
TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.43.2 IPsec

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「IPsec」を選択します。

以下の設定を行います。

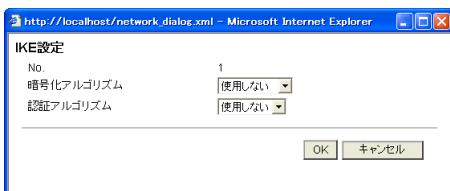


項目	説明	事前確認
IPsec	「使用する」を選択します。	

1.43.3 IKE 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「IPsec」 – 「IKE」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。(IKE は 4 グループまで登録できます。)



項目	説明	事前確認
鍵有効時間	制御用トンネルを作るときに生成される鍵の有効時間を設定します。	
Diffie-Hellman グループ	Diffie-Hellman グループを選択します。	
暗号化アルゴリズム	制御用トンネルを作るときに使用する暗号化アルゴリズムを選択します。	
認証アルゴリズム	制御用トンネルを作るときに使用する認証アルゴリズムを選択します。	

1.43.4 SA 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「IPsec」 – 「SA」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。(SA は 8 グループまで登録できます。)



項目	説明	事前確認
確立後の破棄時間	通信用トンネルをつくる際に生成される鍵の有効時間を設定します。	
セキュリティープロトコル	セキュリティープロトコルを選択します。	
ESP 暗号化アルゴリズム	セキュリティープロトコルで「ESP」を選択した場合は、ESP 暗号化アルゴリズムを設定します。	
ESP 認証アルゴリズム	セキュリティープロトコルで「ESP」を選択した場合は、ESP 認証アルゴリズムを設定します。	
AH 認証アルゴリズム	セキュリティープロトコルで「AH」を選択した場合は、AH 認証アルゴリズムを設定します。	

1.43.5 通信相手先

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP/IP 設定」 – 「IPsec」 – 「通信相手先」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。(通信相手先は 10 台まで登録できます。)



項目	説明	事前確認
Perfect Forward Secrecy	IKE の強度を上げたい場合は、「使用する」を選択します。	
通信相手先	相手先の IP アドレスを設定します。	相手先の IP アドレス
Pre-Shared Key 文字列	通信相手先と共に共有する Pre-Shared Key 文字列を設定します。	
カプセル化モード	IPsec の動作モードを設定します。	

1.44 IEEE802.1X 認証を行う

IEEE802.1X 認証が導入された有線 LAN 環境で本機を使用する場合に、本機のサプライカント（認証クライアント）機能の設定を行います。

IEEE802.1X 認証を行うことで、管理者が許可した機器以外が、LAN 環境へ接続することを制限できます。本機の設定は、ご使用の環境に合わせて行ってください。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.44.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をご覧ください。

1.44.2 クライアント証明書のインストール

利用する EAP 認証方式によって、本機にクライアント証明書をインストールします。

- ・EAP-Type が「EAP-TLS」の場合は、クライアント証明書のインストールが必須です。
- ・EAP-Type が「EAP-TTLS」または「PEAP」の場合は、ご利用方法によってはクライアント証明書のインストールが必要になります。

クライアント証明書のインストールについて詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をご覧ください。

1.44.3 CA 証明書のインストール

サーバー証明書の CA 信頼性検証を行う場合は、本機に CA 証明書をインストールします。

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「CA 証明書のインストール」を選択し、以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
CA 証明書のインストール	ルート CA 証明書 (PEM 形式) を貼り付けます。サーバー証明書の CA 信頼性検証に使用されます。	

1.44.4 IEEE802.1X 認証設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「IEEE802.1X 認証設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明		事前確認
認証状態	<p>認証状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証済み：認証済みの場合に表示 ・認証中：認証中の場合に表示 ・未認証：未認証の場合に表示 ・認証失敗：認証失敗の場合に表示 ・状態取得失敗：認証状態取得失敗時に表示 <p>[更新] を押すと、現在の認証状態に更新されます。</p>		
IEEE802.1X 認証設定	「使用する」を選択します。		
ユーザー ID	ユーザー ID を入力します(半角 128 文字以内)。ユーザー ID は、すべての EAP-Type で使用します。		
パスワード	パスワードを入力します(半角 128 文字以内)。パスワードは、「EAP-TLS」以外の EAP-Type で使用します。		
EAP-Type	<p>EAP 認証方式を選択します。</p> <p>「サーバーに依存」を選択した場合は、認証サーバーが提供する EAP-Type で認証します。認証サーバーが提供する EAP-Type に合わせて、本機で必要なサブリカントの設定を行ってください。</p> <p>「しない」には設定しないでください。</p>		EAP 認証方式
EAP-TTLS 内部認証	ユーザー ID	EAP-TTLS の認証で使用する anonymous 名を入力します(半角 128 文字以内)。EAP-Type が、「EAP-TTLS」または「サーバーに依存」の場合に設定できます。	
	プロトコル	EAP-TTLS の内部認証プロトコルを選択します。EAP-Type が、「EAP-TTLS」または「サーバーに依存」の場合に設定できます。	
暗号強度	<p>TLS で暗号化通信を行うときの暗号強度を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低：すべての鍵長で通信 ・中：56 bit 超の鍵長で通信 ・高：128 bit 超の鍵長で通信 <p>EAP-Type で、「しない」または「EAP-MD5」以外を選択した場合に設定できます。</p>		
サーバー証明書検証	有効期限	サーバー証明書が有効期限内であることを確認するかどうか選択します。	
	CA 信頼性	<p>サーバー証明書のチェーン(証明のパス)に問題ないことを確認するかどうか選択します。</p> <p>チェーンの確認は、本機に登録されたルート CA 証明書を参照して行います。詳しくは、「CA 証明書のインストール」(p. 1-122) ページをごらんください。</p>	
	サーバー ID	<p>サーバー証明書のコモンネーム(CN)がサーバーのアドレスと一致しているかを確認するかどうか選択します。</p> <p>CN を確認する場合は、「サーバー ID」を設定してください。</p>	
サーバー ID	サーバー ID を入力します(半角 64 文字以内)。サーバー証明書の CN の検証を行う場合に設定が必要です。		サーバー証明書の CN の検証を行うか
CA 証明書	<p>ルート CA 証明書がインストールされているかどうかを表示します。</p> <p>サーバー証明書の CA 信頼性の検証を行う場合は、インストールする必要があります。</p> <p>インストール方法については、「CA 証明書のインストール」(p. 1-122) をごらんください。</p>		サーバー証明書の CA 信頼性の検証を行うか

項目	説明	事前確認
クライアント証明書	本機のクライアント証明書を使用して、認証情報を暗号化するかどうかを選択します。本機にクライアント証明書がインストールされている場合に設定できます。 EAP-Type で「EAP-TLS」を選択した場合は、クライアント証明書が必須になります。 EAP-Type が、「EAP-TTLS」または「PEAP」の場合にも設定できます。	
ネットワーク停止時間	認証を開始してから指定時間内に認証に成功しない場合は、すべてのネットワーク通信を停止します。認証を開始してからネットワーク通信を停止するまでの猶予時間を設定する場合は、チェックを入れます。	
停止時間	認証を開始してからネットワーク通信を停止するまでの猶予時間（秒）を設定します。 ネットワーク通信の停止後に再度認証させたい場合は、本機の主電源を入れなおしてください。	

1.44.5 IEEE802.1X 認証試行

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「IEEE802.1X 認証設定」 – 「IEEE802.1X 認証試行」を選択します。



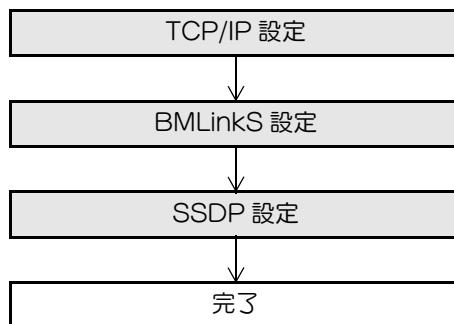
項目	説明	事前確認
認証状態	認証状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証済み：認証済みの場合に表示 ・ 認証中：認証中の場合に表示 ・ 未認証：未認証の場合に表示 ・ 認証失敗：認証失敗の場合に表示 ・ 状態取得失敗：認証状態取得失敗時に表示 <p>[更新] を押すと、現在の認証状態に更新されます。</p>	
[認証試行]	直ちに認証を試行します。	

1.45 BMLinkS 機能を使用する

BMLinkS(Business Machine Linkage Service) 機能を使用するための設定を行います。

BMLinkS 機能を使用するためには、本機にオプションのハードディスク、イメージコントローラを装着する必要があります。

本機を BMLinkS 対応プリンターとして使用することができます。BMLinkS 統合プリンタードライバーを利用して、本機を検索し、印刷することができます。



1.45.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.45.2 BMLinkS 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ - 「BMLinkS 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



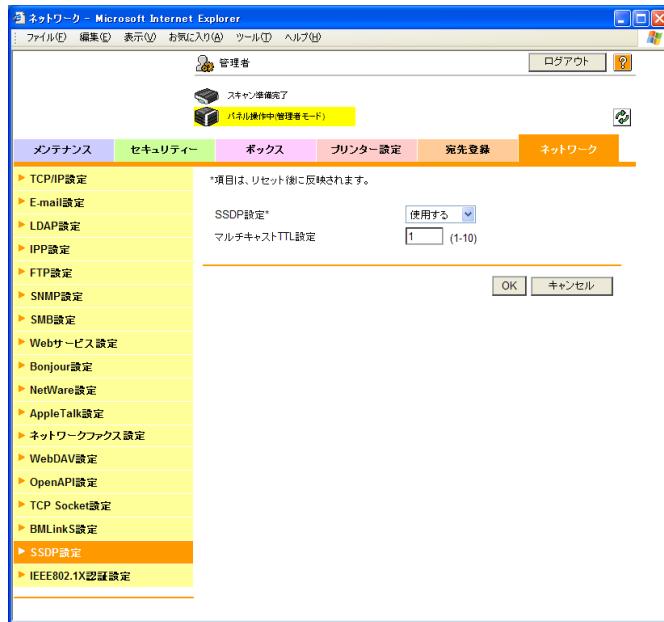
項目	説明	事前確認
BMLinkS 使用設定	「使用する」を選択します。	
SOAP ポート番号	SOAP ポート番号を設定します。	

項目	説明	事前確認
SOAP ポート番号 (SSL)	SSL 通信で使用する SOAP ポート番号を設定します。 本機にクライアント証明書がインストールされている場合に設定できます。	
プリンターポート番号	プリンターポート番号を設定します。	
プリンターポート番号 (SSL)	SSL 通信で使用するプリンターポート番号を設定します。 本機にクライアント証明書がインストールされている場合に設定できます。	
サーバタイムアウト	BMLinkS で使用される HTTP サーバー機能のタイムアウト時間を設定します。	
クライアントタイムアウト	BMLinkS で使用される HTTP クライアント機能のタイムアウト時間を設定します。	
サービス通知間隔	サービス通知間隔を設定します。	
デバイス情報設定	プリンター名	プリンター名を設定します(半角 85 文字、全角 42 文字以内)。
	Friendly Name	Friendly Name を設定します(半角 85 文字、全角 42 文字以内)。
	国名	国名を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
	組織名	組織名を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
	支店名	支店名を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
	ビル名	ビル名を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
	階数	階数を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
通知許可設定	ブロック名	ブロック名を設定します(半角 21 文字、全角 10 文字以内)。
	通知機能を使用するかどうか	通知機能を使用するかどうかを設定します。

1.45.3 SSDP 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「SSDP 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
SSDP 設定	「使用する」を選択します。	
マルチキャスト TTL 設定	SSDP マルチキャストの TTL 値を設定します。	

1.46 TCP Socket/OpenAPI 機能を使用する

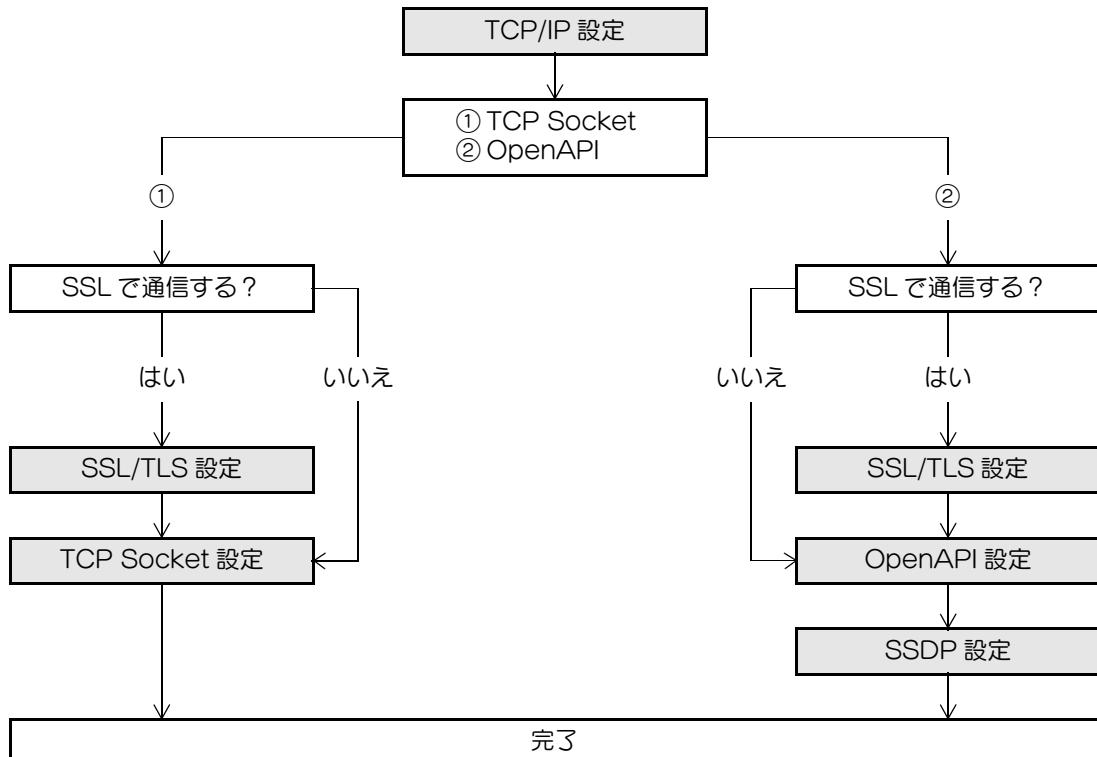
本機のTCP Socket/OpenAPIに関する設定を行います。

TCP Socketは、コンピューターのアプリケーションソフトと本機とのデータ通信に使用されます。

OpenAPIは、本機とOpenAPIを使用した他のシステムを連携させたい場合に設定します。

PageScope Authentication Managerで認証を行う場合、SSL/TLSの設定を行ってから、TCP SocketとOpenAPIのSSL/TLSの設定を有効にします。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.46.1 TCP/IP 設定

TCP/IPのネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IPで通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.46.2 SSL/TLS 設定

SSLで通信するための設定を行います。

詳しくは、「[本機の証明書を作成してSSLで通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。

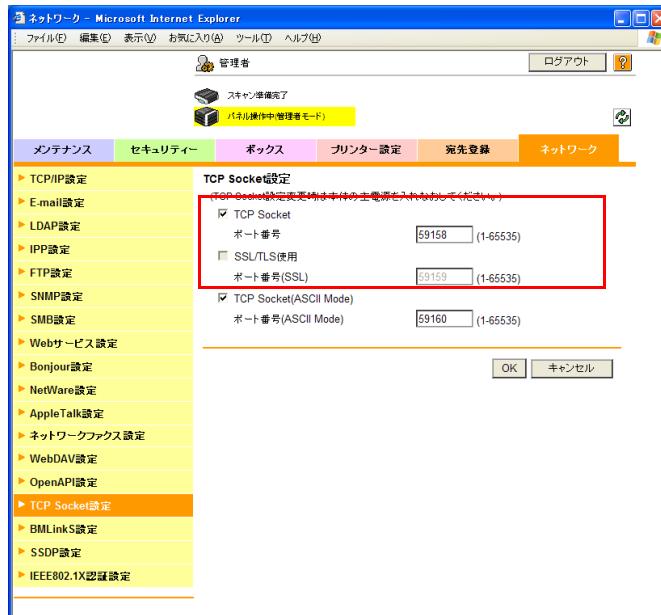
1.46.3 TCP Socket 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「TCP Socket 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



SSL/TLS を使用する場合は、あらかじめ証明書のインストールを行ってください。詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。



項目	説明	事前確認
TCP Socket	「使用する」を選択します。	
ポート番号	ポート番号を設定します。	
SSL/TLS 使用	SSL/TLS を使用する場合は、「SSL/TLS 使用」にチェックを付けます。	SSL/TLS を使用するか
ポート番号 (SSL)	SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	

ひとこと

セキュリティー強化設定が ON の場合、「SSL/TLS 使用」が有効に設定されます。

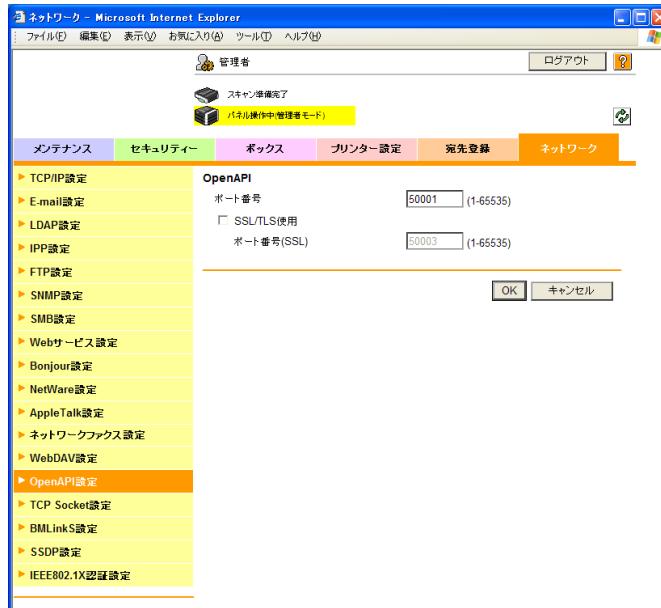
1.46.4 OpenAPI 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「OpenAPI 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



SSL/TLS を使用する場合は、あらかじめ証明書のインストールを行ってください。詳しくは「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。



項目	説明	事前確認
ポート番号	ポート番号を設定します。	
SSL/TLS 使用	SSL/TLS を使用する場合は、「SSL/TLS 使用」にチェックを付けます。	SSL/TLS を使用するか
ポート番号 (SSL)	SSL 通信で使用するポート番号を設定します。	

ひとこと

- セキュリティー強化設定が ON の場合、「SSL/TLS 使用」が有効に設定されます。
- プリンタードライバーから PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、操作パネルで OpenAPI 設定の「認証」を「使用しない」に設定してください。

1.46.5 SSDP 設定

OpenAPI を使用する場合は、SSDP を有効にする必要があります。

詳しくは、「[SSDP 設定](#)」(p. 1-127) をごらんください。

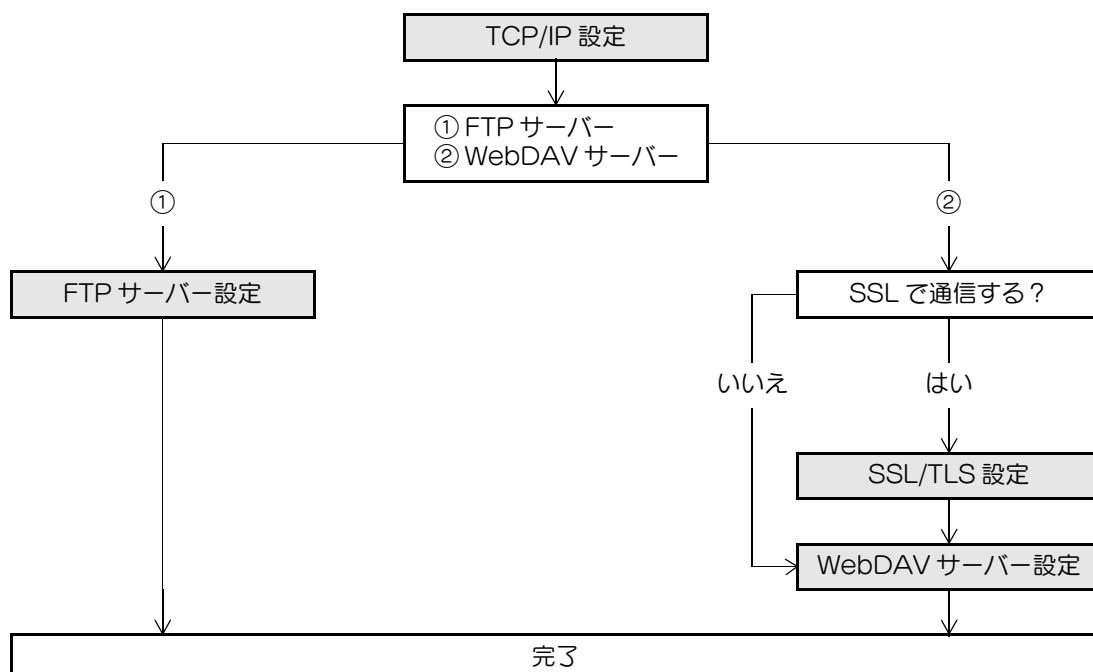
1.47 FTP サーバー /WebDAV サーバー機能を使用する

本機のFTP サーバー /WebDAV サーバーに関する設定を行います。

この設定を行うことで、本機をFTP サーバー /WebDAV サーバーとして使用できます。FTP/WebDAV クライアントとして、本機と連携するアプリケーションソフトを使用する場合に設定します。

本機を WebDAV サーバーとして使用する場合は、アプリケーションソフトとの通信を SSL で暗号化できるため、より安全な通信が可能になります。

以下のフローチャートを参考にして設定してください。



1.47.1 TCP/IP 設定

TCP/IP のネットワーク環境で本機を使用するための設定を行います。

詳しくは、「[TCP/IP で通信するための基本設定を行う](#)」(p. 1-2) をごらんください。

1.47.2 SSL/TLS 設定

SSL で通信するための設定を行います。

詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。

1.47.3 FTP サーバー設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「FTP 設定」 – 「FTP サーバー設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明	事前確認
FTP サーバー	「使用する」を選択します。	

ひとこと

セキュリティ強化設定が ON の場合、「使用しない」が設定されます。

1.47.4 WebDAV サーバー設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ネットワーク」タブ – 「WebDAV 設定」 – 「WebDAV サーバー設定」を選択します。

以下の設定を行います。



SSL/TLS を使用する場合は、あらかじめ証明書のインストールを行ってください。詳しくは、「[本機の証明書を作成して SSL で通信する](#)」(p. 1-7) をごらんください。



項目	説明	事前確認
WebDAV 設定	「使用する」を選択します。	
SSL 設定	SSL/TLS を使用する場合は、「SSL 通信のみ可」または「SSL/ 非 SSL 通信可」を選択します。	SSL/TLS を使用するか
パスワード	WebDAV サーバーにアクセスするためのパスワードを設定します。	
[パスワードの初期化]	設定したパスワードを初期化できます。 初期値 : sysadm	

1.48 メンテナスタブのその他の設定項目

PageScope Web Connection のメンテナスタブで設定できるその他の項目を説明します。

1.48.1 外部メモリーを使用する

本機で外部メモリーを使用するための設定を行います。

外部メモリーを本機前面の USB ポートに接続することで、スキャンしたデータを外部メモリーに送信したり、外部メモリー内のデータを印刷することができます。

ひとこと

外部メモリー内のデータを印刷するには、オプションのハードディスクとイメージコントローラが必要です。



外部メモリーへの保存中や文書の印刷中には、外部メモリーを抜かないでください。

■ 外部メモリー機能設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「外部メモリー機能設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
文書保存	スキャンしたデータを外部メモリーに送信したい場合は、「ON」を選択します。 データの盗難を防止するため、初期値は「OFF」に設定されています。使用したい場合に「ON」に設定してください。
文書印刷	外部メモリー内のデータを印刷したい場合は、「ON」を選択します。

1.48.2 タイマー機能を使用する

本機のタイマー機能の設定を行います。

パワーセーブ機能とウィークリータイマー機能を設定できます。

■ パワーセーブ設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「タイマー設定」 – 「パワーセーブ設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
低電力設定	低電力モードに移行するまでの時間を設定します。
スリープ設定	スリープモードに移行するまでの時間を設定します。
パワーセーブキー節電切替	パワーセーブ（低電力／スリープ）の機能を手動で設定します。

■ ウィークリータイマー設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「タイマー設定」 – 「ウィークリータイマー設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
Wi-Fiクリータイマーを使用する	Wi-Fiクリータイマー機能を使用する場合にチェックを付け、動作日と時間を設定します。[設定] をクリックすると動作日設定画面が表示され、曜日別一括設定や日設定ができます。
電休み OFF 機能を使用する	電休み OFF 機能を使用する場合にチェックを付け、OFF 時刻と再起動する時刻を設定します。
時間外パスワードを使用する	時間外パスワード機能を使用する場合にチェックを付け、パスワードを設定します。

1.48.3 設定情報をインポート/エクスポートする

本機の設定情報をインポート/エクスポートします。

本機に記録されている情報を本機からコンピューターへ保存（エクスポート）、またはコンピューターから本機へ書き込み（インポート）できます。

■ インポート / エクスポート

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ - 「インポート / エクスポート」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
デバイス設定	デバイスの設定値をインポート、エクスポートできます。
監査ログ	監査ログ情報をエクスポートできます。
カウンター	カウンター情報をエクスポートできます。
認証情報	全認証データのバックアップ、リストアを行えます。 また、ユーザー登録情報や認証データをインポート、エクスポートできます。本機でオプションの認証装置を使用する場合に、認証データをインポート、エクスポートできます。認証情報をエクスポートするとき、必要に応じてパスワードを設定できます。設定したパスワードは、認証情報をインポートするときに必要になります。 PageScope Authentication Manager で認証を行う場合、この項目は表示されません。
宛先	全宛先データのバックアップ、リストアを行えます。また、各宛先情報をインポート、エクスポートできます。 宛先情報をエクスポートするとき、必要に応じてパスワードを設定できます。設定したパスワードは、宛先情報をインポートするときに必要になります。
地紋 / スタンプ	地紋 / スタンプデータをインポート、エクスポートできます。

詳しく述べます

- ・エクスポートしたファイルの編集はできません。

- 証明書付きの E-mail 宛先をエクスポートしてインポートする場合は、インポート後に再度証明書情報を登録する必要があります。
- 監査ログ、カウンターはエクスポート機能のみです。
- 認証データのインポートやエクスポートを行う場合は、ユーザー登録情報も同様に操作します。最初にユーザー登録情報を操作したあとで、認証データを操作してください。
- 監査ログ機能は、本機で使用可能な設定になっている場合に使用できます。

1.48.4 設定情報を初期化する

本機の設定情報を初期化します。

ネットワーク設定、コントローラー、宛先設定を初期化できます。

■ ネットワーク設定クリア

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「初期化」 – 「ネットワーク設定クリア」を選択します。

[クリア] をクリックすると、本機のネットワーク設定を工場出荷時の設定にもどします。

ひとこと

セキュリティー強化設定が ON の場合、このメニューは表示されません。



■ リセット

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「初期化」 – 「リセット」を選択します。

[リセット] をクリックすると、コントローラーをリセットします。



■宛先一括消去

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「初期化」 – 「宛先一括消去」を選択します。

[フォーマット] をクリックすると、本機に登録されている宛先を一括消去します。



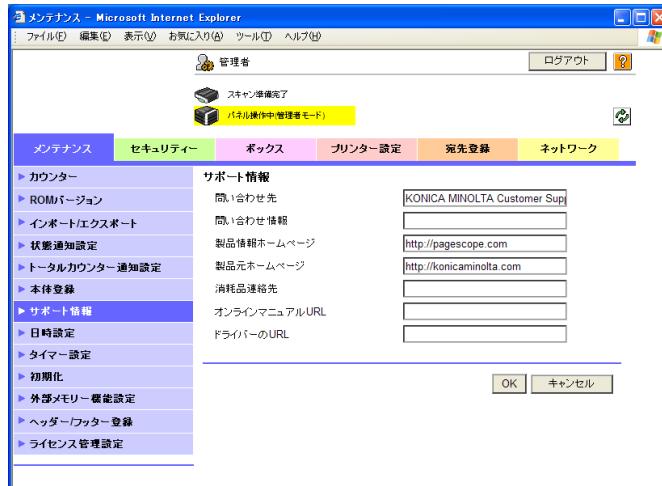
1.48.5 サポート情報を設定する

本機の製品サポートに関する情報を設定します。

■ サポート情報

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「サポート情報」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
問い合わせ先	製品に関する問い合わせ先を設定します（半角 63 文字以内）。
問い合わせ情報	製品に関する問い合わせ先の電話番号、URLなどを設定します（半角 127 文字以内）。
製品情報ホームページ	製品情報のホームページの URL を設定します（半角 127 文字以内）。
製品元ホームページ	製造元のホームページの URL を設定します（半角 127 文字以内）。
消耗品連絡先	消耗品の発注先の情報を設定します（半角 127 文字以内）。
オンラインマニュアル URL	オンラインマニュアルの URL を設定します（半角 127 文字以内）。
ドライバーの URL	ドライバーの格納先を設定します（半角 127 文字以内）。

1.48.6 ヘッダー／フッターを登録する

本機でコピーをするときに、ヘッダー／フッターとして印字できる文字列などを登録します。

■ ヘッダー / フッター登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「ヘッダー / フッター登録」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を設定します。
印字ページ	印字ページを設定します。
サイズ	サイズを設定します。
日時 / 時刻設定	日付種類と時刻種類を設定します。
配布番号指定	配布番号の文字列を設定します。出力形式を選択し、開始番号を指定します。
ヘッダー／フッター	以下の項目を印刷するかどうか設定します。 - ヘッダー／フッター文字列（それぞれ半角 40 文字、全角 20 文字以内） - 日時設定 - 配布番号 - ジョブ番号 - シリアル番号 - ユーザー名 / 部門名 - 印字位置指定

1.48.7 ROMバージョンを確認する

本機のROMバージョンを確認します。

■ ROMバージョン

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ - 「ROMバージョン」を選択します。

本機のROMバージョンを確認できます。



1.48.8 複合機の機能拡張を行う

リクエストコードの発行と機能有効化を行うことができます。



ライセンスコードを取得し、機能を有効にする方法について詳しくは、「すぐに使える操作ガイド」をごらんください。

■ リクエストコード発行

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ - 「ライセンス管理設定」 - 「リクエストコード発行」を選択します。

[OK] を押すと、リクエストコードの発行を行います。

ひとこと

オプションのハードディスクが装着されていない場合、このメニューは表示されません。



■ 機能有効化

PageScope Web Connection の管理者モードで、「メンテナンス」タブ – 「ライセンス管理設定」 – 「機能有効化」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

オプションのハードディスクとアップグレードキットが装着されていない場合、このメニューは表示されません。



項目	説明
LK-101/102/103	有効にしたい機能を選び、「登録する」を選択します。
ライセンスコード	取得したライセンスコードを、ハイフンを省略して入力します。
[OK]	機能を有効にします。

1.49 セキュリティタブのその他の設定項目

PageScope Web Connection のセキュリティタブで設定できるその他の項目を説明します。

1.49.1 ユーザーごとに参照できる宛先を制限する

参照許可グループの登録とパブリックユーザーの参照許可設定を行います。

登録する宛先に参照許可グループや参照可能レベルを設定することで、ユーザー認証時やパブリックモードでログインしているときなど、アクセスしているユーザーごとに表示される宛先を制限することができます。

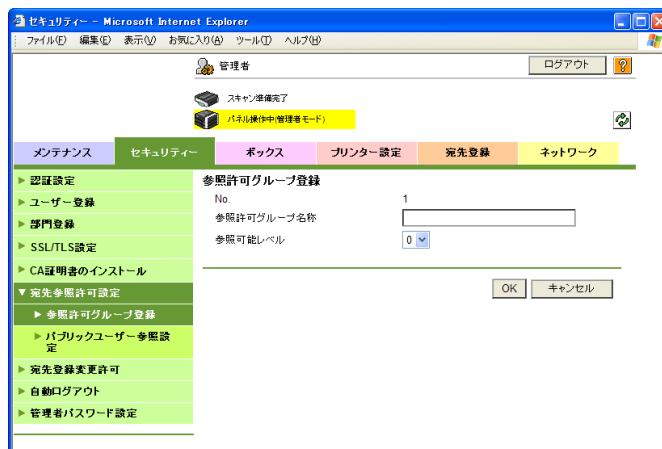


- ・参照許可設定について詳しくは、「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。
- ・ユーザー登録時に、そのユーザーが参照できるグループや参照可能レベルを設定します。詳しくは、「ユーザー登録」(p. 1-94) をごらんください。
- ・短縮宛先登録時に登録する宛先の参照許可グループや参照可能レベルを設定します。詳しくは、「短縮宛先を登録／編集する」(p. 1-156) をごらんください。

■ 参照許可グループ登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ - 「宛先参照許可設定」 - 「参照許可グループ登録」 - [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
No.	登録番号が表示されます。
参照許可グループ名称	参照許可グループ名称を設定します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
参照可能レベル	グループの参照可能レベルを設定します。

■ パブリックユーザー参照設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティ」タブ - 「宛先参照許可設定」 - 「パブリックユーザー参照設定」を選択します。

パブリックユーザーの宛先参照権限を設定します。「参照許可グループ」を選択した場合は、[参照許可グループ一覧より選択] をクリックして、一覧から参照許可グループを選択します。「参照可能レベル」を選択した場合は、レベル値を設定します。



1.49.2 ユーザーによる宛先登録を禁止する

一般ユーザーによる宛先登録／変更を禁止します。

■ 宛先登録変更許可

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティ」タブ - 「宛先登録変更許可」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
登録宛先変更	「禁止」を選択します。 「禁止」を設定した場合は、ユーザー mode の「宛先登録」タブでメニュー項目が表示されません。

ひとこと

セキュリティ強化設定が ON の場合、「禁止」が設定されます。

1.49.3 自動ログアウト時間を設定する

管理者モード、ユーザー モードの自動ログアウト時間を設定します。
設定した時間内に操作が行われない場合は、自動的にログアウトされます。

■ 自動ログアウト

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティー」タブ – 「自動ログアウト」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
管理者モードログアウト時間	管理者モードで一定時間操作を行わない場合に、自動的にログアウトされるまでの時間を設定します。
ユーザー モードログアウト時間	ユーザー モードで一定時間操作を行わない場合に、自動的にログアウトされるまでの時間を設定します。

1.49.4 管理者パスワードを設定する

本機の管理者パスワードを設定します。

■ 管理者パスワード設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「セキュリティ」タブ – 「管理者パスワード設定」を選択します。

以下の設定を行います。

ひとこと

- セキュリティ強化設定が ON の場合は、このメニューは表示されません。
- 本機の証明書がインストールされていない場合は、このメニューは表示されません。



項目	説明
管理者パスワード	管理者パスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
管理者パスワードの再入力	確認のため、管理者パスワードを再入力します。

詳しく説明します

「パスワード規約」を ON に設定している場合、8 文字未満のパスワードを登録することはできません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は「パスワード規約」を ON にする前に 8 文字に変更してください。パスワード規約について詳しくは「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

1.50 ボックスタブの設定項目

PageScope Web Connection のボックスタブで設定できる項目を説明します。

ボックスタブでは、ボックス機能で利用するボックスの作成や、ボックスの基本的な情報の確認をすることができます。



ボックス機能について詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

1.50.1 ボックスを設定変更／削除する

作成されているボックスの設定変更と削除を行います。



管理者モードでは、ボックスのパスワードを入力しなくてもボックスの設定変更や削除を行うことができます。ユーザー モードでは、ボックス内の文書を操作できます。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

■ ボックスを開く

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ボックス」タブ - 「ボックスを開く」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
[ボックス設定]	ボックスの設定を変更できます。
[ボックス削除]	ボックスを削除できます。

ボックス設定

項目	説明
ボックス No.	ボックス番号が表示されます。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
検索文字	検索用の文字を設定します。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。
ボックス拡張機能を変更する	ボックスに親展受信の機能を付加する場合にパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。 オプションの FAX キット装着時に表示されます。
ボックスパスワードを変更する	ボックスパスワードを変更する場合にチェックを付け、現在のパスワードと新しいパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
所有ユーザーを変更する	ボックス所有者を変更する場合にチェックを付け、ボックスタイプを選択します。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしているとき、共有ボックスを選択した場合は、この項目は表示されません。

1.50.2 新しくボックスを作成する

新しくボックスを作成します。



管理者モードで作成できるボックスのボックスタイプは共有のみで変更はできません。ボックスの作成について詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

■ ボックスを作成する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ボックス」タブ - 「ボックスを作成する」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明
ボックス No.	作成するボックスの登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を選択します。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。 ボックスパスワードを設定する場合は、「ボックスパスワードを使用する」にチェックを付け、ボックスパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
検索文字	検索用の文字を設定します。
ボックスタイプ	ボックスタイプを設定します。管理者モードで作成できるボックスのボックスタイプは共有のみで変更はできません。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。
ボックス拡張機能	ボックスに親展受信の機能を付加する場合にパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。 オプションの FAX キット装着時に表示されます。



「パスワード規約」を ON に設定している場合、8 文字未満のパスワードを登録することはできません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は「パスワード規約」を ON にする前に 8 文字に変更してください。パスワード規約について詳しくは「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

1.50.3 システムボックスを設定変更／削除する

作成されているシステムボックス（掲示板ボックス、中継ボックス、ファイリングナンバーボックス）の設定変更と削除を行います。

ひとこと

オプションのFAXキットが装着されている場合に、掲示板ボックスおよび中継ボックスを選択できます。

オプションのハードディスクが装着されている場合に、ファイリングナンバーボックスを選択できます。

■ システムボックスを開く

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ボックス」タブ - 「システムボックスを開く」を選択します。

以下の設定を行います。（画面は「掲示板ボックス」を選択した場合）



項目	説明
[ボックス設定]	ボックスの設定を変更できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしているとき、個人ボックスを選択した場合は、この項目は表示されません。
[ボックス削除]	ボックスを削除できます。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしているとき、個人ボックスを選択した場合は、この項目は表示されません。

「掲示板ボックス」のボックス設定

項目	説明
ボックス No.	ボックス番号が表示されます。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。
ボックスパスワードを変更する	ボックスのパスワードを変更します（半角 8 文字以内）。
所有ユーザーを変更する	ボックス所有者を変更する場合にチェックを付け、ボックスタイプを設定します。 PageScope Authentication Manager で認証を行い、かつ管理者モードにログインしているとき、共有ボックスを選択した場合は、この項目は表示されません。

「中継ボックス」のボックス設定

項目	説明
ボックス No.	ボックス番号が表示されます。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
中継宛先	中継宛先を設定します。
中継ボックスパスワードを変更する	中継ボックスパスワードを変更する場合にチェックを付け、現在のパスワードと新しいパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。

「ファイリングナンバーボックス」のボックス設定

項目	説明
ボックス No.	ボックス番号が表示されます。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。
ボックスパスワードを変更する	ボックスのパスワードを変更します。
ナンバーカウント方式を変更する	ナンバーカウント方式を変更する場合にチェックを付け、カウント方式を設定します。ボックス内に文書がある場合は設定できません。
文字列指定を変更する	文字列指定を変更する場合にチェックを付け、文字列、ナンバー文字列、日付／時刻、印字位置、濃度、カウンター出力形式を設定します。

1.50.4 新しくシステムボックスを作成する

新しくシステムボックスを作成します。

ひとこと

オプションの FAX キットが装着されている場合に掲示板ボックスおよび中継ボックスを選択できます。

■ システムボックスを作成する

PageScope Web Connection の管理者モードで、「ボックス」タブ - 「システムボックスを作成する」を選択します。

以下の設定を行います。（画面は「掲示板ボックス」を選択した場合）



「掲示板ボックス」を選択した場合

項目	説明
ボックス No.	作成するボックスの登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。ボックスパスワードを設定する場合は、「ボックスパスワードを使用する」にチェックを付け、ボックスパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
ボックスタイプ	ボックスタイプを設定します。管理者モードで作成できるボックスのボックスタイプは共有のみで変更はできません。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。

「中継ボックス」を選択した場合

項目	説明
ボックス No.	作成するボックスの登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。 ボックスパスワードを設定する場合は、「ボックスパスワードを使用する」にチェックを付け、ボックスパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
中継宛先	中継宛先を設定します。
中継パスワード	中継パスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
中継パスワードの再入力	中継パスワードを再入力します。

「ファイリングナンバーボックス」を選択した場合

項目	説明
ボックス No.	作成するボックスの登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
ボックス名	ボックス名を設定します（半角 20 文字、全角 10 文字以内）。 ボックスパスワードを設定する場合は、「ボックスパスワードを使用する」にチェックを付け、ボックスパスワードを設定します（半角 8 文字以内）。
ボックス内ドキュメント削除時間	ボックス内のデータを保存する期間を設定します。
ナンバーカウント方式	ナンバーカウント方式を設定します。ボックス内に文書がある場合は設定できません。
文字列指定	文字列、ナンバー文字列、日付 / 時刻、印字位置、濃度、カウンター出力形式を設定します。



「パスワード規約」を ON に設定している場合、8 文字未満のパスワードを登録することはできません。すでに登録済みのユーザーパスワードが 8 文字未満の場合は「パスワード規約」を ON にする前に 8 文字に変更してください。パスワード規約について詳しくは「ユーザーズガイド コピー機能編」をごらんください。

1.51 プリンター設定タブの設定項目

PageScope Web Connection のプリンター設定タブで設定できる項目を説明します。

プリンター設定タブでは、本機のプリント機能に関連した設定を行えます。



プリント機能について詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編 (IC-207)」をごらんください。

1.51.1 プリント機能の初期設定を行う

プリント機能の初期設定を行います。

■ 基本設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「基本設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
PDL 設定	PDL 言語を設定します。
給紙トレイ	給紙トレイを設定します。
排紙トレイ	排紙トレイを設定します。
両面印刷	両面印刷を行うかどうかを設定します。
とじ方向	とじ方向を設定します。
ステープル	ステープルを行うかどうかを設定します。行う場合は、ステープル数を設定します。
パンチ	パンチを行うかどうかを設定します。
印刷部数	印刷部数を設定します。
用紙サイズ	用紙サイズを設定します。
画像の向き	画像の向きを設定します。
スプール設定	印刷ジョブを HDD ヘスプールするかどうかを設定します。

項目	説明
バナーシート設定	先頭ページにバナーページを印刷するかどうかを設定します。
バナーシート給紙トレイ	バナーページを印刷するデフォルトの給紙トレイを設定します。
指定給紙トレイ不一致	指定された給紙トレイに適合する用紙がない場合、別の給紙トレイから印刷を続けるかどうかを設定します。
用紙サイズ変換	A4 (Letter) /A3 (Ledger) 原稿の印刷で、Letter (A4) /Ledger (A3) の給紙トレイが選択された場合、画像欠損等を考慮せずにそのまま等倍で印字するかどうかを設定します。
とじ方向補正	とじ方向補正の方法を設定します。
白紙抑制：	白紙抑制をするかどうかを設定します。する場合は、印刷データのないページはプリントされません。
日付 / 時刻の印字位置設定：	日付 / 時刻の印字位置を設定します。
日付 / 時刻の文字サイズ設定：	日付 / 時刻の文字サイズを設定します。
ページ番号の印字位置設定：	ページ番号の印字位置を設定します。
ページ番号の文字サイズ設定：	ページ番号の文字サイズを設定します。
ページ番号の挿入紙印字設定：	カバーシート、挿入紙にページ番号を印字するかどうかを設定します。

ひとこと

- ・ステープル機能は、オプションのフィニッシャーが装着されている場合のみ使用可能となります。
- ・パンチ機能は、オプションのフィニッシャーとパンチキットが装着されている場合のみ使用可能となります。

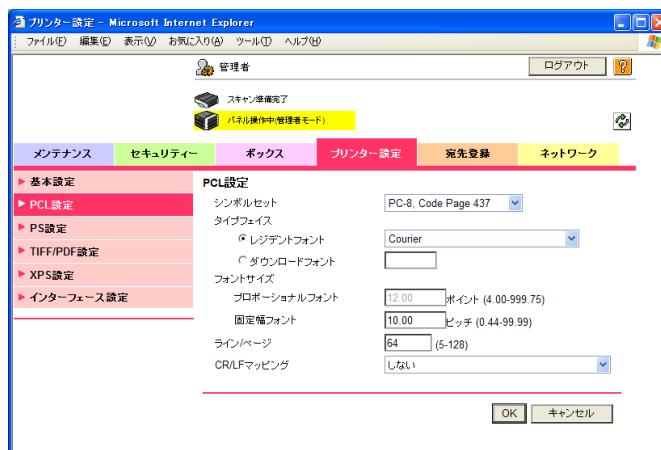
1.51.2 PCL/PS/XPS プリントに関する設定を行う

PCL/PS/XPS プリントに関する設定を行います。

■ PCL 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「PCL 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
シンボルセット	シンボルセットを設定します。
タイプフェイス	内蔵されているフォント（レジデントフォント）か、ダウンロードされたフォント（ダウンロードフォント）かを選択します。
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。

項目	説明
ライン / ページ	1 ページあたりの行数を設定します。
CR/LF マッピング	テキストデータの CR/LF の置き換えをどのようにするかを設定します。

■ PS 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「PS 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
PS エラー印刷	PS のラスタライズ時にエラーが発生した場合に、エラー情報を印字するかどうかを設定します。

■ TIFF/PDF 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「TIFF/PDF 設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
自動用紙選択	TIFF/PDF ダイレクトプリント時に、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

■ XPS 設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「XPS 設定」を選択します。

ひとこと

XPS 設定は、オプションのハードディスク装着時のみ表示されます。

以下の設定を行います。



項目	説明
XPS デジタル署名検証	デジタル署名検証を行うかどうかを設定します。「する」を選択すると、署名が無効な場合はプリントされません。
XPS エラー印刷	XPS の印刷時にエラーが発生した場合に、エラー情報を印字するかどうかを設定します。

1.51.3 インターフェースのタイムアウト時間を設定する

インターフェースのタイムアウトを設定します。

■ インターフェース設定

PageScope Web Connection の管理者モードで、「プリンター設定」タブ – 「インターフェース設定」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
ネットワークタイムアウト	ネットワーク受信タイムアウトを設定します。
USB タイムアウト	USB タイムアウトを設定します。

1.52 宛先登録タブの設定項目

宛先登録タブでは、送信機能による送信先やボックス機能による保存先の登録や設定変更ができます。



ユーザーによる宛先登録を許可する場合は、ユーザー モードでも宛先の登録、変更ができます。宛先登録を許可するかどうかの設定について詳しくは、「[ユーザーによる宛先登録を禁止する](#)」(p. 1-144) をご覧ください。

1.52.1 短縮宛先を登録／編集する

短縮宛先の新規登録や設定変更、アイコンの登録を行います。

あらかじめ短縮宛先を登録しておけば、送信時に短縮宛先を選択できます。また、登録済みの短縮宛先にアイコンを登録することができます。

■ 短縮宛先

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ - 「短縮宛先」を選択します。

以下の設定を行います。

項目	説明
[新規登録]	短縮宛先を新規登録します。
番号から検索	登録番号を選択して [Go] をクリックすると、選択した番号の宛先が一覧表示されます。
検索文字から検索	検索文字を選択して [Go] をクリックすると、選択した検索文字の宛先が一覧表示されます。
No.	登録番号が表示されます。
機能	どの機能で登録したかが表示されます。
登録名	登録名が表示されます。
S/MIME	E-mail 宛先に証明書が添付されているかどうかが表示されます。
[編集]	登録されている短縮宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
[削除]	短縮宛先を削除します。

新規登録で「E-mail 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
E-mail 宛先	宛先のメールアドレスを入力します（半角 320 文字以内）。

項目	説明
証明書情報の登録	証明書情報を登録する場合に設定します。 「証明書情報の登録」にチェックを付けます。[参照] をクリックし、証明書情報を設定します。証明書情報では、DER (Distinguished Encoding Rules) 形式のファイルのみサポートされています。証明書情報を削除する場合は、「証明書情報の削除」を選択します。 宛先登録する E-mail アドレスと証明書の E-mail アドレスが一致しない場合は、証明書を登録できません。証明書を登録する前に E-mail アドレスが一致しているかどうか確認してください。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「FTP 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ホストアドレス	宛先の FTP サーバーの IP アドレスを設定します。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます（半角 63 文字以内）。
ファイルパス	宛先のディレクトリを設定します（半角 96 文字以内）。
ユーザー ID	宛先の FTP サーバーにログインするためのユーザー ID を入力します（半角 47 文字以内）。
パスワード	宛先の FTP サーバーにログインするためのパスワードを入力します（半角 31 文字以内）。
anonymous	anonymous ユーザーでもアクセスできるようにするかどうかを設定します。
PASV モード	PASV モードで通信をおこなうかどうかを登録します。
プロキシ	プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。
ポート番号	使用するポート番号を設定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「SMB 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ホストアドレス	宛先のコンピューターの IP アドレスを設定します。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます（半角 255 文字以内）。
ファイルパス	宛先のディレクトリを設定します（半角 85 文字、全角 42 文字以内）。
ユーザー ID	宛先のコンピューターにログインするためのユーザー ID を入力します（半角 127 文字以内）。
パスワード	宛先のコンピューターにログインするためのパスワードを入力します（半角 127 文字以内）。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「WebDAV 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。

項目	説明
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ホストアドレス	宛先の WebDAV サーバーの IP アドレスを設定します。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます（半角 255 文字以内）。
ファイルパス	宛先のディレクトリを設定します（半角 47 文字、全角 23 文字以内）。
ユーザー ID	宛先の WebDAV サーバーにログインするためのユーザー ID を入力します（半角 21 文字、全角 10 文字以内）。
パスワード	宛先の WebDAV サーバーにログインするためのパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。
SSL 設定	SSL で暗号化するかどうかを設定します。
プロキシ	プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。
ポート番号	使用するポート番号を設定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「ボックス宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ボックス番号	宛先のボックス番号を設定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「ファクス宛先」を選択した場合

ひとこと

オプションの FAX キットが装着されている場合に表示されます。

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ファクス番号	宛先のファクスのダイアル番号を入力します（半角 38 文字以内）。
ファクス番号の再入力	ファクス番号の誤登録を防止するため、ファクス番号を再入力します。 この項目は、操作パネルで「宛先 2 度入力機能（登録）」を [ON] に設定している場合に表示されます。
SIP ファクス送信	SIP ファクスを利用する場合は、「ON」を選択します。SIP ファクス機能が利用可能な場合に表示されます。
回線指定	使用する回線を設定します。オプションの回線拡張キットが装着されている場合に設定できます。SIP ファクス機能が使用可能な場合は、設定できません。
通信設定	[表示] をクリックし、表示された設定項目（V34 OFF / ECM OFF / 海外通信 / 宛先確認送信）にチェックを付けて設定します。SIP ファクス機能が使用可能な場合は、設定できません。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「IP アドレスファクス宛先」を選択した場合

ひとこと

IP アドレスファクス機能が使用可能な場合に表示されます。

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
ホストアドレス	宛先のファクスの IP アドレスを設定します。 DNS サーバーを指定している場合は、ホスト名で設定できます。
ポート番号	使用するポート番号を設定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

新規登録で「インターネットファクス宛先」を選択した場合

ひとこと

インターネットファクス機能が使用可能な場合に表示されます。

項目	説明
登録 No.	登録番号（空き番号を使う／直接入力する）を設定します。
登録名	宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
検索文字	宛先検索用の検索文字を設定します。操作パネルに常に表示させる場合は、「常用（よく使う宛先）」にチェックを付けます。
E-mail 宛先	宛先のメールアドレスを入力します（半角 320 文字以内）。
解像度	解像度を設定します。
用紙サイズ	用紙サイズを設定します。
圧縮形式	圧縮形式を設定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

■ アイコン

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「短縮宛先」 – 「アイコン」 – 「編集」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
登録 No.	短縮宛先の登録番号が表示されます。
登録名	短縮宛先の登録名が表示されます。

項目	説明
アイコンを指定する	「アイコンを指定する」を選択します。
[一覧より選択]	アイコン一覧画面が表示されます。登録したいアイコンを選択します。

1.52.2 グループ宛先を登録／編集する

グループ宛先の新規登録や設定変更を行います。

複数の短縮宛先をグループ化して、グループ宛先として登録することができます。同報を行いたいときに使用します。グループ宛先に登録するには、あらかじめ短縮宛先の登録が必要です。

■ グループ宛先

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「グループ宛先」を選択します。以下の設定を行います。



項目	説明
[新規登録]	グループ宛先を新規登録します。
番号から検索	登録番号を選択して [Go] をクリックすると、選択した番号の宛先が一覧表示されます。
No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名が表示されます。
[編集]	登録されているグループ宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
[削除]	グループ宛先を削除します。

新規登録

項目	説明
登録名	グループ宛先の名称を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
スキャン / ファクス宛先	グループ化するスキャン / ファクス宛先を選択します。登録した短縮宛先の一覧から、グループ化する宛先を選びます。
ボックス宛先	グループ化するボックス宛先を選択します。登録した短縮宛先の一覧から、グループ化する宛先を選びます。
[宛先確認]	登録宛先を確認できます。
アイコンを指定する	[一覧より選択] から、登録するユーザーのアイコンを指定します。
参照許可設定	宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

1.52.3 プログラム宛先を登録／編集する

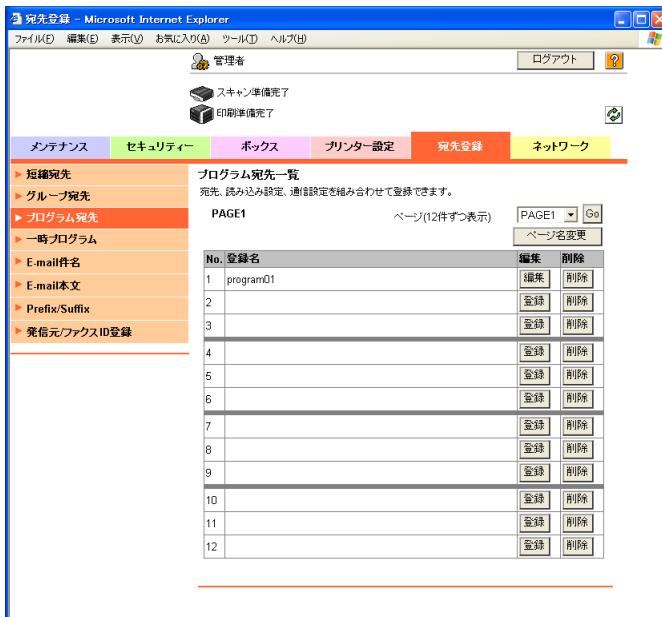
プログラム宛先の新規登録や設定変更を行います。

宛先情報、通信情報、原稿情報を組み合わせて登録できます。

■ プログラム宛先

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ - 「プログラム宛先」を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
ページ (12 件ずつ表示)	ページを選択して [Go] をクリックすると、選択したページの宛先一覧が表示されます。
[ページ名変更]	ページ名を変更します。
No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名が表示されます。
S/MIME	証明書が添付されているかどうかが表示されます。
[登録]	プログラム宛先を登録します。
[編集]	登録されているプログラム宛先を編集します。設定項目は登録時と同じです。
[削除]	プログラム宛先を削除します。

登録で「E-mail 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
E-mail 件名	E-mail 件名を設定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの件名を使用します。内容は [E-mail 件名一覧] をクリックすると確認できます。

項目	説明
E-mail本文	E-mail本文を指定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの本文を使用します。内容は[E-mail本文一覧]をクリックすると確認できます。
片面/両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示]をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認]をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは[登録内容確認]をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示]をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「FTP宛先」を選択した場合

項目	説明
登録No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角24文字、全角12文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角30文字、全角15文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
片面/両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。

項目	説明
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。[宛先一覧より選択] をクリックして一覧から選択することもできます。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「SMB 宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。[宛先一覧より選択] をクリックして一覧から選択することもできます。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。

項目	説明
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「WebDAV宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。[宛先一覧より選択] をクリックして一覧から選択することもできます。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。

項目	説明
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「ボックス宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。[宛先一覧より選択] をクリックして一覧から選択することもできます。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。

項目	説明
文字・画像合成 (ヘッダー/フッター)	ヘッダー/フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー/フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー/フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「ファクス宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
片面/両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
タイマー通信	タイマー通信を行うかどうかを設定します。行う場合は、送信時刻を入力します。
パスワード送信	パスワード送信を行うかどうかを設定します。行う場合は、パスワードを入力します。
Fコード	Fコードを使用して送信するかどうかを設定します。有効を選択した場合は、SUB アドレスとパスワードを入力します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
済みスタンプ	済みスタンプの ON/OFF を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付/時刻)	日付/時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー/フッター)	ヘッダー/フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー/フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー/フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。

項目	説明
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「IP アドレスファクス宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
済みスタンプ	済みスタンプの ON/OFF を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「インターネットファクス宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。 「宛先表から選択」または「宛先を直接指定する」を選択します。
解像度	解像度を設定します。

項目	説明
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
E-mail 件名	E-mail 件名を設定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの件名を使用します。内容は [E-mail 件名一覧] をクリックすると確認できます。
E-mail 本文	E-mail 本文を指定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの本文を使用します。内容は [E-mail 本文一覧] をクリックすると確認できます。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
済みスタンプ	済みスタンプの ON/OFF を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは [登録内容確認] をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「グループ宛先」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
宛先情報	宛先情報を設定します。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
E-mail 件名	E-mail 件名を設定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの件名を使用します。内容は [E-mail 件名一覧] をクリックすると確認できます。
E-mail 本文	E-mail 本文を指定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの本文を使用します。内容は [E-mail 本文一覧] をクリックすると確認できます。

項目	説明
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	[表示] をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。[宛先一覧より選択] をクリックして一覧から選択することもできます。
タイマー通信	タイマー通信を行うかどうかを設定します。行う場合は、送信時刻を入力します。
パスワード送信	パスワード送信を行うかどうかを設定します。行う場合は、パスワードを入力します。
Fコード	Fコードを使用して送信するかどうかを設定します。有効を選択した場合は、SUB アドレスとパスワードを入力します。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
済みスタンプ	済みスタンプの ON/OFF を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。[登録内容確認] をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは「登録内容確認」をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	[表示] をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

登録で「宛先指定なし」を選択した場合

項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
登録名	登録名を入力します（半角 24 文字、全角 12 文字以内）。
解像度	解像度を設定します。
ファイル形式	ファイル形式を設定します。
ファイル名	ファイル名を設定します（半角 30 文字、全角 15 文字以内）。
ページ設定	保存するデータの単位を設定します。
E-mail 件名	E-mail 件名を設定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの件名を使用します。内容は [E-mail 件名一覧] をクリックすると確認できます。

項目	説明
E-mail 本文	E-mail 本文を指定します。 「指定なし」を選択した場合は、デフォルトの本文を使用します。内容は【E-mail 本文一覧】をクリックすると確認できます。
片面 / 両面	原稿が両面かどうかを設定します。
原稿画質	文字、写真など原稿の画質を設定します。
連続読み込み設定	原稿を複数回に分割して読み込むかどうかを設定します。
濃度	濃度を設定します。
下地調整	下地の濃さを調整します。
読み込みサイズ	原稿サイズ（自動／定形サイズ／不定形サイズ）を設定します。 定形サイズの場合は、サイズと通紙方向を指定します。不定形サイズの場合は、主走査方向および副走査方向のサイズを指定します。
応用設定	【表示】をクリックすると、応用機能の項目が表示され設定できます。
E-mail 通知	スキャンデータの URL を通知するかどうかを設定します。「宛先」に通知先アドレスを設定します。【宛先一覧より選択】をクリックして一覧から選択することもできます。
タイマー通信	タイマー通信を行うかどうかを設定します。行う場合は、送信時刻を入力します。
パスワード送信	パスワード送信を行うかどうかを設定します。行う場合は、パスワードを入力します。
Fコード	Fコードを使用して送信するかどうかを設定します。有効を選択した場合は、SUB アドレスとパスワードを入力します。
原稿セット方向	原稿の天地の向きを設定します。
両面とじ方向	原稿とじ位置を設定します。
済みスタンプ	済みスタンプの ON/OFF を設定します。
特殊原稿	異なるサイズの原稿を設定します。
ブック連写	ブック連写を行うかどうかを設定します。
枠消し	枠消しを行うかどうかを設定します。
ネガポジ反転	原稿の白い部分と黒い部分を反転するかどうかを設定します。
文字・画像合成 (日付 / 時刻)	日付 / 時刻の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、日付種類、時刻種類、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ページ)	ページ番号の印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ページ、章、ページ種類、印字位置、微調整、サイズを設定します。
文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)	ヘッダー / フッターの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、ヘッダー / フッターの登録番号を指定します。【登録内容確認】をクリックすると、登録されたヘッダー / フッターを確認できます。
文字・画像合成 (スタンプ)	スタンプの印字を行うかどうかを設定します。 印字する場合は、定型スタンプまたは登録スタンプ、印字位置、微調整、印字ページ、サイズを設定します。登録スタンプは【登録内容確認】をクリックすると、登録されたスタンプを確認できます。登録スタンプはあらかじめ操作パネルで登録しておく必要があります。
スタンプ合成方法	スタンプ合成方法を設定します。
参照許可設定	【表示】をクリックして、宛先の参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。

1.52.4 一時的に利用する宛先を登録／編集する

一時的に利用する宛先の登録や設定変更を行います。

ひとこと

手動宛先入力が「許可」に設定されている場合に、「一時プログラム」が表示されます。手動宛先入力の設定は操作パネルから行います。

■ 一時プログラム

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「一時プログラム」を選択します。

設定内容は、プログラム宛先の設定と同様です。一時プログラムでは、参照許可設定の設定項目が表示されません。一時プログラムの設定内容について詳しくは、「[プログラム宛先を登録／編集する](#)」(p. 1-161)をごらんください。

1.52.5 E-mail の件名／本文を登録する

E-Mail/ インターネットファクス送信時に使用する件名と本文を登録します。

■ E-mail 件名

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「E-mail 件名」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。

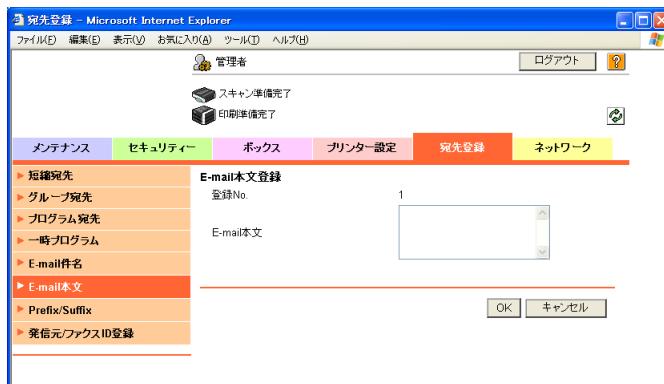


項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
E-mail 件名	E-mail 件名を登録します（半角 64 文字、全角 32 文字以内）。

■ E-mail 本文

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「E-mail 本文」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
E-mail 本文	E-mail 本文を登録します（半角 256 文字、全角 128 文字以内）。

1.52.6 外部サーバーに登録されたアプリケーションを使用する

RightFax Server など、外部サーバーに登録されたアプリケーションを使用するとき、アプリケーションの内容やサーバーアドレスなどを登録します。

アプリケーションとサーバーを登録することで、選択したアプリケーションのサーバーへ自動的に接続して使用することができます。アプリケーション登録では、アプリケーションとサーバーを 5 つまで登録できます。登録したアプリケーションは、その内容によって拡張項目などを設定できます。PageScope Web Connection では以下のようなテンプレートを用意しています。テンプレートにはアプリケーションごとに異なる拡張項目があらかじめ設定されています。

ひとこと

- ・オプションの FAX キットが装着されていない場合に、「アプリケーション登録」メニューが表示されます。
- ・テンプレートを使用しないときは、手動で拡張項目の詳細を設定してください。
- ・オプションの FAX キットが非装着で、インターネット FAX を使用不可にしている場合に登録したアプリケーションの表示や操作が、本機の操作パネルで可能になります。

WalkUp Fax の場合

No.	ボタン名	機能名	キーボードタイプ	デフォルト値	オプション設定
1	Sender Name (CS)	Name	ASCII	Walkup	-
2	Fax Number (CS)	PersonalFaxNumber	ASCII	-	-
3	TEL Number (CS)	PersonalVoiceNumber	ASCII	-	-
4	Subject	Subject	ASCII	-	-
5	BillingCode1	BillingCode1	ASCII	-	-
6	BillingCode2	BillingCode2	ASCII	-	-

Fax with Account の場合

No.	ボタン名	機能名	キーボードタイプ	デフォルト値	オプション設定
1	Sender Name (CS)	Name	ASCII	-	-
2	User ID	ID	ASCII	Walkup	-
3	Password	Password	ASCII	-	-
4	Password Auth#	Authentication	-	-	None
5	Subject	Subject	ASCII	-	-
6	BillingCode1	BillingCode1	ASCII	-	-
7	BillingCode2	BillingCode2	ASCII	-	-
8	CoverSheet Type	CoverSheet	-	-	-
9	Hold For Preview	HoldForPreview	-	-	False

Secure Docs の場合

No.	ボタン名	機能名	キーボードタイプ	デフォルト値	オプション設定
1	User ID	ID	ASCII	Walkup	-
2	Password	Password	ASCII	-	-
3	Password Auth#	Authentication	-	-	None
4	Subject	Subject	ASCII	-	-
5	BillingCode1	BillingCode1	ASCII	-	-
6	BillingCode2	BillingCode2	ASCII	-	-

No.	ボタン名	機能名	キーボードタイプ	デフォルト値	オプション設定
7	CoverSheet Type	CoverSheet	-	-	-
8	Document PW	DocumentPassword	ASCII	-	-
9	Delivery Method	Delivery	-	-	Secure

Certified Delivery の場合

No.	ボタン名	機能名	キーボードタイプ	デフォルト値	オプション設定
1	User ID	ID	ASCII	Walkup	-
2	Password	Password	ASCII	-	-
3	Password Auth#	Authentication	-	-	None
4	Subject	Subject	ASCII	-	-
5	BillingCode1	BillingCode1	ASCII	-	-
6	BillingCode2	BillingCode2	ASCII	-	-
7	CoverSheet Type	CoverSheet	-	-	-
8	Document PW	DocumentPassword	ASCII	-	-
9	Delivery Method	Delivery	-	-	Secure

■ アプリケーション登録

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ - 「アプリケーション登録」 - [登録 / 編集] を選択します。

テンプレートの種類を選択後、以下の設定を行います。



項目	説明
No.	選択したアプリケーション登録番号が表示されます。
アプリケーション名	アプリケーション名を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
ホストアドレス	アプリケーションを登録しているサーバーのホストアドレスを入力します（半角 15 文字以内）。
ファイルパス	アプリケーションのファイルパスを入力します（半角 96 文字以内）。
ユーザー ID	サーバーにログインするユーザー ID を入力します（半角 47 文字以内）。
パスワード	サーバーにログインするパスワードを入力します（半角 31 文字以内）。
anonymous	anonymous ユーザーでもアクセスできるようにするかどうかを設定します。
PASV モード	PASV モードで通信をおこなうかどうかを登録します。
プロキシ	プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。
ポート番号	使用するポート番号を設定します。
[次へ]	拡張項目リストが表示されます。追加、変更したい項目の [編集] をクリックすると、機能設定画面が表示されます。

機能設定

項目	説明
No.	選択した項目の番号が表示されます。
ボタン名	ボタンの名称を入力します（半角 16 文字、全角 8 文字以内）。
機能名	機能名を設定します。
パネル上の表示	パネルの画面に表示される名称を入力します（半角 32 文字、全角 16 文字以内）。
表示方法	表示方法を設定します。
デフォルト値	デフォルト値を入力します。デフォルト値を隠したい場合は、「**** 表示する」にチェックマークを付けます。入力できる文字数は選択した機能によって異なります。
キーボードタイプ	キーボードタイプを設定します。
オプション設定 (Authentication 時)	なし／パスワードから選択します。
オプション設定 (Delivery 時)	通常／保護あり／認証あり／保護、認証ありから選択します。

項目	説明
オプション設定 (Hold For Preview 時)	はい／いいえから選択します。
時間指定 (DelaySendDateTime 時)	「年／月／日／時間／分」を選択します。
デフォルト (DelaySendDateTime 時)	デバイスの時刻を表示する／表示しないから選択します。

1.52.7 E-mail アドレスの入力を簡易化する

E-Mail アドレスの入力を簡易化するための、Prefix/Suffix の登録をします。

■ Prefix/Suffix

PageScope Web Connection の管理者モードで、「宛先登録」タブ – 「Prefix/Suffix」 – [編集] を選択します。

以下の設定を行います。



項目	説明
登録 No.	登録番号が表示されます。
Prefix	Prefix を登録します（半角 20 文字以内）。
Suffix	Suffix を登録します（半角 64 文字以内）。

第2章 ネットワーク設定

操作パネルからネットワーク設定メニューを表示させる方法とネットワーク設定画面で設定できる項目をメニューリストで説明します。

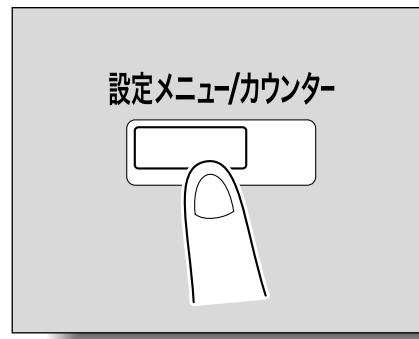
2.1 ネットワーク設定画面を表示させる

目的別の設定を本機の操作パネルのネットワーク設定で行うことができます。

ネットワーク設定は管理者設定画面で行います。ネットワーク設定画面の表示のしかたは、以下のとおりです。

1

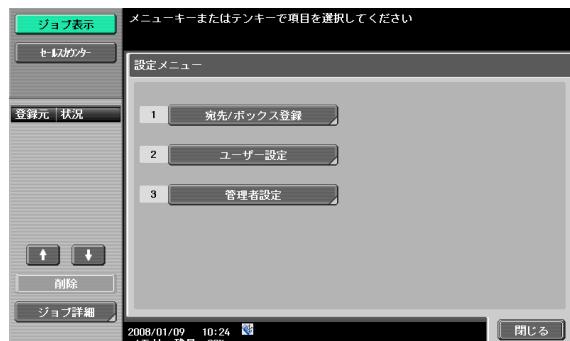
【設定メニュー / カウンター】を押します。



2

[3 管理者設定] を押します。

- 設定メニューでは、キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。[3 管理者設定] の場合は、テンキーの【3】を入力します。

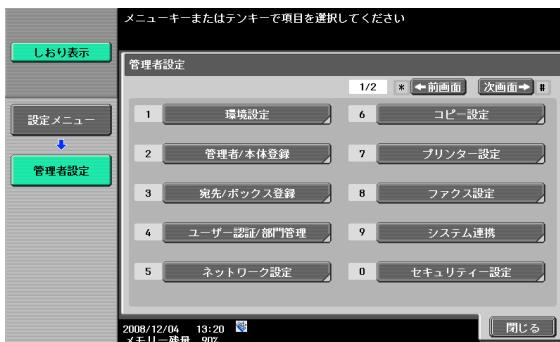


3

パスワードを入力し、[OK] を押します。



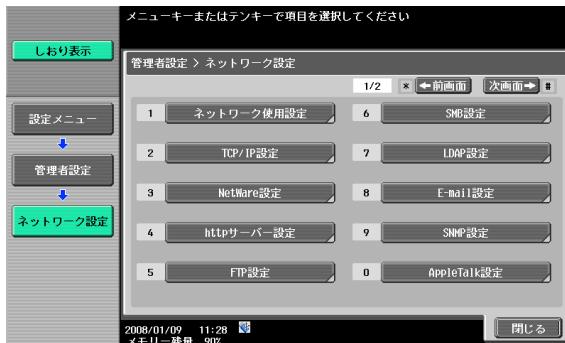
管理者設定画面が表示されます。



4

管理者設定画面で、[5 ネットワーク設定] を押します。

ネットワーク設定画面が表示されます。



全てのネットワーク設定の変更を有効にするには、本機の主電源を入れなおしてください。
主電源スイッチをオフ / オンする場合は、主電源をオフにして、10秒以上経過してからオンにしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

2.2 ネットワーク設定メニューリスト

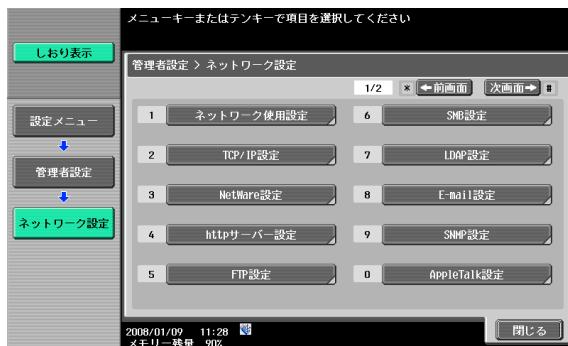
目的別の設定を本機の操作パネルから行う場合は、このメニューリストを参考にしてください。[5 ネットワーク設定] を押したときに表示されるキーを記載します。



ネットワーク設定画面の表示のしかたは、「[ネットワーク設定画面を表示させる](#)」(p. 2-2) をご覧ください。

2.2.1 ネットワーク設定画面 (1/2)

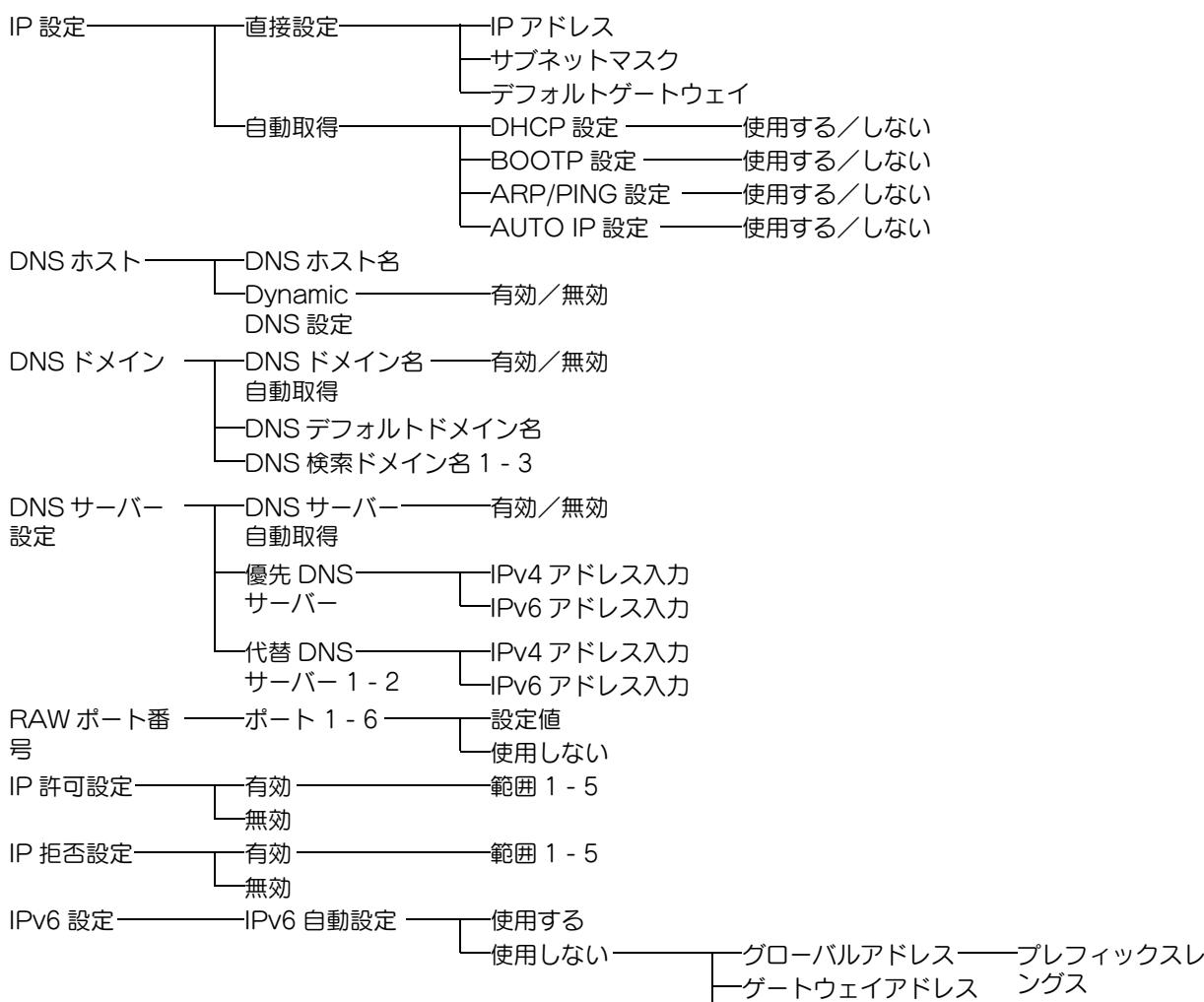
ネットワーク設定画面 (1/2) で設定できる項目は以下のとおりです。

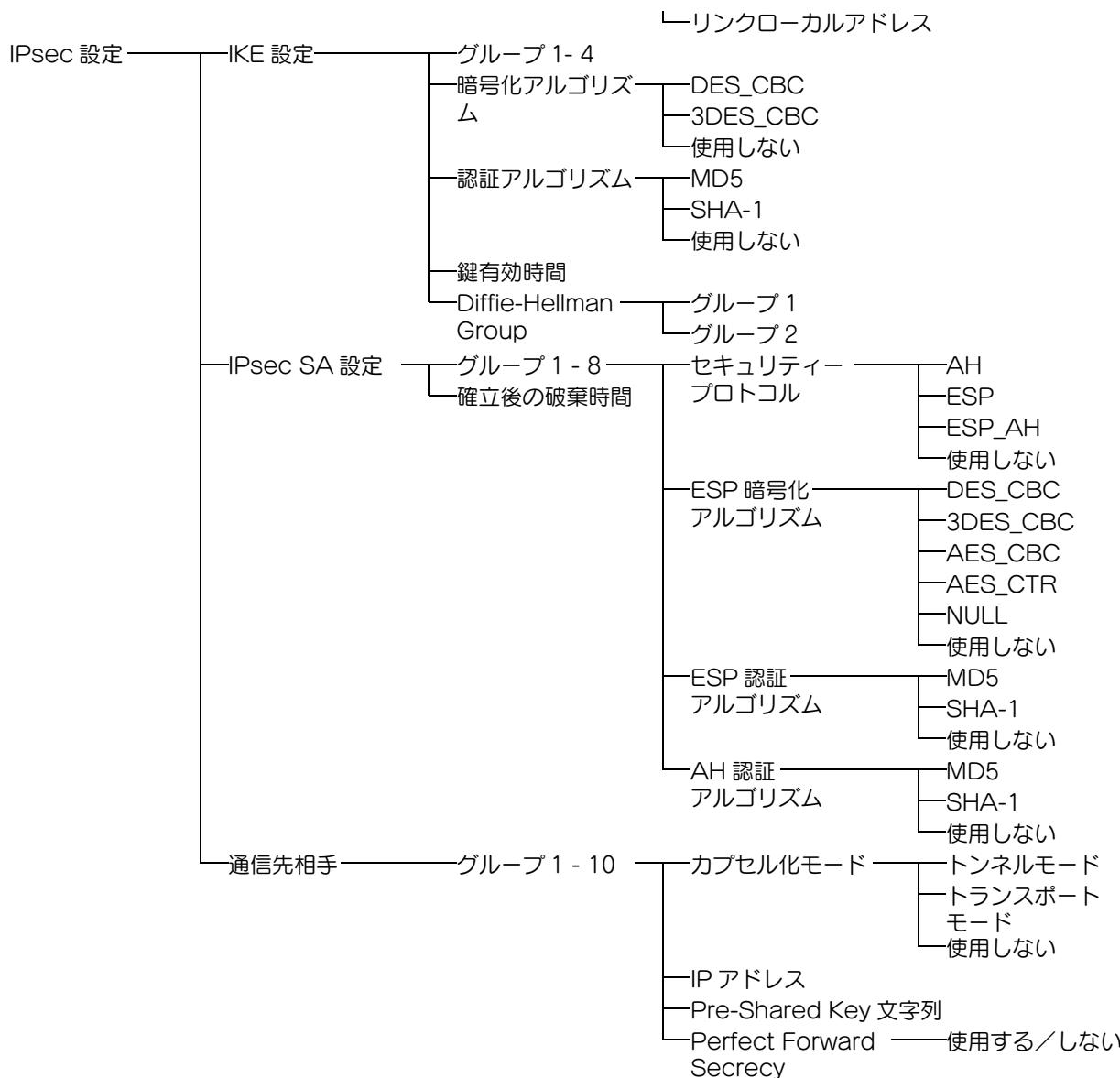


- [1] ネットワーク使用設定

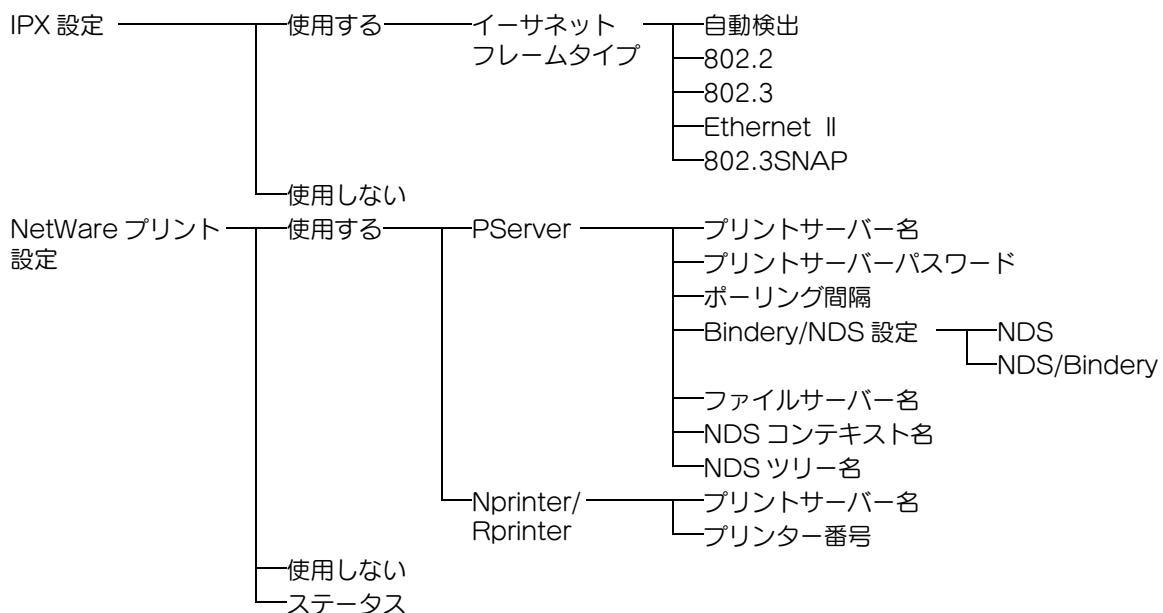


- [2] TCP/IP 設定



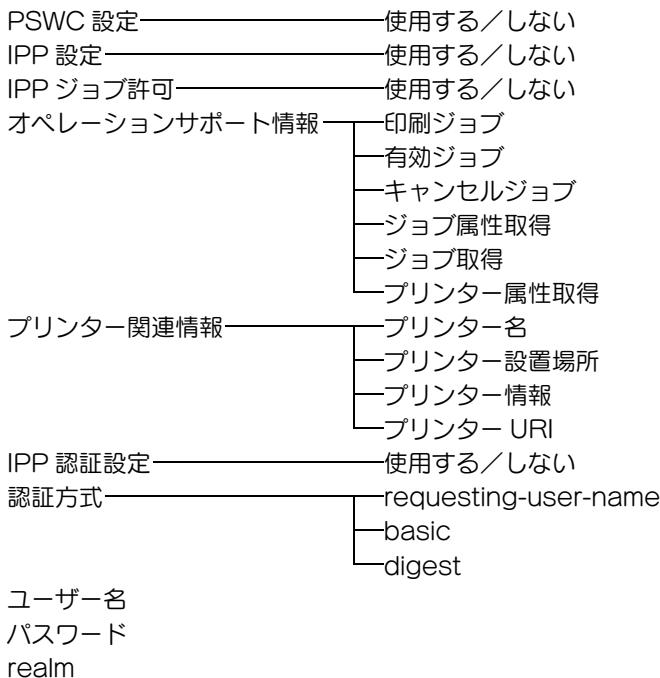


● [3] NetWare 設定

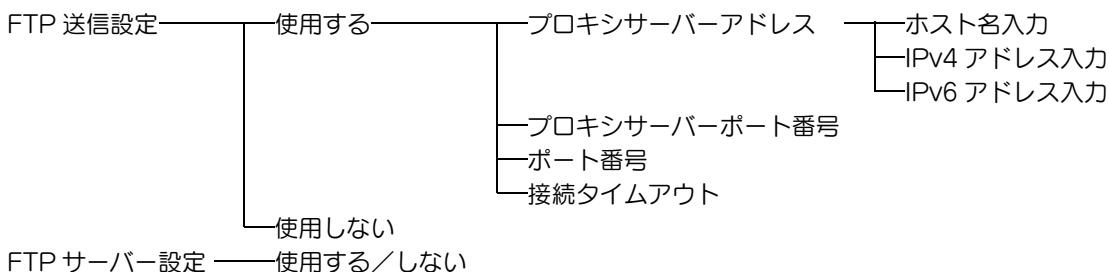


ユーザー認証設定——使用する／しない
(NDS)

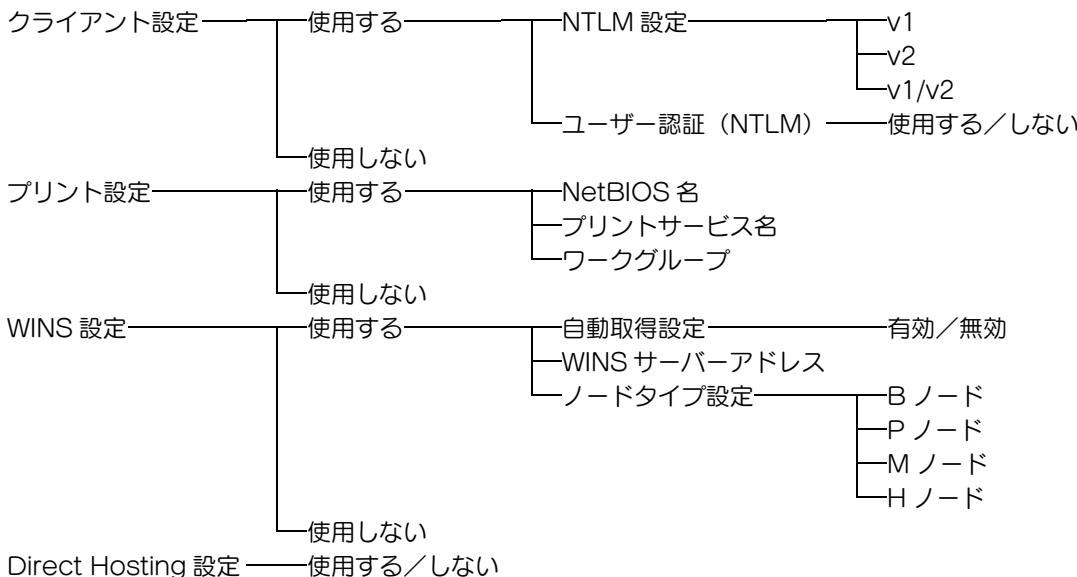
● [4] http サーバー設定



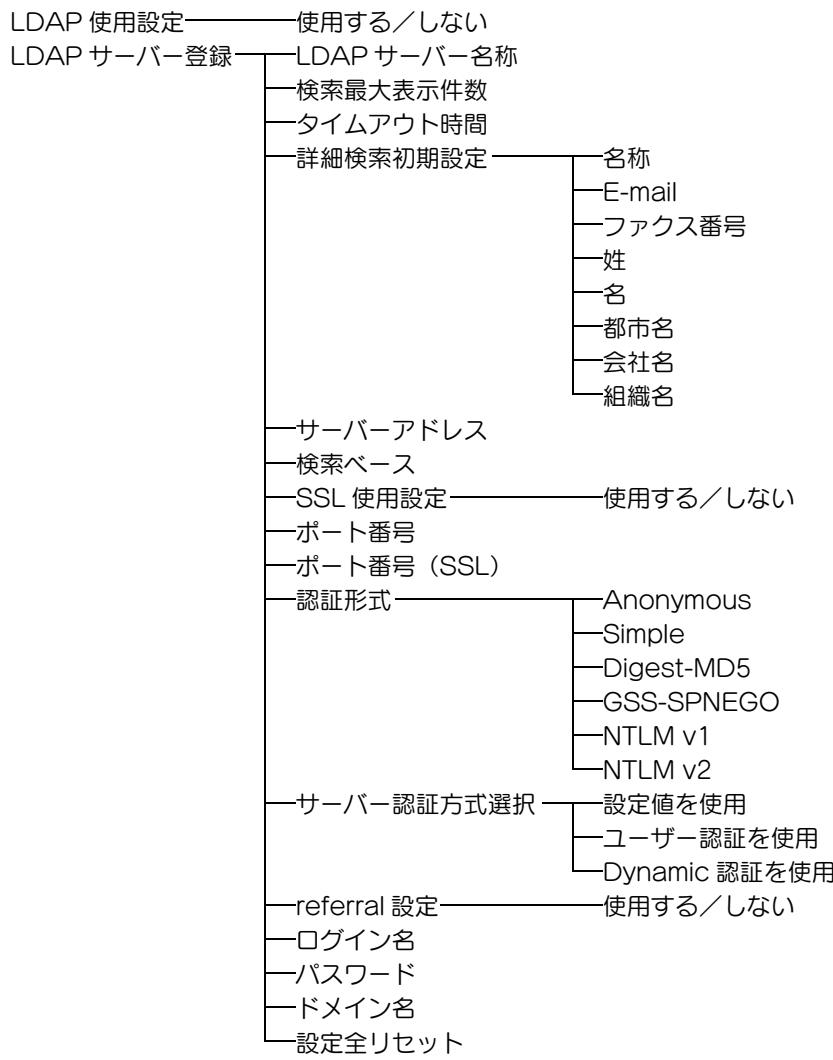
● [5] FTP 設定



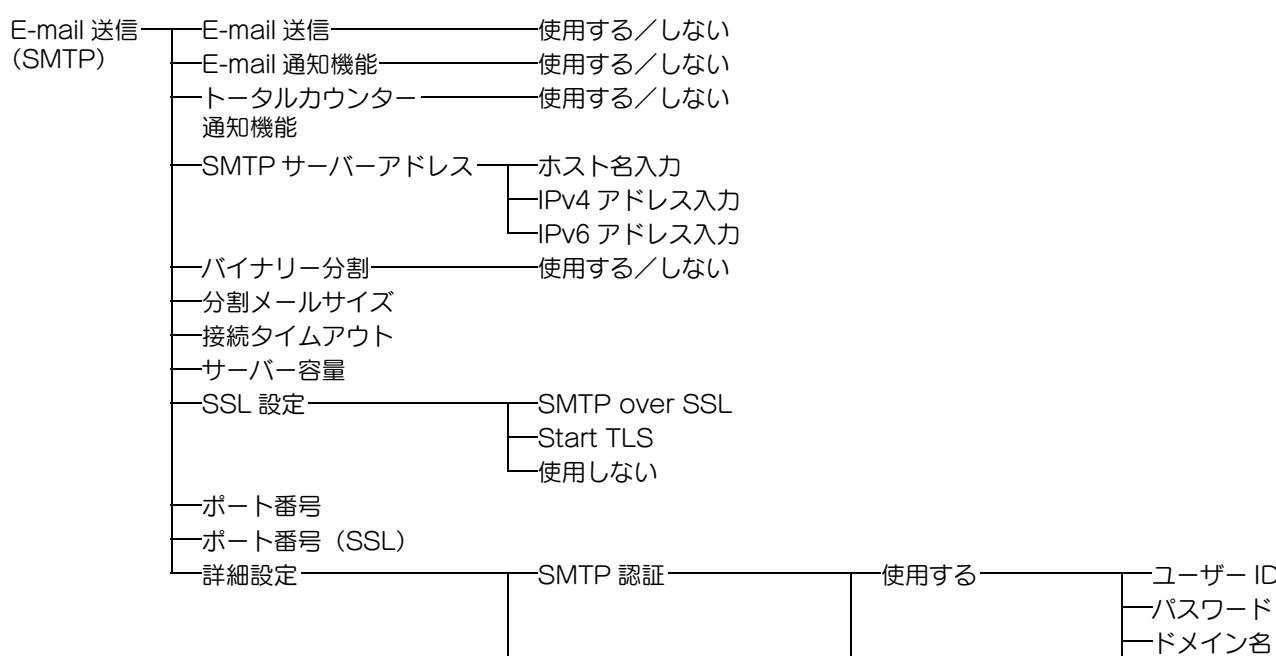
● [6] SMB 設定

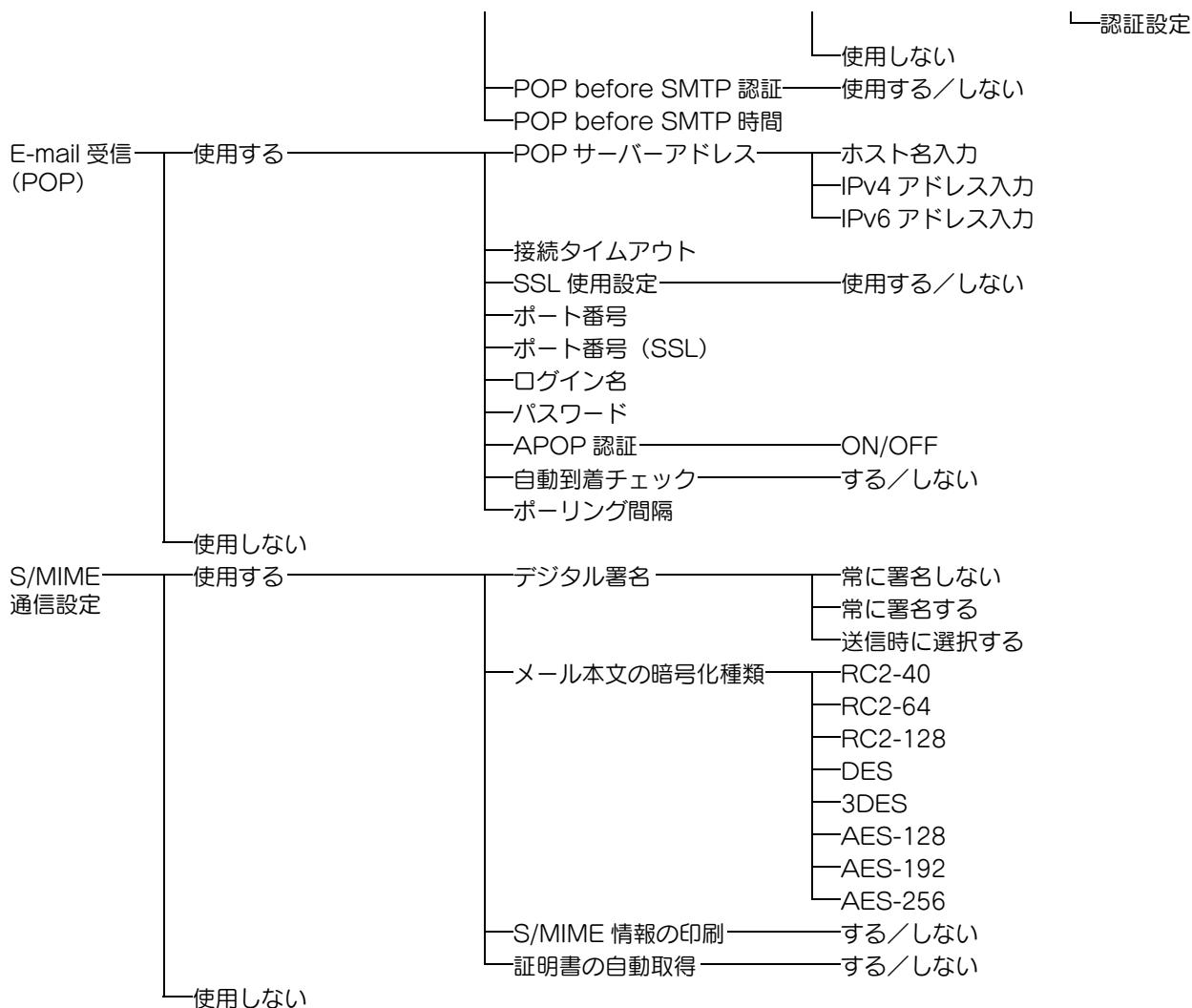


- [7] LDAP 設定

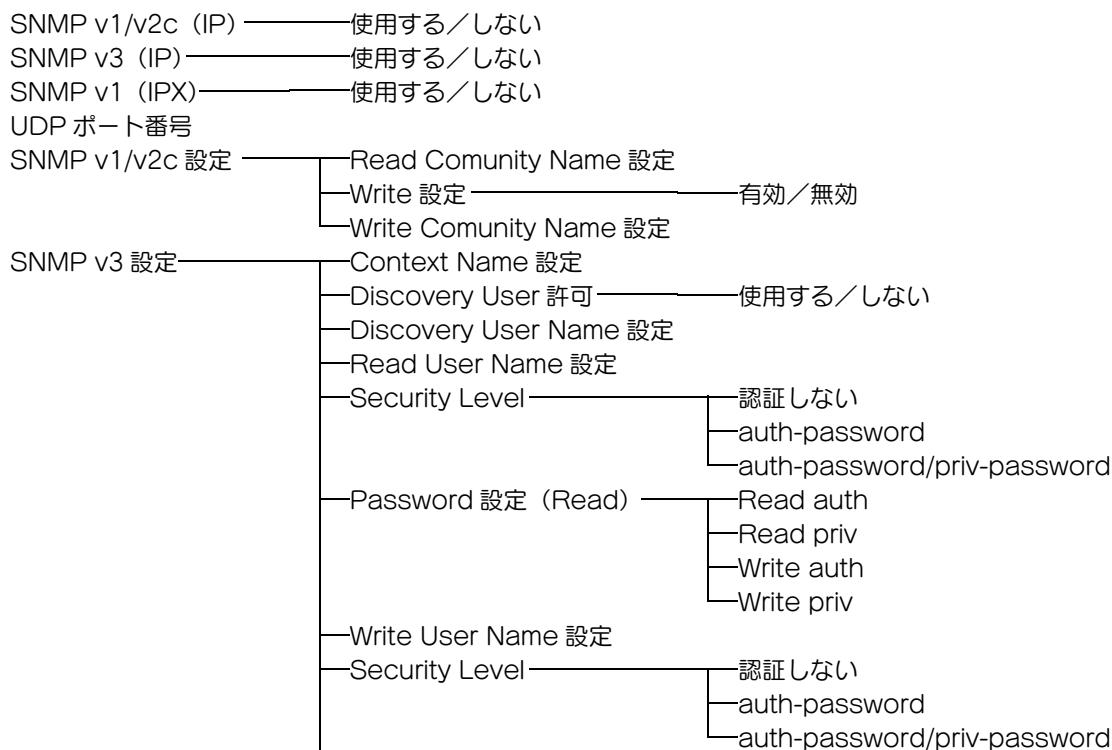


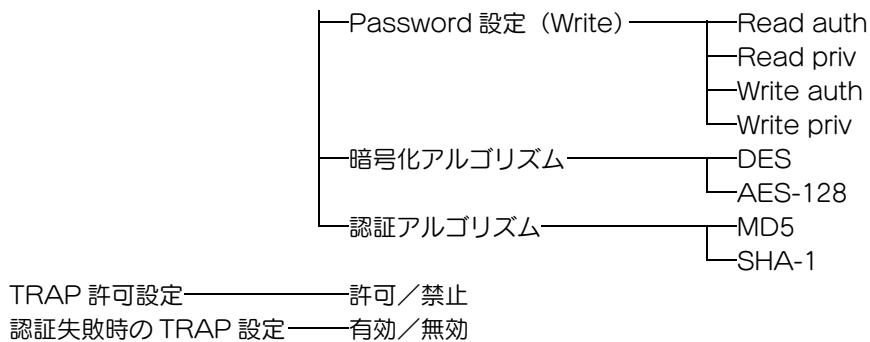
- [8] E-mail 設定





● [9] SNMP 設定





- [0] AppleTalk 設定

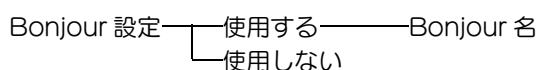


2.2.2 ネットワーク設定画面 (2/2)

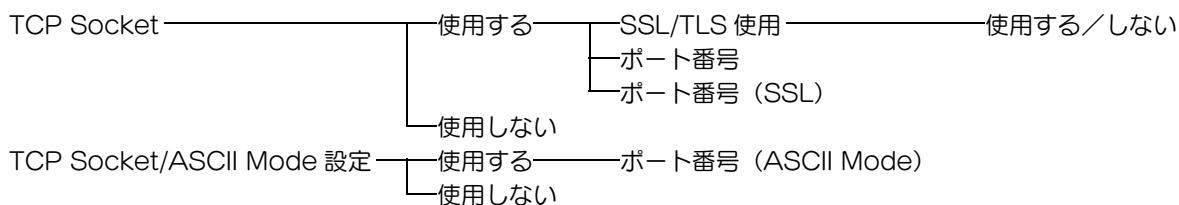
ネットワーク設定画面 (2/2) で設定できる項目は以下のとおりです。



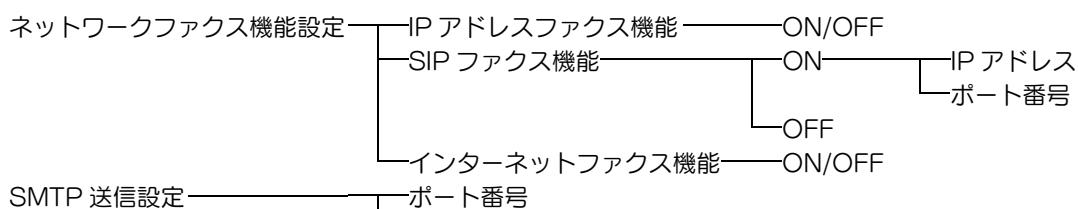
- [1] Bonjour 設定

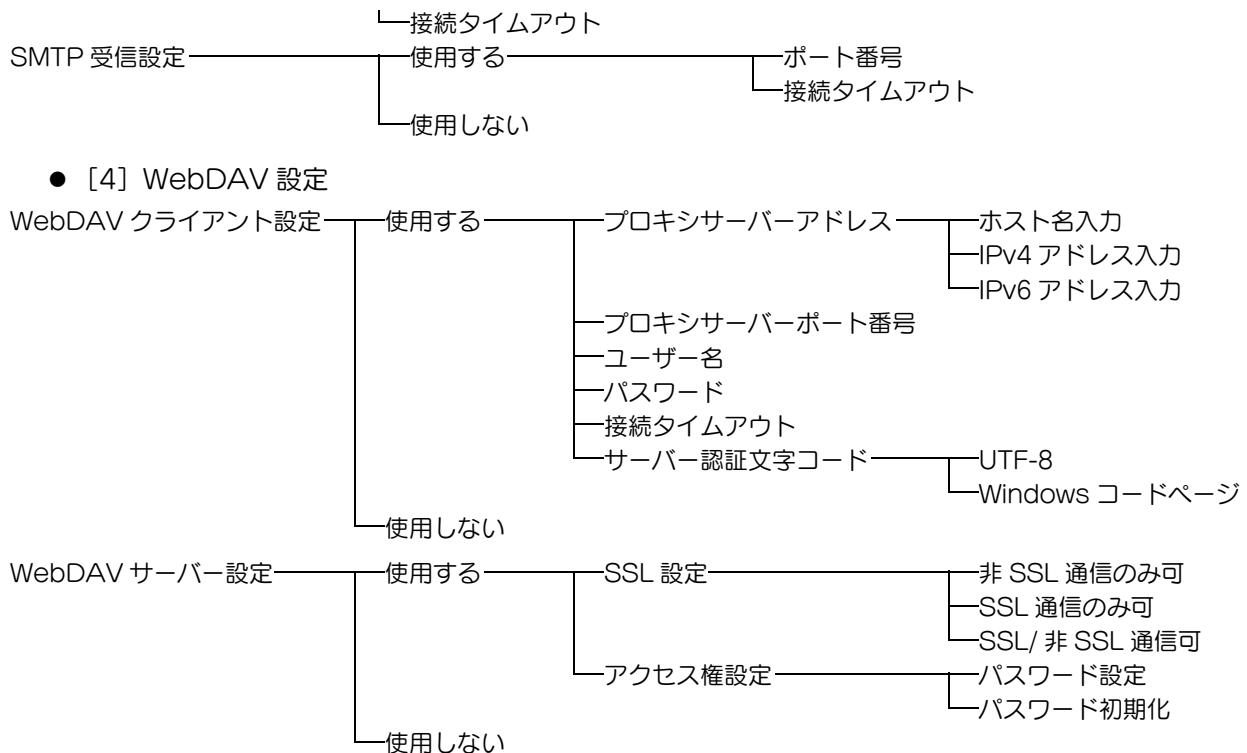


- [2] TCP Socket 設定

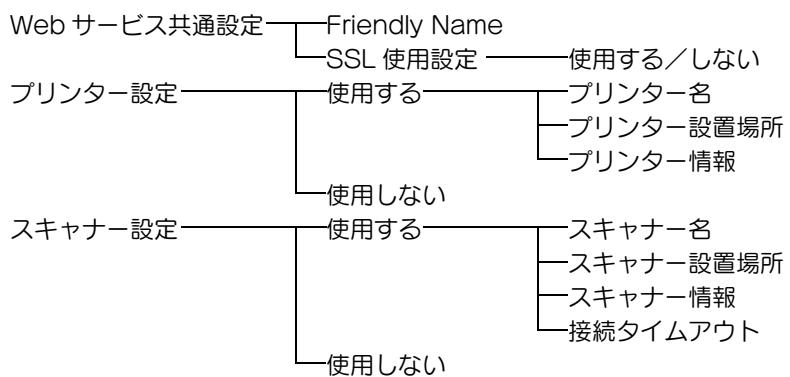


- [3] ネットワークファクス設定

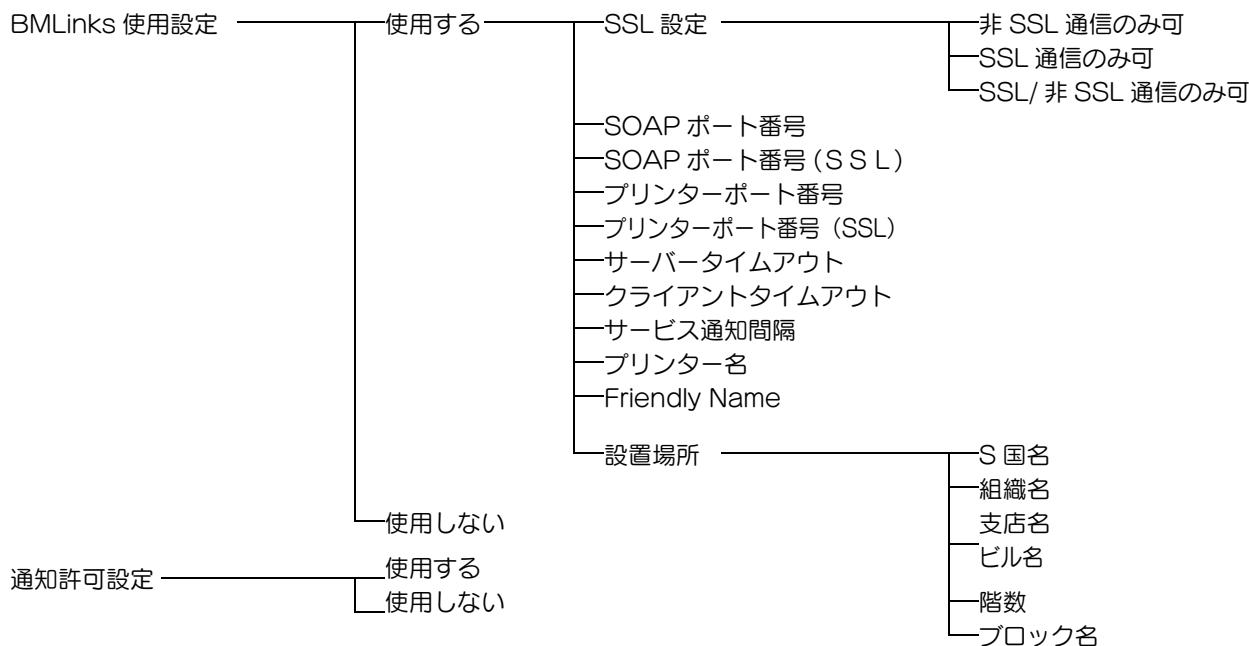




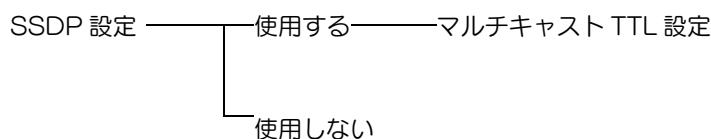
- [5] Web サービス設定



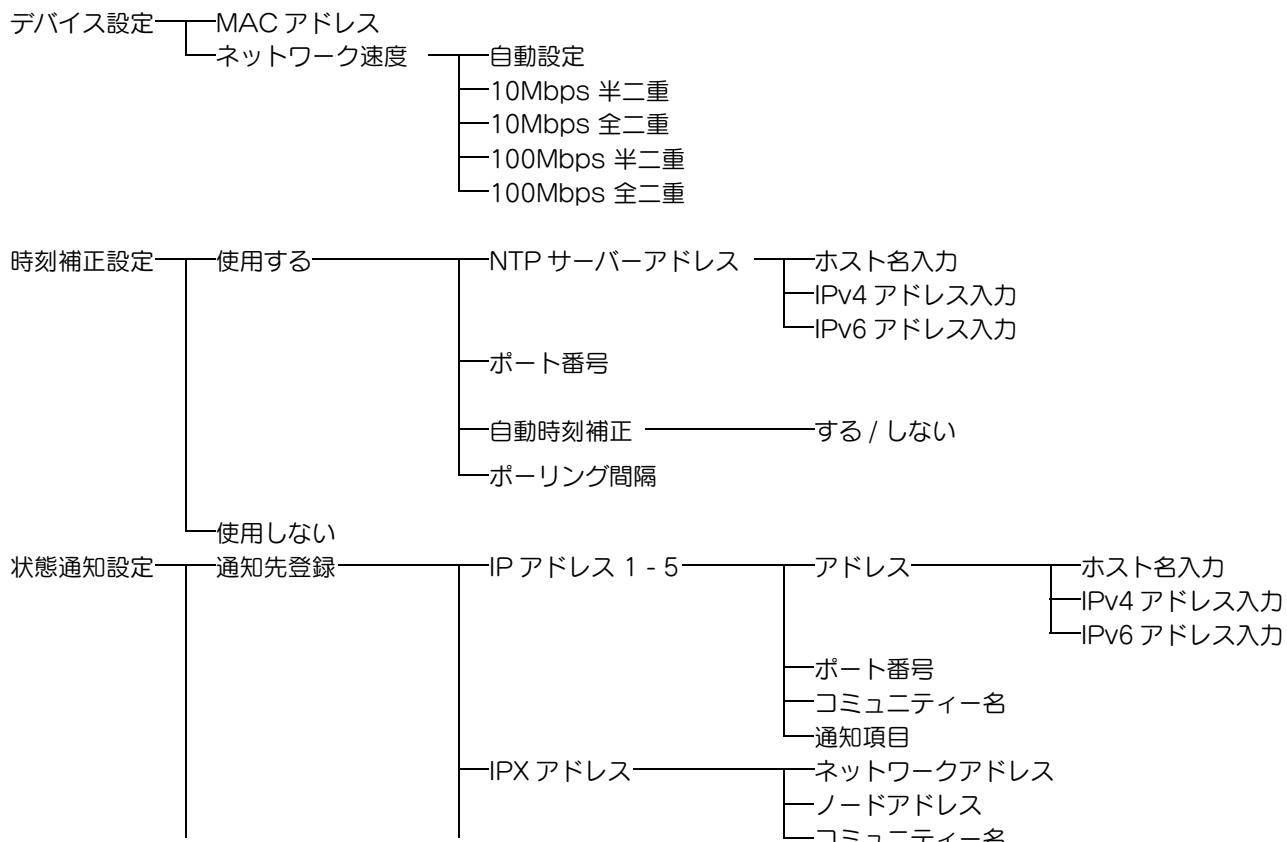
- [6] BMLinks 設定

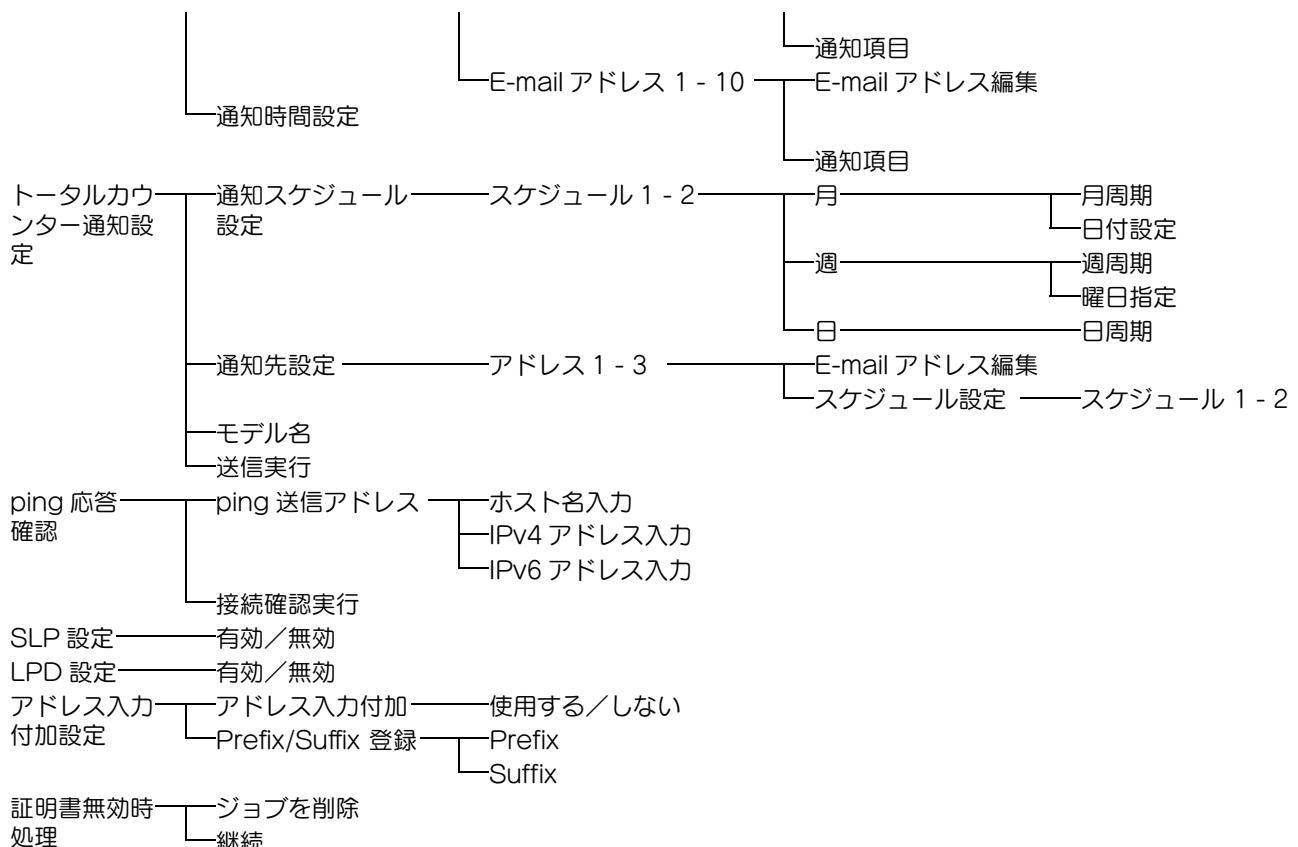


- [7] SSDP 設定

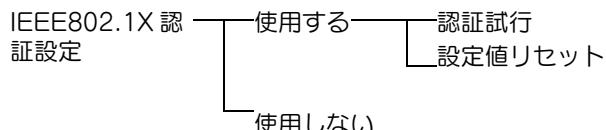


- [8] 詳細設定





● [9] IEEE802.1X 認証設定



第3章 付録

製品仕様（ネットワーク機能）と用語の解説を記載しています。

3.1 製品仕様（ネットワーク機能）

項目	仕様
タイプ	組み込み型
フレームタイプ	IEEE802.2/802.3/Ethernet II/IEEE802.3SNAP
接続ケーブルタイプ	10Base-T/100Base-TX/1000Base-T
コネクタ	RJ-45
主な対応プロトコル	TCP/IP(IPv4/IPv6)、BOOTP、ARP、ICMP、DHCP、AutoIP、SLP、SNMP、FTP、LPR/LPD、RAW Socket、SMB over TCP/IP、IPP、HTTP、POP、SMTP、LDAP、NTP、SSL、IPX/SPX、AppleTalk、Bonjour、NetBEUI、WebDAV、DPWS、S/MIME、IPsec、DNS、DynamicDNS、SSDP、EAP
対応 LDAP サーバー	OpenLDAP 2.1x、Active Directory、Exchange 5.5/2000/2003、Sun Java Directory Server(Netscape/iPlanet Directory Server)、Novell NetWare 5.x/6.x NDS、Novell eDirectory 8.6/8.7、LotusDominoServer(5.x/6.x)*
対応 LDAP プロトコル	LDAP プロトコルバージョン 3 (バージョン 2 はサポートせず)
対応 SSL バージョン	SSL2、SSL3、TLS1.0 (サーバー側に x.509 証明書がインストールされていること)
マルチプロトコル	自動判別
PageScope Web Connection の動作環境	<p>対応 Web ブラウザー： Microsoft Internet Explorer Ver.6 以降推奨 (JavaScript 有効・Cookie 有効) Internet Explorer Ver.5.5 を使用の場合、Microsoft XML parser MSXML 3.X のインストールが必須 Netscape Navigator Ver.7.02 以降 (JavaScript 有効・Cookie 有効) Mozilla Firefox Ver.1.0 以降 (JavaScript 有効・Cookie 有効) Adobe® Flash® Player (表示形式で Flash を選択する場合、Ver.7.0 以降のプラグインが必須)</p> <p><u>ひとこと</u></p> <p>Windows NT 4.0、Mac OS 8/9 は、Flash Player 8 以降をサポートしていません。 これらの OS をお使いの場合は、Adobe サイトより Flash Player 7 をダウンロードしてご使用いただけます。または PageScope Web Connection の表示形式で HTML を選択してください。</p>
設定	不揮発性メモリーに保存

* LotusDominoServer 使用時に検索条件で「含む」「終わる」を選択した場合、正しく動作しません。

3.2 用語集

	用語	説明
記号・アルファベット	10BASE-T/ 100BASE-TX/ 1000BASE-T	Ethernet の規格における仕様の一種。 銅でできた線材を 2 本ずつより合わせたケーブルを使っている。 通信速度は 10Base-T が 10Mbps、100Base-TX が 100Mbps、 1000Base-T は 1000Mbps である。
	2in1	2 枚の原稿を 1 枚の用紙に集約し、見開きの状態にして送信することです。
	Active Directory	Microsoft が提供するネットワーク上に存在するサーバー、クライアント、プリンターなどのハードウェア資源や、それらを使用するユーザーの属性、アクセス権などの情報を一元管理することができるサービスのこと。
	Adobe® Flash®	Adobe Systems 社（旧 Macromedia 社）の開発した、ベクターグラフィックのアニメーションや音声を組み合わせたコンテンツを作成するソフト、またはそのファイル形式。キーボードやマウスからの入力により、双方向性を持たせたコンテンツを扱える。ファイル容量を比較的小さく抑えることができ、ウェブブラウザーに専用のプラグインを導入して閲覧できる。
	anonymous FTP	通常は、アカウントとパスワードによって保護される FTP サイトを、アカウント名 anonymous（匿名）と入力することでパスワードが不要になり、誰でも利用できるようになる FTP サイトのこと。
	APOP	Authenticated Post Office Protocol の略。通常の POP が電子メールの受信に使われるパスワードを暗号化しないのに対して、パスワードを暗号化することで安全性が向上した認証方法のこと。
	AppleTalk	Apple 社が開発したネットワーク機能を実現するプロトコル群の総称。
	Auto IP	自動で IP アドレスを取得する機能。DHCP による IP アドレス取得に失敗した場合、「169.254.0.0」のアドレス空間から任意の IP アドレスを取得する。
	bit	Binary Digit の略。コンピューターやプリンターなどが扱う情報（データ量）の最小単位。0 か 1 かでデータを表す。
	BMLinks	Business Machine Linkage Service の略。社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA) が策定した統合的なネットワーク OA 機器インターフェースのこと。
	BMP	Bitmap の略。画像データを保存するファイル形式の 1 つ（拡張子は .bmp）。 Windows 上で一般的に使用されている。白黒（2 値）の画像からフルカラー（1677 万 7216 色）までの色数を指定できる。基本的には圧縮せずに画像を保存する。
	Bonjour	ネットワーク上に接続しているデバイスを自動的に検出し、設定を行う、Macintosh のネットワーク技術。以前は Rendezvous と呼ばれていたが、Mac OS X v10.4 から Bonjour と名称変更された。
	BOOTP	BOOTstrap Protocol の略。TCP/IP ネットワーク上のクライアントマシンが、サーバーからネットワークに関する設定を自動的に読み込むプロトコル。ただし現在では BOOTP をベースとして一部改良した DHCP が主流になっている。
	bps	bit per second の略です。 データ伝送の単位で、1 秒間に送るデータ量を表します。
	Byte	コンピューターやプリンターなどが扱う情報（データ量）の単位。 1 Byte=8bit で構成される。
	CSV	Comma Separated Values の略。データベースソフトや表計算ソフトのデータをテキストファイルとして保存する形式の 1 つ（拡張子は .csv）。データをカンマ（区切り符号）で仕切ることで、異なるアプリケーション間でのデータの共有を図ることができる。
	Default Gateway	同一 LAN 上に存在しないコンピューターへアクセスする際に使用する「出入り口」の代表となるコンピューターやルータなどの機器のこと。
	DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol の略。 TCP/IP ネットワーク上のクライアントマシンが、サーバーからネットワークに関する設定を自動的に読み込むプロトコル。 DHCP サーバーで DHCP クライアント用に IP アドレスを一括管理するだけで、アドレスの重複を避け、容易にネットワークの構築ができる。

	用語	説明
	DNS	Domain Name System の略。 ネットワーク環境において、ホスト名から対応する IP アドレスを取得できる ようにするシステムのこと。これによりユーザーは、憶えにくく、分かりに くい IP アドレスではなく、ホストの名前を指定してネットワーク上の他のコ ンピューターにアクセスできるようになる。
	DPI (dpi)	Dots Per Inch の略。プリンターやスキャナーなどで使われる解像度の単 位。 1 インチを何個の点の集まりとして表現するかを表す。 この値が高いほど、より精細な表現が可能となる。
	DSN	DSN=Delivery Status Notifications の略。受信側のメールサーバーに電 子メールが到着した時に送信側に送られる配送状態通知メッセージのことです。
	Dynamic 認証 (LDAP 設定)	MFP から LDAP サーバーに接続する際の、認証方法オプションのひとつ。 宛先情報を LDAP サーバーから参照するときに、LDAP サーバーへのログ イン名とパスワードをユーザーに毎回入力させたい場合、このオプションを 選択する。
	ECM	(Error Correction Mode: 誤り訂正方式) G3 通信の誤り再送方式です。相手に正しくデータが送られたかどうかを確 認し、正しく送られていない場合はそのデータを再送しながら通信します。 相手側が ECM モードをもっていれば、本機では ECM オフを指定しない限 り、ECM で通信されます。
	FTP	File Transfer Protocol の略。インターネットやイントラネットなどの TCP/IP ネットワークでファイルを転送するときに使われるプロトコルのこと。
	F コード	ITU-T (国際電気通信連合) で標準化された T.30 * のサブアドレスの使い方 について、日本通信機工業会が定めた通信手順のことです。F コード機能を もつファクス間の通信では、メーカーが異なる場合も、F コードを使用した いろいろな機能を利用することができます。本機では、掲示板、中継依頼、 親展通信、パスワード送信で F コードを使っています。(* 通信の規格のこと です)
	G3	ITU-T (国際電気通信連合) が標準化したファクスの通信モードのひとつで す。通信モードには、G3、G4 があります。G3 は、現在最も多く使われて いるモードです。
	GSS-SPNEGO/ Simple/Digest MD5	LDAP サーバーへのログオン時の認証形式。LDAP サーバーは使用するサー バーやサーバーの設定により認証形式が異なり、GSS-SPNEGO/Simple/ Digest MD5 という認証形式がある。
	HTTP	HyperText Transfer Protocol の略。Web サーバーとクライアント (Web ブラウザーなど) がデータを送受信するのに使われるプロトコル。文 書に関連付けられている画像、音声、動画などのファイルを、表現形式など の情報を含めてやり取りできる。
	IEEE802.1X	有線 LAN や無線 LAN で、ネットワークにアクセスする端末を認証するため の規格。 IEEE802.1X に対応した LAN スイッチは、接続されたパソコンを認証し、 正しい利用者であることを確認してから LAN への接続を許可する。
	IPP	Internet Printing Protocol の略。インターネットなどの TCP/IP ネット ワークを通じて、印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコルの こと。インターネットを通じて遠隔地のプリンターにデータを送って印刷す ることもできる。
	IPsec	TCP/IP で使用されているセキュリティ技術の名称。送信するパケットの 暗号化や認証に関するプロトコルを決めることによって、セキュリティを 強化したサービス提供が可能となる。
	IPv6	Internet Protocol version 6 の略。 インターネットを使用する機器の増加に伴い、現在使用されている IPv4 に 代わるものとして準備が進められてきたプロトコルの名称。 IP アドレスの 128 ビット化、セキュリティ機能の追加などが追加されてい る。
	IPX	NetWare で利用されるプロトコルのひとつ。OSI 参照モデルのネットワー ク層で動作する。

	用語	説明
	IPX/SPX	Internet Packet exchange/Sequenced Packet exchange の略。Novel 社により開発された、NetWare 環境下で一般的に使用されるプロトコルのこと。
	IP アドレス	インターネット上で個々のネットワーク機器を識別する符号（アドレス）。現在広く普及している IPv4 (Internet Protocol version 4) は、4 つに区切られた 32 ビットの数値が使われ、192.168.1.10 のように表される。次世代の IPv6 (Internet Protocol version 6) では、128 ビットの IP アドレスが使われる。コンピューターを始めとしてインターネットに接続した機器には、全て IP アドレスが割り振られる。
	IP アドレスファクス	IP とは、インターネット上の個々のネットワーク機器を識別する符号（アドレス）で、IP アドレスファクスはそのアドレスを使用して、イントラネット内で送受信する通信形態のことです。
	Kerberos	Windows2000 以降で使用されているネットワーク認証システムの一つ。Active Directory の認証に使用される。ネットワーク内に信頼できるサイトを配置し、このサイトでユーザーのログオンと各種ネットワーク・リソース利用という 2 段階のフェーズで認証を行うことにより、ユーザーを安全かつ効率的に認証することができる。
	LAN	Local Area Network の略。同一フロア、同一のビルないしは近隣のビル内などにあるコンピューター同士を接続したネットワークのこと。
	LPD	Line Printer Daemon の略。TCP/IP 上で動作する、プラットフォームに依存しない印刷プロトコル。もともと BSD UNIX 用に開発されたが、一般的なコンピューターでも使用されるようになり、今では標準的な印刷プロトコルとなっている。
	LPR/LPD	Line Printer Request/Line Printer Daemon の略。WindowsNT 系、UNIX 系におけるネットワーク経由印刷の 1 種。TCP/IP を使って、Windows、UNIX からの印刷データをネットワーク上にあるプリンターに出力させることができる。
	LDAP	Lightweight Directory Access Protocol の略。インターネットやイントラネットなどの TCP/IP ネットワークで、ネットワークを利用するユーザーのメールアドレスや、環境に関する情報を管理できるデータベースにアクセスするためのプロトコルのこと。
	MAC Address	Media Access Control address の略。各 Ethernet カード固有の ID 番号で、これを元にカード間のデータの送受信が行われる。48 ビットの数字で表現されており、前半の 24 ビットは IEEE が管理・割当てをしている各メーカーごとに固有な番号で、後半の 24 ビットはメーカーが一意にカードに割当てる番号である。
	MDN	MDN=Message Disposition Notifications の略。送信側が開封確認を要求している場合に送られる開封確認メッセージのことです。
	MH	Modified Huffman の略。ファクス用のデータ圧縮符号方式の 1 つ。文字を中心とした原稿の場合、10 分の 1 程度に圧縮される。
	MIB	Management Information Base の略。TCP/IP 通信において、SNMP を用いて収集されるネットワーク機器の管理情報フォーマットを定義したもの。メーカー独自のプライベート MIB と、標準化されたスタンダード MIB の 2 種がある。
	MMR	Modified Modified Read の略。ファクス用のデータ圧縮符号方式の 1 つ。文字を中心とした原稿の場合、20 分の 1 程度に圧縮される。
	NDPS	Novell Distributed Print Services の略。NDS 環境において高機能なプリントソリューションを提供する。NDPS をプリントサーバーとして利用することにより、希望するプリンターからの出力、新規プリンター導入時のドライバーの自動ダウンロードなど、プリンター利用に関する煩雑な管理環境を簡素化・自動化できるほか、ネットワーク・プリンターに関わる統合的な管理を行うことができる。
	NDS	Novell Directory Service の略。ネットワーク上に存在するサーバーやプリンター、ユーザー情報などの共有資源、またそれらに対する個々のユーザーのアクセス権限などの情報を、階層構造で一元管理できる。

	用語	説明
	NetBIOS	Network Basic Input Output System の略。IBM 社によって開発された通信インターフェースのこと。
	NetBEUI	NetBIOS Extended User Interface の略。IBM 社が開発したネットワークプロトコル。コンピューター名を設定するだけで、小規模なネットワークを構築できる。
	NetWare	ノベル社が開発したネットワーク OS。通信プロトコルに NetWare IPX/SPX を使用している。
	Nprinter/ Rprinter	Netware 環境下でプリントサーバーを使用する場合の、リモートプリンターサポートモジュールのこと。Netware 3.x で Rprinter、Netware 4.x で Nprinter を使用する。
	NTLM	NT LAN Manager の略。Windows NT 以降で共通して使用されるユーザー認証方式。MD4 または MD5 という暗号方法でパスワードを暗号化する。
	NTP	Network Time Protocol の略。コンピューターの内部時計を、ネットワークを介して正しく調整するプロトコルのこと。階層構造を持ち、最上位のサーバーが GPS 等を利用して正しい時刻を得、下位のホストはそれを参照する事で時刻を合わせる。
	OCR	Optical Character Reader の略。手書き文字や印字された文字を光学的に読み取り、前もって記憶されたパターンとの照合によって文字を特定し、文字データに変換する装置またはソフトウェアのこと。
	OHP/OHT	OHP（オーバーヘッドプロジェクター）用の透明なシート。プレゼンテーションなどに使用する。
	OS（オーエス）	Operating System の略。コンピューターのシステムを管理する基本ソフトウェア。Windows/MacOS/Unix もその中の 1 つ。
	PASV	PASsive の略。ファイアウォール内部から FTP サーバーに接続するモード。このモードに設定していないとファイアウォールが不正アクセスと見なし、接続を遮断してしまうため、ファイル転送をすることができなくなる。
	PB	ブッシュ回線のことです。
	PC-FAX	紙を使用せずに、コンピューターから直接ファクス送信できる機能のことです。
	PDF	Portable Document Format の略。電子形式書類の 1 つ（拡張子は .pdf）。PostScript をベースとしたフォーマットで、Adobe Acrobat Reader という無料ソフトを使用して閲覧できる。
	PDL	Page Description Language の略。ページプリンターで印刷するとき、プリンターにページ単位で印刷イメージを指示する言語。
	POP	Post Office Protocol の略。メールサーバーから電子メール受信を行うためのプロトコルのこと。現在は POP のバージョン 3 である POP3 が主に使われている。
	POP3	Post Office Protocol - Version 3 の略。電子メールの送受信で、一般的に使われている通信プロトコル（通信の約束ごと）のひとつです。メールボックスの認証、電子メールのダウンロードや一覧情報の確認、電子メールの削除などの機能をもちます。
	POP Before SMTP	電子メールを送信する際の、ユーザー認証方法のひとつ。まず受信動作を行い、POP サーバーにてユーザー認証を行う。その後、POP サーバーにユーザー認証を通過した IP アドレスに対して、SMTP サーバーの利用を許可する。メールサーバーの利用権のない第三者者が、不正にメールを送信するのを防ぐ。
	PostScript	米 Adobe 社によって開発された、とくに高品質が要求される印刷処理で一般的に利用される代表的なページ記述言語のこと。
	PPD	PostScript Printer Description の略。解像度や利用可能紙サイズ等、PostScript プリンターの機種固有の情報を記述したファイルのこと。
	PPI	Pixels Per Inch の略。主にモニターやスキャナー等の解像度の単位。1 インチの中にどのくらいの画素 (pixel = ピクセル) が含まれているかをあらわす。

	用語	説明
Proxy Server	Internetとの接続において、各クライアントの代わりに外部との接続窓口となり、組織全体で効率的にセキュリティーを確保するために設置されるサーバーのこと。	
PServer	Netware環境下におけるプリントサーバーモジュールのこと。プリントジョブの監視、変更、休止、再開、および中止を行う。	
Queue Name	ネットワーク印刷を行うときに、印刷を許可させる為に機器毎に設定する名称。	
Raw ポート番号	Windows等のTCP印刷でRawプロトコルを選択した場合に使うTCPポート番号のこと。通常の番号は9100。	
realm (IPP 設定)	セキュリティー機能を実現するための領域。ユーザー名とパスワードなどの認証情報を組織化し、領域内のセキュリティー原則を定義する。	
referral 設定 (LDAP 設定)	宛先を検索したLDAPサーバーに該当するデータが無かった場合、次にどのLDAPサーバーを検索するべきか、LDAPサーバーが指示を行う。この指示されたLDAPサーバーを、MFPが検索するかどうかの設定。	
RIP	Raster Image Processorの略。PostScript等のページ記述言語を用いて記述されたテキストデータを、画像イメージに展開する処理のこと。通常はプリンターに内蔵されている。	
Samba	SMB(Server Message Block)を利用して、UNIXシステムの資源をWindows環境から利用できるようにする、UNIXのサーバーソフトウェア。	
SIP ファクス	SIPとは、VoIPと呼ばれるTCP/IPネットワークを使用して音声データを送受信する技術を応用したインターネット電話などで用いられる通話制御プロトコルの一つで、SIP ファクスはこれを使用して送受信する通信形態のことです。転送機能や発信者番号通知機能など、公衆電話網に近い機能を備えています。	
SLP	Service Location Protocolの略。TCP/IPネットワーク上のサービスの検索や、クライアントの自動設定などを可能にするプロトコルのこと。	
S/MIME	Secure/Multipurpose Internet Mail Extensionsの略。MIME(E-mailの操作)に暗号化や電子署名などの機能を追加するプロトコル。暗号化には、暗号化と復号化で異なる鍵を使う公開鍵方式が利用されている。	
SMB	Server Message Blockの略。主にWindows間でネットワークを通じてファイル共有やプリンター共有を実現するプロトコルのこと。	
SMTP	Simple Mail Transfer Protocolの略。電子メールを送信／転送するためのプロトコルのこと。	
SNMP	Simple Network Management Protocolの略。TCP/IPを使ったネットワーク環境での管理プロトコルのこと。	
SSDP	Simple Service Discovery Protocolの略。ネットワーク上のUPnPデバイスを検出するためのプロトコルのこと。	
SSL/TLS	Secure Socket Layer/Transport Layer Securityの略。Webサーバーとブラウザ間で安全にデータ通信するための暗号化方式のこと。	
Super G3 (SG3)	ITU-T V.34に準拠したG3通信のモードです。通常のG3通信より高速(最高33,400bps)で通信することができます。	
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocolの略。インターネットにて使用されている事実上標準的なプロトコルのこと。個々のネットワーク機器を識別するために、IPアドレスを使用する。	
TCP Socket	TCP/IPにおいて利用するネットワーク用APIのことを指す。このソケットを使って通信路を開いて、通常のファイル入出力を行う。	
TIFF	Tagged Image File Formatの略。画像データを保存するファイル形式の一つ(拡張子は.tif)。データの型を表す「タグ」によって、1つの画像データの中にさまざまな種類の画像形式の情報を保存できる。	
TrueType	アウトラインフォントの一種。Apple社とMicrosoft社によって開発され、MacintoshやWindowsには標準で採用されている。ディスプレイ表示と印刷の両方に使用できる。	

	用語	説明
	TSI	Transmitting Subscriber Identification の略で、送信（発信）ファクス端末の ID のことです。
	TWAIN	スキャナーやデジタルカメラなどの画像入力機器と、グラフィックソフトなどのアプリケーションとの間のインターフェースに関する規格のこと。TWAIN 対応機器を使用するためには、TWAIN ドライバーが必要である。
	USB	Universal Serial Bus の略。コンピューターとマウスやプリンター等を接続するための汎用インターフェース規格のこと。
	V34	スーパー G3 のファクス通信時に使われる通信方式のことです。相手機又は自社機が内線交換機経由で回線に接続されているなどの場合、回線の状況によっては、スーパー G3 モードで通信できない場合があります。このような場合は、V34 オフを選択することによって、スーパー G3 モードをオフにして送信することをおすすめします。
	WINS	Windows Internet Name Service の略。Windows 環境で、コンピューター名と IP アドレス変換を行うネームサーバーを呼び出すためのサービス。
	Zone	AppleTalk ネットワークに付ける名前。AppleTalk ネットワーク上の複数の機器をグループ分けするために使用する。
	Z 折れ原稿	折り目がついているために原稿サイズを正しく検知できない原稿の場合に、いったん原稿サイズを確定してから原稿を読み込み送信する機能のことです。この機能は、原稿を ADF で読み込む場合にだけ使用できます。
あ行	アウトラインフォント	文字の形を、直線や曲線による輪郭線で表したフォントのこと。文字サイズが大きくなってしまっても、ギザギザの無い画面表示と印刷ができる。
	宛先確認送信	送信時に、指定したファクス番号と相手機のファクス番号情報（CSI）を比較して、一致した場合のみ送信する機能のことです。不一致の場合は通信工場となるため、誤送信を防止することができます。
	宛先レベル	情報のセキュリティのため、特定の宛先情報を特定の人だけ閲覧できるように設定する機能のことです。ユーザー認証と連動して使用し、設定したユーザーレベルと一致した宛先レベルの情報だけを閲覧できます。
	アンインストール	インストールされているソフトウェアを削除すること。
	イーサネット (Ethernet)	LAN の伝送路に関する規格のこと。
	印刷ジョブ	PC から印刷機器に送信される印刷要求のこと。
	インストール	ハードウェア、OS、アプリケーション、プリンタードライバー等を、コンピューターのシステムに組み込むこと。
	インターネット ファクス	インターネット（企業内ネットワーク）やインターネットを経由し、読込んだ原稿をインターネットファクスやコンピューターとのあいだで電子メールの添付文書（TIFF 形式）として送受信する通信形態のことです。
	ウェブブラウザー	Web ページを閲覧するためのソフトウェアのこと。Internet Explorer や、Netscape Navigator などがある。
	海外通信	国外の相手と通信をすることです。海外通信モードに設定すると、ゆっくりとしたスピードで通信します。国内でも、通信状態の悪いところへ通信するときは、海外通信モードに設定しておくと、確実に通信することができます。
か行	解像度	画像や印刷物の細部を、どれだけ正確に再現できるかを表したもの。
	階調	画像の濃淡の段階のこと。数が大きいほど、滑らかな濃度変化を再現できる。
	拡張子	ファイルの保存形式を見分けるために、ファイル名につけられる文字列のこと。ピリオドに続けて表記される。「.bmp」や「.jpg」など。
	画素	画像を構成する最小単位のこと。
	加入回線	日本電信電話株式会社（NTT）グループが提供している公衆電話回線のことです。
	輝度	ディスプレイ等の画面の明るさのこと。
	キュー名	LPD/LPR 印刷のときに必要な論理プリンター名のこと。
	強制メモリー受信	受信した文書をメモリーに蓄積し、必要に応じてプリントする機能のことです。

用語	説明	
共有プリンター	ネットワーク上のサーバーに接続され、複数のコンピューターから使用可能なように設定されたプリンターのこと。	
クイックメモリー送信	原稿を1ページ読み取ると同時にファックス送信を始める方法のことです。原稿の枚数が多い場合にもメモリーオーバーすることなく送信する機能のことです。	
クライアント	ネットワークを介して、サーバーが提供するサービスを利用する側のコンピューターのこと。	
グループ	複数の短縮No.をグループ化しておくことです。同じ宛先に順次同報や順次ポーリング受信をすることが多い場合に便利です。	
グレースケール	黒から白への階調情報を使用して表現したモノクロ画像の表現形式のこと。	
掲示板	閲覧したい文書を掲示したり、ポーリング送信したい文書を蓄積しておく機能のことです。	
ゲートウェイ	ネットワークとネットワークを接続するポイントとなるハードウェアやソフトウェアのこと。単に接続するだけでなく、接続先のネットワークに合わせて、データのフォーマット、アドレス、プロトコルなどを変換する。	
原稿枚数	原稿の総ページ数を付けて送信することで、クイックメモリー送信の場合に使います。原稿が正しく届いたかを確認するのに便利です（メモリー送信の場合は、自動的に総ページ数が付けられます）。	
混載原稿	サイズの異なる原稿をセットし、それぞれの原稿サイズを検知して送信する機能のことです。	
さ行	コントラスト	画像の明るい部分と暗い部分の差（明暗の差）のこと。明暗の差が少ない画像を「コントラストが低い画像」、明暗の差が大きい画像を「コントラストが高い画像」という。
	再送信	メモリーに保存されている送信できなかった文書を選択して、同じ宛先か、または宛先を変更してもう一度送信する機能のことです。
	サブネットマスク	TCP/IPネットワークをいくつかの小さなネットワーク（サブネット）に区切るために用いる値。 IPアドレスの上位何ビットがネットワークアドレスであるかを識別するために使用する。
	サムネイル	画像ファイルや文書ファイルの内容（ファイルを開いたときのイメージ）を小さく表示する機能のこと。
	シングルページTIFF	1つのファイルが1ページだけのTIFFファイルのこと。
	スクリーンフォント	CRTなどのモニター上で、文字／記号を表示するためのフォント。
	スプール (Spool)	Simultaneous Peripheral Operation On-Lineの略。 プリンター出力で、データを直接プリンターに送らず、一時的に別の場所に貯めておき、後でまとめてプリンターに送信すること。
	下地調整	原稿の背景色の濃さを調整して送信する機能のことです。
	シャープネス	文字のエッジを強調して送信する機能のことです。
	主走査	原稿を読み取るときの横方向のことです。
手動送信	手動送信	相手側の状態を確認しながら送信する場合の操作です。
	初期値	工場出荷時に、あらかじめ設定されている値のことをいいます。初期値のいくつかは、設定メニューで変更することができます。お使いの状況に合わせ、よく使う値を初期値に設定しておくと便利です。
	親展通信	特定の人にだけ見せたい原稿を送受信する機能です。親展送信した原稿は、受信側の親展ボックスに蓄積され、受信時には印刷されません。親展ボックスの暗証番号を入力するなどの操作をすると、受信した文書が印刷されます。
	線数	画像を形成する網点が、どれだけの密度で使われるかを示した数のこと。
	走査 (scan)	スキャナーの読み取り動作で、一列に並んだイメージセンサを少しづつ移動させながら画像を読み取っていくこと。イメージセンサを移動させる方向を主走査方向といい、イメージセンサが一列に並んでいる方向を副走査方向という。
	送信予約	送信中やプリント中に、次の送信を予約する機能のことです。

	用語	説明
た行	ダイアル方式	PB（プッシュ式回線）、10PPS（ダイアル式回線 /10PPS）、20PPS（ダイアル式回線 /20PPS）の3種類があります。
	代行蓄積文書	用紙切れなどで、受信文書をプリントできない状態のとき、自動的に受信文書をメモリーに蓄積する機能です。用紙補給などの処置をすると、代行蓄積文書が印刷されます。
	代行転送	操作パネルの設定確認ボタンを使い、出力待ちの受信原稿を手動で転送する機能のことです。代行転送は、ファックス / スキャン画面が表示されているとき、紙なし、または紙づまりで動作が中断しているときに設定します。
	タイマー通信	指定した時刻に通信する機能のことです。深夜や早朝などの電話料金割引時間を利用して通信すると経済的です。
	ダイアルイン	ファックス用の電話番号と、電話用の電話番号を別にもつことができる機能のことです。 ダイアルイン機能を使用するためには、NTTにダイアルイン機能（モデムダイアルイン）の申し込みが必要です。
	短縮 / アドレス	頻繁に送信する宛先のファックス番号を登録しておく機能のひとつです。短縮 / アドレスを登録するときに、宛先名と検索文字を登録しておくと、短縮選択の検索文字を利用して宛先を指定することもできます。
	着信	ファックスに電話がかかってきた状態をさします。
	着信拒否番号	着信拒否したい相手の電話番号を予め登録し、迷惑ファックスを受信しないようにする機能のことです。登録されている電話番号と着信電話番号が一致した場合、[着信拒否] とメッセージを表示し受信されません。
	中継配信局	中継指示局からの中継依頼を受けて、中継配信先に同報をするファックスのことです。本機には、中継配信の機能はありません。
	中継指示局	中継同報の指示をするファックスのことです。
	中継同報	他のファックス（中継配信局と呼びます）を経由して、同報送信をする機能のことです。同報先が遠隔地に複数ある場合、同報先のひとつを中継局に設定し、中継局から同報送信することで、全体の通信料金を削減することができます。
	長尺原稿	A3サイズ(420 mm)より長い、長尺サイズの原稿を送信する機能のことです。長い原稿を送信したい場合は、長尺原稿を指定することにより送信することができます。
	ディザ	白と黒の二色で、擬似的にグレーの濃淡を表現する手法の一つ。誤差拡散と比較して処理は簡単だが、ムラが発生する場合がある。
	デフォルト	初期設定値のこと。電源ボタンをオンにしたときに、あらかじめ選択されている設定。または、ある機能をオンにしたときにあらかじめ選択されている設定。
	電送時間	ファックスを送る時間のことです。解像度が高く、用紙サイズが大きいほど、電送時間が長くかかります。
	伝送速度	ファックスではモデムの伝送速度のことをいいます。本機では、33,600bpsなどの高速な伝送速度で通信できます。海外通信モードに設定しておくと、7200bpsや4800bpsのノイズに強い伝送速度で通信します。
	同報	ひとつの原稿を1回の操作で複数の相手に送信することです。
	ドライバー	コンピューターと周辺機器の橋渡しをするソフトウェアのこと。
な行	濃度	画像の濃さを表す量のこと。
	濃度補正	プリンターやディスプレイなどの出力装置において、色調を補正する機能のこと。
は行	パスワード送信	パスワードをつけて送信する機能のことです。相手機が閉域受信を設定している場合、送信側からは閉域受信パスワードと同じパスワードを送る必要があります。
	発信	電話をかけることをさします。ファックスでは、原稿を送信したり、ポーリングをするためにダイアルすることです。
	発信元名	漢字、英数力ナで表す自局の名称のことです。受信側で、送信原稿の先端に発信元印字の一部として記録されます。
	発信元記録	ファックス送信をしたときに、受信側の記録紙の先端に印刷される、送信日時、名前、電話番号、ページ番号などのことです。

	用語	説明
	ハードディスク	データを保存するための大容量記憶装置。 電源を OFF しても、データが保持される。
	ハーフトーン	画像の各部分の濃淡を、黒または白の点の大小で表現すること。
	ピア・ツー・ピア	専用のサーバーを使うことなく、接続された機器同士が、相互に通信可能なネットワーク形態のこと。
	ピクセル	画素のこと。画像を構成する最小単位。
	ビットマップフォント	文字の形を、ドットの集合で表したフォントのこと。文字サイズが大きくなると、ギザギザが発生する。
	ファックス ID	ファックス通信をするときに、お互いを確認するための識別コードのことです。通常は、ファックスの電話番号を登録します。
	副走査	原稿を読み取るときの縦方向のことです。
	ブック連写	本やカタログなどをファックス送信する場合に、表力バー、裏力バー、左右のページが分割され、それぞれ 1 ページとして送信できる機能のことです。
	プラグアンドプレイ	周辺機器を PC に接続した時に、適切なドライバーが自動検索されて使用可能になる仕組みのこと。
	プリンタードライバー	コンピューターとプリンターの橋渡しをするソフトウェアのこと。
	プリンターバッファ	印刷ジョブのデータ処理のために、一時的に利用されるメモリ領域。
	プリントキュー	スプーラにおいて、発生したプリントジョブを記憶しておくソフトウェアシステム。
	フレームタイプ	Netware 環境において使用される通信形式の種類のこと。 同じフレームタイプ同士でなければ、通信する事が出来ない。
	プレビュー	印刷／スキャン処理前に、あらかじめ処理後のイメージを表示する機能のこと。
	プログラム宛先	頻繁に送受信する宛先のファックス番号や、定型で使う送信の操作手順などを登録しておく機能のことです。プログラムキーを押すだけで、宛先を指定したり、自動的に機能を設定して通信することができます。
	プロトコル	コンピューターが他のコンピューターや周辺機器と互いに通信するための規約のこと。
	プロパティ	属性情報のこと。 プリンタードライバーを使用するときは、プロパティから様々な機能の設定を行う事ができる。 またファイルのプロパティでは、そのファイルの属性情報を確認する事ができる。
	閑域受信	パスワードが一致する相手機からの通信のみを受け付ける機能のことです。
	ホスト名	ネットワーク上の機器を表す名前のこと。
	ポーズ	間隔をあけてダイアルすることです。本機ではポーズを 1 回押すと、1 秒の間隔をあけることができます。
	ポート番号	ネットワーク上のコンピューター内で動いている複数の処理のそれぞれの通信口を識別する番号のこと。同一のポートを複数の処理で使用することはできない。
	ポーリング	相手側にセットされているか、またはメモリーに蓄積されている原稿を、受信側からの操作で送信させる機能です。
ま行	マルチページ TIFF	1 つのファイルに複数ページが含まれている TIFF ファイルのこと。
	メモリー	データを一時保存するための記憶装置のこと。 電源を OFF した時にデータが消去されるものと、消去されないものがある。
	メモリーオーバーフロー	読込んだ原稿や代行文書を蓄積しているときに、ファックス画像メモリーが一杯になった状態をいいます。
	メモリー送信	原稿を読み取り、メモリーに蓄積してからファックス送信を始める方法のことです。メモリー送信を使用すると、発信元記録のページ数に自動的に総ページ数が付けられ、送信結果レポートに送信文書の 1 ページ目の画像が記載されます。ただし、原稿のページ数が多い場合や、原稿の画質が細密なために情報量が多い場合はメモリーオーバーすることができます。

	用語	説明
や行	読み込み	原稿を光学的に走査して、画像データに変換して取り込むことです。
	読み込みサイズ	原稿を読み込むサイズを指定して送信する機能のことです。受信側の用紙幅が送信原稿より小さい場合、通常は縮小して記録されます。縮小したくない場合に、原稿サイズを受信側の用紙サイズに指定すると、原寸で送信することができます。
ら行	リダイアル	相手機が、話中のときなどに、時間をあけて再びダイアルをすることです。手動でリダイアルする方法と、自動的にリダイアルされる自動リダイアルがあります。
	両面とじ方向	ADFを使って両面原稿を送信する場合に原稿の綴じ位置を設定する機能です。両面原稿の綴じ位置には、原稿の上側（または下側）に綴じ位置がある上下綴じと、原稿の左（または右側）に綴じ位置がある左右綴じがあり、原稿の裏面の上下関係が異なります。
	リモート受信	外部電話からリモート受信番号を使って受信の指示をする機能のことです。
	ローカルプリンター	コンピューターのパラレル／USBポートに接続されたプリンターのこと。
わ行	枠消し	ADFを開いたまま原稿を読み取ったり、冊子になっている原稿を読み込むときに、上下左右に写る黒い影を消して送信することです。



第4章

索引

4.1 使用別索引

■ P

PageScope Web Connection を使う

PageScope Web Connection の管理者モードにログインする	1-6
PageScope Web Connection を使用する	1-4

■ か行

管理する

SNMP マネージャーで本機を監視する	1-81
本機のカウンター情報を E-mail で通知する	1-89
本機の状態を通知する (E-mail)	1-84
本機の状態を通知する (TRAP)	1-87

■ さ行

スキャンする

TWAIN スキャンで画像を取り込む	1-59
--------------------------	------

セキュリティを強化する

IPsec で通信する	1-117
IP アドレスフィルタリングを行う	1-113
管理者パスワードを設定する	1-146
自動ログアウト時間を設定する	1-145
スキャンしたデータを E-mail で送信する (公開鍵による暗号化)	1-32
スキャンしたデータを E-mail で送信する (デジタル署名の添付)	1-29
本機にユーザーの証明書を登録する	1-14
本機の証明書を作成して SSL で通信する	1-7
本機の証明書を取得する	1-13
本機を使用するユーザーを制限する (Active Directory)	1-97
本機を使用するユーザーを制限する (LDAP)	1-109
本機を使用するユーザーを制限する (NDS)	1-104
本機を使用するユーザーを制限する (Windows ドメイン／ワークグループ)	1-100
本機を使用するユーザーを制限する (本体装置認証)	1-93
ユーザーごとに参照できる宛先を制限する	1-143
ユーザーによる宛先登録を禁止する	1-144

設定する (ネットワーク設定)

IPv6 で通信する	1-114
TCP/IP で通信するための基本設定を行う	1-2

設定する (プリント機能)

PCL/PS/XPS プリントに関する設定を行う	1-153
タイムアウト時間を設定する	1-155
プリント機能の初期設定を行う	1-152

設定する (本体)

FTP サーバー /WebDAV サーバー機能を使用する	1-131
TCP Socket/OpenAPI/FTP サーバー機能を使用する	1-128
管理者パスワードを設定する	1-146
サポート情報を設定する	1-139
設定情報をインポート／エクスポートする	1-136
設定情報を初期化する	1-137
タイマー機能を使用する	1-135
本機の日時を設定する	1-16

送受信する (ファックス)

IP アドレスファックスを送受信する	1-54
--------------------------	------

SIP ファクスを送受信する	1-57
インターネットファクスを受信する	1-51
インターネットファクスを送信する	1-45

送信する（データ）

E-mail 送信の宛先を LDAP サーバーから検索する	1-35
スキヤンしたデータを E-mail で送信する	1-22
スキヤンしたデータを FTP で送信する	1-40
スキヤンしたデータを WebDAV で送信する	1-42
スキヤンしたデータを Windows コンピューターに送信する	1-18

■ た行**登録する**

E-mail アドレスの入力を簡易化する	1-176
E-mail の件名／本文を登録する	1-172
新しくシステムボックスを作成する	1-150
新しくボックスを作成する	1-148
一時的に利用する宛先を登録／編集する	1-171
外部サーバーに登録されたアプリケーションを使用する	1-173
グループ宛先を登録／編集する	1-160
短縮宛先を登録／編集する	1-156
プログラム宛先を登録／編集する	1-161

■ は行**プリントする**

プリントする (AppleTalk)	1-68
プリントする (Bonjour)	1-67
プリントする (IPPS)	1-66
プリントする (IPP)	1-64
プリントする (LPR/Port9100)	1-61
プリントする (NetWare)	1-69
プリントする (SMB)	1-62

4.2 項目別索引

A

- Active Directory 1-97
- APOP 認証 1-28
- AppleTalk 1-68
- AppleTalk 設定 2-9

B

- BMLinkS 1-125
- Bonjour 1-67
- Bonjour 設定 2-9

D

- Direct Hosting 1-20
- DNS サーバー 1-3
- DNS ドメイン名 1-3
- DNS ホスト名 1-3
- DSN 要求 1-49
- Dynamic DNS 1-3

E

- E-mail 1-22, 1-29, 1-32, 1-84
- E-mail宛先 1-14, 1-156, 1-161
- E-mail アドレス 1-176
- E-mail 件名 1-172
- E-mail 設定 2-7
- E-mail 本文 1-172

F

- Flash 1-5
- FTP 1-40
- FTP宛先 1-157, 1-162
- FTP サーバー 1-131
- FTP 設定 2-6

H

- http サーバー設定 2-6

I

- IEEE802.1X 1-121
- IPP 1-64
- IPPS 1-66
- IPsec 1-117
- IPv6 1-114
- IP アドレス 1-2
- IP アドレスファクス 1-54
- IP アドレスファクス宛先 1-159, 1-167
- IP アドレスフィルタリング 1-113
- IP 確定方法 1-2

L

- LDAP 1-35, 1-109
- LDAP over SSL 1-38, 1-111
- LDAP 設定 2-7
- LPD 1-61
- LPR 1-61

M

- MAC アドレス 1-3
- MDN 応答 1-53
- MDN 要求 1-49

N

- NDPS 1-72
- NDS 1-104
- NDS over TCP/IP 1-107
- NetBIOS 名 1-63
- NetWare 1-69
- NetWare 設定 2-5
- NTLM 1-19
- NTLM 認証 1-100
- NTP 1-17

O

- OpenAPI 1-128, 1-130

P

- PageScope Web Connection 1-4, 1-6
- PCL 1-153
- PDL 1-152
- POP 1-52
- POP before SMTP 1-26
- POP over SSL 1-27
- Port9100 1-61
- Prefix/Suffix 1-176
- PS 1-154

R

- RAW ポート 1-61
- ROM バージョン 1-141

S

- S/MIME 1-30, 1-33
- SIP ファクス 1-57
- SLP 1-59
- SMB 1-62
- SMB宛先 1-157, 1-163
- SMB 設定 2-6
- SMB 送信 1-19
- SMTP 1-23

SMTP over SSL	1-24
SMTP 受信	1-56
SMTP 送信	1-55
SMTP 認証	1-25
SNMP	1-81
SNMP 設定	2-8
SSDP	1-127
SSL	1-7, 1-78, 1-79
SSL 使用モード	1-11
Start TLS	1-24

T

TCP Socket	1-5, 1-128, 1-129
TCP Socket (ASCII Mode)	1-5
TCP Socket 設定	2-9
TCP/IP	1-2
TCP/IP 設定	2-4
TRAP	1-87
TWAIN	1-59

W

WebDAV	1-42
WebDAV over SSL	1-44
WebDAV宛先	1-157, 1-164
WebDAVサーバー	1-131
WebDAVサーバー設定	2-10
WebDAV 設定	2-10
Web サービス	1-74, 1-76
Web サービス設定	2-10
WINS	1-21
WS スキャン	1-76
WS プリント	1-74

X

XPS	1-155
-----------	-------

あ行

アイコン	1-159
宛先一括消去	1-138
宛先登録	1-144
宛先登録タブ	1-156
宛先登録変更許可	1-144
アプリケーション	1-173
暗号化	1-32
暗号強度	1-11
インターネットファクス	1-45, 1-51
インターネットファクス宛先	1-167
インターフェース	1-155
インポート	1-136
Wi-Fiクリータイマー	1-135
エクスポート	1-136

か行

外部サーバー	1-173
外部認証サーバー	1-97, 1-101, 1-104, 1-107, 1-110
外部メモリー	1-134
カウンター	1-89, 1-92
管理者アドレス	1-24
管理者設定	2-3
管理者パスワード	1-146
管理者モード	1-6, 1-145
機能有効化	1-142
給紙トレイ	1-152
グループ宛先	1-160, 1-168
掲示板ボックス	1-149, 1-150
公開鍵	1-32

さ行

サブネットマスク	1-3
サポート情報	1-139
参照許可グループ	1-143
参照許可設定	1-95
システムボックス	1-149, 1-150
詳細設定	2-11
証明書	1-7, 1-12, 1-13, 1-14
初期化	1-137
ステープル	1-152
スリープモード	1-135
セキュリティー	1-143
装置アドレス	1-47

た行

タイマー	1-135
タイムゾーン	1-17
ダイレクトホスティングサービス	1-20
ダウンロード	1-13
短縮宛先	1-156
中継ボックス	1-149, 1-151
低電力モード	1-135
デジタル署名	1-29
デフォルトゲートウェイ	1-3
トータルカウンター	1-91
とじ方向	1-152
ドメイン	1-100

な行

日時	1-16
ネットワーク設定	2-2, 2-4
ネットワーク設定クリア	1-137
ネットワーク速度	1-3
ネットワークファクス設定	2-9

は行

- 排紙トレイ 1-152
 発信元 1-48
 バナーシート 1-153
 パブリックユーザー 1-144
 パワーセーブ 1-135
 パンチ 1-152
 ファイリングナンバー・ボックス 1-150, 1-151
 ファクス ID 1-48
 ファクス宛先 1-158, 1-166
 部門管理 1-93
 部門登録 1-96
 プリンター設定タブ 1-152
 プロキシサーバー 1-41, 1-43
 プログラム宛先 1-161
 ヘッダー／フッター 1-140
 ボックス 1-147, 1-148
 ボックス宛先 1-158, 1-165
 ボックスタブ 1-147
 本体装置認証 1-93
 本体登録 1-47

ま行

- メンテナンス 1-134

や行

- ユーザー登録 1-94
 ユーザー認証 1-93, 1-98, 1-102, 1-105, 1-108,
 1-111
 ユーザーモード 1-145
 用紙サイズ 1-152

ら行

- リクエストコード発行 1-141
 リセット 1-138
 両面印刷 1-152
 ログアウト 1-145
 ログイン 1-6

わ行

- ワークグループ 1-63, 1-100

お問い合わせは

■ 販売店連絡先

《販売店 連絡先》	
販売店名	<hr/>
電話番号	<hr/>
担当部門	<hr/>
担当者	<hr/>

■ 保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ

この商品の保守・操作方法・修理・サポートについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、サービス実施店にご連絡ください。

《保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ先》	
TEL	<hr/>

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号

当社についての詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。 <http://bj.konicaminolta.jp>

当社に関する要望、ご意見、ご相談、その他お困りの点などございましたら、お客様相談室にご連絡ください。
お客様相談室電話番号 フリーダイヤル：0120-805039（受付時間：土、日、祝日を除く9:00～12:00 / 13:00～17:00）



KONICA MINOLTA

国内総販売元
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

製造元
コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービルディング

Copyright

2008 KONICA MINOLTA BUSINESS TECHNOLOGIES, INC.